

授 業 計 画

平成 29 年度

# *Syllabus 2017*

---

現代ビジネス学部 現代ビジネス学科

平成29～28（2017～2016）年度入学者

共通教育科目

《共通教育科目 建学の精神》

科目名	宗教と人生		科目ナンバリング	BFOL11001
担当者氏名	本多 彩			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、兵庫大学の「建学の精神」と仏教について理解を深める。また宗教へ多角的にアプローチすることによって宗教に対する理解を進める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《授業の到達目標》

- ・「建学の精神」への理解を深め、自らの言葉で説明できるようになり、兵庫大学学生としての自覚を涵養する。
- ・日常生活領域に潜むさまざまな宗教を通して、①人間や世界や生や死について考え自分自身を見つめなおしていくきっかけとし、②異文化や他者理解を促進する。
- ・社会で起こっている様々な課題を仏教という視点からとらえなおし説明することができる。

《成績評価の方法》

受講態度（講義中の質問、建学の精神に関する宗教行事への参加を含む）30%、レポート 20%、定期テスト50%、この3項目で評価する。  
分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

建学の精神に関連する宗教行事への積極的な参加  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～  
 宗教セミナー  
 宗教ツアー  
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。  
 仏教の本を読んでみよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教についてその機能を理解し説明することができる。
2	宗教の種類	分布や特徴によって分けられる宗教の種類を理解し説明することができる。
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性について理解し説明することができる。
4	建学の精神①	建学の精神である和と聖徳太子について学び説明することができる。
5	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内の宗教施設をめぐるという体験を通して各施設の説明をすることができるようになり、建学の精神への理解を進める。
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学び説明することができる。
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。
9	仏教を知る①	建学の精神にある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解し説明することができる。
10	仏教を知る②	初期仏教の展開と社会とのかかわりについて学び説明することができる。
11	仏教を知る③	大乘仏教の広がりや特徴について理解し説明することができる。
12	日本の仏教を知る①	日本仏教の特徴と展開について理解し説明することができる。
13	日本の仏教を知る②	日本の浄土系仏教の流れと教えについて理解し説明することができる。
14	建学の精神③	兵庫大学の建学の精神について理解を深め共有しお互いに説明し合うことができる。
15	建学の精神④	兵庫大学生としての誇りを持ち、建学の精神と自身の将来との関連を自分の言葉で説明することができる。

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	BFOL21002
担当者氏名	本多 彩			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

宗教研究は民俗学・民族学や人類学や社会学など多くの学問領域と関連する学際的性格をもつ。周りを観察するといかに仏教が生活や思想に関わっているかに気づく。本講義では幅広く仏教と文化について解説し、さらに仏教と人間・グローバル社会・生と死・医療・環境等についての理解を深める。仏教と現代社会や文化について理解し自分自身を見つめるきっかけとする。

《授業の到達目標》

※身近にある仏教について考え説明することができる。  
 ※仏教と現代社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解し説明することができる。  
 ※浄土系の教えについて理解を深め社会とのかかわりについて理解し説明することができる。

《成績評価の方法》

受講態度（宗教行事への参加、講義中の質問も含む） 30%  
 レポート 30%  
 期末プロジェクトと発表 40%  
 この3項目で評価する。  
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。  
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～  
 宗教セミナー

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解し説明ができる。
2	仏教の教え(1)	仏教の歴史と基本となる教えについて説明することができる。
3	仏教の教え(2)	仏教の教えについて説明することができる。
4	日本社会と仏教①	日本文化と仏教の関連について理解し説明することができる。
5	日本社会と仏教②	日本人の暮らしと仏教の関連について理解し説明することができる。
6	日本社会と仏教③	日本人の死生観と仏教について理解し説明することができる。
7	日本社会と仏教④	日本社会で起きている問題について仏教の視点を理解し説明することができる。
8	グローバル化と仏教①	仏教の視点からグローバル化や宗教多元社会について考え説明することができる。
9	グローバル化と仏教②	海外でみられる仏教の広がりについて学び説明することができる。
10	グローバル化と仏教③	世界的な規模で起きている社会問題について仏教の視点をもって理解し説明することができる。
11	現代社会と浄土仏教①	浄土仏教の教えの特徴とその展開について学び説明することができる。
12	現代社会と浄土仏教②	海外展開する浄土仏教について理解し説明することができる。
13	現代社会と浄土仏教③	現代社会がかかえる課題について浄土仏教の視点から取り上げ、考えて説明することができる。
14	仏教と現代社会	仏教の教えと現代社会のつながりを整理し発表することができる。
15	仏教と現代社会（まとめ）	現代社会と仏教の関連について関心を持ったテーマで整理し発表することができる。

《共通教育科目 建学の精神》

科目名	兵庫大学の学びと和		科目ナンバリング	BFOL21003	
担当者氏名	本多 彩、北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

兵庫大学は聖徳太子の説かれた和を建学の精神とし、太子や創始者の先生方が貴ばれた仏教を大切にしています。本講義では建学の精神について深く学びます。教員によるオムニバス形式の講義を通して、所属する学科の専門教育と建学の精神のつながりについて理解を進めます。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

入学時に配布した「ふんだりーか」と『仏教聖典』

《授業の到達目標》

本講義の目的は兵庫大学の建学の精神を深く知り建学の精神が自らの学びとどのように関連しているかを理解することです。  
 ・本講義では聖徳太子の説かれた和、そして仏教について学び説明できるようになります。  
 ・建学の精神があなたの学科の専門教育とどのように関係しているのかを知り伝えることができるようになります。

《授業時間外学習》

現在履修している専門科目授業の中で、建学の精神とつながっていると思うことを発見しよう。  
 一度、仏教の本を読んでみましょう。

《成績評価の方法》

講義への積極的な参加・建学の精神に関連する宗教行事への参加 50%  
 レポート・課題・提出物 50%  
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	兵庫大学の歴史	兵庫大学の歴史を学び説明することができる。
2	兵庫大学と建学の精神	建学の精神と兵庫大学が掲げる人間力、実践力について学び説明することができる。
3	兵庫大学の建学の精神と仏教①	兵庫大学の建学の精神である和と仏教について学び説明することができる。
4	兵庫大学の建学の精神と仏教②	兵庫大学の創始者である3人の先生と和と仏教との関連を理解し説明することができる。
5	兵庫大学の教育と建学の精神の重要性	大学教育で建学の精神が重要であることを学ぶ。
6	健康システム学科の学びと和	健康システム学科の専門教育と和について学び説明することができる
7	社会福祉学科の学びと和	社会福祉学科の専門教育と和について学び説明することができる。
8	日本の仏教① 聖徳太子と仏教	聖徳太子の時代の仏教について学び十七条憲法にある和と仏教について理解を深め説明することができる。
9	日本の仏教② 龍谷総合学園	浄土系の仏教について学び本学との関係について説明することができる。
10	現代ビジネス学部の学びと和	現代ビジネス学科の専門教育と和について学び説明することができる。
11	栄養マネジメント学科の学びと和	栄養マネジメント学科の専門教育と和について学び説明することができる。
12	看護学部の学びと和	看護学部の専門教育と和について学び説明することができる。
13	こども福祉学科の学びと和	こども福祉学科の専門教育と和について学び説明することができる。
14	兵庫大学と建学の精神	話し合いを通して各学科の学びと和について理解を深め、整理して説明することができる。
15	兵庫大学と建学の精神 (まとめ)	兵庫大学の学びと和について自らの言葉で伝えることができる。

科目名	日本語(読解と表現)		科目ナンバリング	BCOS11001
担当者氏名	野田 直恵、辻本 恭子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
	1年・I期			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

大学での学習・就職活動および、日常生活・社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・文章表現法・敬語の用法といった日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。原則として、課題の答え合わせ・説明のあと、設問に取り組むというスタイルで授業をすすめる。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、内容が伝わりやすい文や文書の書き方、敬語の適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって日本語についての知識を深め、コミュニケーション能力を高める。

《成績評価の方法》

6回以上欠席した場合は単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。提出物には状況に応じてコメントを付し、返却する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 漢字の習得	授業についての説明 ※ ( ) はテキストの該当箇所。 (第1課) 「漢字習得の近道」漢字を習得するための効果的な方法
2	敬語の種類 同音異義語	(第25課) 「待遇表現①」さまざまな敬語の種類とその用法 (第2課) 「同音異義語」同音異義語の識別方法
3	敬意の表現 同訓異義語	(第26課) 「待遇表現②」敬語の使い分けや言い回しを通じた敬意の表現法 (第3課) 「同訓異義語」同訓異義語の識別方法
4	手紙の形式 生活の中の難読語	(第15課) 「手紙と葉書①」手紙などの基本的な書き方 (第4課) 「音訓と熟語」特別な読み・難しい読みの日常語
5	手紙の文面 熟語の成り立ち	(第16課) 「手紙と葉書②」手紙や葉書の文面を書くときの注意点 (第5課) 「熟語の構造」熟語の意味のとらえ方
6	一般的な文書の書式 生活の中の四字熟語	(第20課) 「ビジネス文書」会社などにおける書類の形式 (第6課) 「四字熟語」誤用しやすい四字熟語
7	さまざまな文書の書式 送り仮名の付け方	(第17・21課) 「日誌」・「案内状」さまざまな文書の書式 (第7課) 「仮名遣いと送り仮名」仮名と日本語
8	文の書き方 生活の中の慣用表現	(第8課) 「文のしくみ」文の内容をわかりやすくする工夫 (第13課) 「慣用表現の誤用」慣用表現の本来の意味と誤用の例
9	文と文章 日本語の表記	(第9・10課) 「文章構成」・「文章の要約」文章としての文の組み立て方 (第14課) 「原稿用紙の使い方」縦書き・横書きにおける表記法の違い
10	思考と言葉 感情と言葉	(第11・12課) 「アイデアの開発」・「レトリック」柔軟な発想と道具としての言葉 (第24課) 「広告のキャッチコピー」言葉が感情に与える作用
11	文章をまとめる方法 他者の文章に学ぶ事	(第22課) 「レポート・小論文」論文の基本的な構造 (第23課) 「論説文と批評文」目的によって異なる文章の書き方
12	自身について知るべき事 自身を表現する手段	(第18・19課) 「履歴書」・「エントリーシート」言葉がもたらす印象 (第30課) 「面接の作戦・自己アピール」言葉の効果的な使い方
13	敬語表現の応用	(第27・28課) 「来客の応対」・「電話の応対」敬語表現の復習
14	言葉が表現にしめる位置	(第29課) 「プレゼンテーション」総合的な表現
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《テキスト》

丸山顯徳編『キャリアアップ国語表現法』(嵯峨野書院)

《参考図書》

資格試験対策研究会編『漢字検定2級頻出度順問題集』(高橋書店)  
佐藤一明『秘書検定3級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)  
佐藤一明『秘書検定2級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)  
他は授業時に紹介する。

《授業時間外学習》

当日の授業の復習をしたうえで与えられた課題を解き、次回の授業で取り組む内容を予習しておく。また、日本漢字能力検定などの受検も視野に入れた学習を心がけるようにする。  
わからないことは担当者に遠慮なく質問してください。

《備考》

国語辞典(電子辞書可)の積極的な活用を心がけること。  
テキスト改訂により学習内容を変更する場合がある。

科目名	英語	科目ナンバリング	BCOS11002
担当者氏名	澤山 明宏		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、社会、文化、人間関係など「実際に直面するテーマで、実際に使われる表現を中心に」英語によるコミュニケーション力の基礎を身につけることを目的とします。そのために、ペア・グループ活動を通して、英語で聞き、話すことに重点を置き、主体的かつ積極的な「インタラクティブなコミュニケーション」の演習の場とします。

《テキスト》

Marc Helgesen、Steven Brosn他著「English Firsthand Access」（ロングマン出版）ISBN: 9789880030574

《参考図書》

指定参考書は特になし。英語力向上に役立つ参考書、資料などは授業中に適宜紹介していきます。

《授業の到達目標》

日常語500語程度を使って次のことができるようになる：  
 (1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる  
 (2) 話す：身の回りの出来事（自己紹介、家族、興味・関心事など）について意見交換をできる

《授業時間外学習》

受講生同士でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行ってください：  
 (1) 予習：授業範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文の音読に慣れる  
 (2) 復習：会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

(1) 授業への取り組み：30%  
 (2) 2回実施の復習テスト：30%  
 (3) プレゼンテーション：40%  
 ＊上記の評価については都度、受講生に個別に伝え、学習の指針を提供していきたい。

《備考》

受講生の関心、英語のレベルを勘案しながら、授業計画を調整する場合があります。復習には特にラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンの活用を勧めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明
2	Unit 1: How are you?	友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: Do you understand?	指示や確認の仕方をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: This is my room	部屋の描写などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: When do you get up?	日課をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
6	Unit 5: Who's this?	家族や性格をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Unit 6: That's a great shirt!	買い物や好みをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	1)Unit1からUnit6までで学習した内容の復習テストを実施する 2)Unit1からUnit6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
9	Unit 7: I love weekends!	週末の自由時間をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: Let's eat!	食べ物や食事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: I really enjoy it!	好きな活動をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: Welcome to my home	日常生活をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: Where did you go?	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Unit 12: Will I be famous?	未来の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	1)Unit7からUnit12までで学習した内容の復習テストを実施する 2)Unit7からUnit12で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う

科目名	英語	科目ナンバリング	BCOS11002
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、「社会、文化、人間関係」をテーマに、英語コミュニケーションの真髄である「できる・できない」に関わらず、英語で発信すること大切さを理解し、その基礎を身につけることを目的とする。そのために、ペア・グループ活動を通して、英語で聞き、話すことに特に重点を置き、「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《授業の到達目標》

英語の4技能である「聴き、話し、読み、書く」のうち、「聴き、話す」において、日常語500語程度を使って次のことができるようになる：

- 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；
- 2) 話す：身の回りの出来事（自己紹介、家族、興味・関心事など）について意見交換できる

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：

- |          |     |       |     |
|----------|-----|-------|-----|
| 1) 授業参加  | 30% | 2) 課題 | 20% |
| 3) 復習テスト | 20% | 4) 発表 | 30% |
- フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《テキスト》

Marc Helgesen, Steven Brosn他著「English Firsthand Success (4th edition)」(ロングマン出版)  
ISBN: 9789880030581

《参考図書》

なし

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：  
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；  
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	指導方針説明
2	Unit 1: It's nice to meet you	友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: I love fashion	ファッションをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: How do you stay healthy?	健康をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: How do I get there?	道案内をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話にて応用する
6	Unit 5: What's that?	物の描写をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読みに応用する
7	Unit 6: What's your dream?	将来の夢をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	1) Unit 1からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 1からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
9	Unit 7: It was great!	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: How much do you know?	自然をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: She can really sing!	得意なことをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: What do you like to do?	好き・嫌いをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: Of course you can	生活のルールをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Unit 12: What happened next?	物語をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	1) Unit 7からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 12で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う

科目名	英語	科目ナンバリング	BCOS11002
担当者氏名	野嵜 一恵		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、「社会、文化、人間関係」をテーマに、英語コミュニケーションの真髄である「できる・できない」に関わらず、英語で発信すること大切さを理解し、その基礎を身につけることを目的とする。そのために、ペア・グループ活動を通して、英語で聞き、話すことに特に重点を置き、「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《授業の到達目標》

英語の4技能である「聴き、話し、読み、書く」のうち、「聴き、話す」において、日常語500語程度を使って次のことができるようになる： 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる； 2) 話す：身の回りの出来事（自己紹介、家族、興味・関心事など）について意見交換できる

《成績評価の方法》

成績評価は日頃の学習の積み重ねを重視し次の項目で評価する  
 1) 授業参加(小テスト) 50%、2) 復習テスト 20%、  
 3) 発表 30%  
 復習テストはテスト用紙に、発表は別の用紙に、それぞれコメントを記入して返却・配布する。

《テキスト》

Marc Helgesen、Steven Brosn他著「English Firsthand Access」(ロングマン出版) ISBN: 9789880030574

《参考図書》

適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：  
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；  
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明
2	Unit 1: How are you?	友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: Do you understand?	指示や確認の仕方をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: This is my room	部屋の描写などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: When do you get up?	日課をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
6	Unit 5: Who's this?	家族や性格をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Unit 6: That's a great shirt!	買い物や好みをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	1) Unit 1からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する； 2) Unit 1からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
9	Unit 7: I love weekends!	週末の自由時間をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: Let's eat!	食べ物や食生活をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: I really enjoy it!	好きな活動をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: Welcome to my home	日常生活をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: Where did you go?	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Unit 12: Will I be famous?	未来の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	1) Unit 7からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する； 2) Unit 7からUnit 12で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	BCOS21003
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、基礎教の「英語」で身につけたリスニング・スピーキングの基礎力をさらにレベルアップすることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する

《テキスト》

Susan Stempleski他著「World Link 3rd Edition: Intro Combo Split B」(センゲージ出版) ISBN:978-1-3056-4780-0

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

日常語800語程度を使って次のことができるようになる：  
 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；2) 話す：身の回りの出来事(日課、人間関係、仕事など)について意見交換できる；3) 読む：読んだ内容について話し合える；4) 書く：聞き、話し、読んだ内容を基にまとまった英文が書ける

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：  
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；  
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：  
 1) 授業参加 30% 2) 課題 20%  
 3) 復習テスト 20% 4) 発表 30%  
 フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 7: Time	授業方針説明； A: 日課などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み・書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
2	Unit 7: Time	B: 週末・余暇の過ごし方などをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
3	unit 8: Special Occasions	A: 休日、祭りをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
4	unit 8: Special Occasions	B: 祭りについてプレゼンテーションを行う。そのために必要な、語彙、文法を学ぶ
5	Unit 9: Come Together	A: 休日、友達関係をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
6	Unit 9: Come Together	B: デートをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
7	Review Quiz& Presentation	1) Unit 7からUnit 9までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 9で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
8	Unit 10: Home	A: 休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
9	Unit 10: Home	A: 休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
10	Unit 11: Clothing	A: 衣服、買い物などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
11	Unit 11: Clothing	B: ファッションをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
12	Unit 12: Jobs	A: アルバイトなどの仕事をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
13	Unit 12: Jobs	B: 将来のキャリアをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
14	Review Quiz& Presentation	1) Unit 10からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 10からUnit 12で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
15	Presentation and General Review	1) 前回ははじめたプレゼンテーションを実施する；2) 全体のまとめ

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	BCOS21003
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

このコースに、日本語を話せる外国人講師が、親切指導をしながら、国際理解とコミュニケーション能力を目指すものである。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を評価する。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分からないことはoffice hours等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	My Interests	趣味・興味を述べる
3	Geography	地理学を語る
4	Weather	気候や天気を述べる
5	Everyday Activities	日常活動を喋る
6	Life Experiences	人生の主な体験を語る
7	School Subjects	学内の教科・科目について語る
8	At School	大学にて。。話し合い
9	Phone Messages	電話で英語を
10	Favors and Requests	依頼とお願いを述べる
11	Wishes	将来の希望
12	Opinions	意見を述べる事
13	Getting Away	海外へ旅行
14	Talking About Sports	暇とスポーツ活動
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	BCOS21003
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につける。特にリスニングパートでは、ディクテーションや発話活動を通して英語独特のリズムや発音に慣れる。文法パートでは、基本的な文法事項を再確認する。

《テキスト》

Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC Test Listening and Reading Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』（桐原書店、2018年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。学習した文法事項を使って日常の出来事を英作文できるようにする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、ディクテーションや音読の練習などに活用すること

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

小テストやレポートにコメントを付けて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	BCOS22004
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、海外旅行、留学など、海外（英語圏）で生活・行動するのに必要な異文化理解及びコミュニケーションの応用力を身につけることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《テキスト》

『English Firsthand1』 Marc Helgesen他著 ロングマン出版  
ISBN: 9789880030598

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

(1) 英語圏で生活・行動するのに必要な日常的话题でコミュニケーションができる。(2) 基礎的な文法・語彙(1000語程度)・表現を使って読み書きができる(3) 海外で生活・行動において、文化の違いが理解できる

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：  
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；  
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：

- 1) 授業参加 30% 2) 課題 20%  
 3) 復習テスト 20% 4) 発表 30%

フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明
2	Unit 1: It's nice to meet you	友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: Who are they talking about?	人物描写や家族をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: When do you start?	日課や予定をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: Where does this go?	場所の描写をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
6	Unit 5: How do I get there?	道案内などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Unit 6: What happened?	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	1) Unit 1からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 1からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
9	Unit 7: I'd love that job	仕事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: What's happening?	娯楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: What are you going to do?	未来の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: How much is this?	買い物をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: How do you make it?	料理などの作り方をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Unit 12: Listen to music	音楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	1) Unit 7からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 12で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	BCOS22004
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力		

《授業の概要》

このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《テキスト》

Four Corners Student Book One (後半)。

《参考図書》

各授業、歌を勉強し、歌詞を配る。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

試験をせず、出欠のみで成績を評価。

《備考》

全員活発的に参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Breakfast, lunch & dinner.	食事の好みを説明する。
2	Restaurants	レストランで食事を注文する。
3	Daily diet.	食生活を喋る。
4	Around Town	近所を説明する。
5	"How do I get to...?"	方向を聞くと説明する。
6	Fun in the city.	観光案内所に情報を得る。
7	"I'm looking for you"	自分の行動を説明する。
8	"I can't talk now"	電話の話。
9	These days...	日常の生活を語る。
10	"What's new?"	メールの正しいやり取り。
11	Last weekend.	過去の行動を説明する。
12	"You're kidding!"	びっくりするの表現。
13	Getting Away	過去の行動を説明する-part 2.
14	"That's great!"	ニュースを聞き、反応する。
15	We're Finished!	最後のレッスンー大復習。

科目名	実用英語Ⅱ	科目ナンバリング	BCOS22004
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、TOEICテストの新問題形式に慣れるとともに、必要な情報を的確に捉える力を身につける。リスニングパートではディクテーションや発話活動を取り入れながら応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。文法パートでは基本的な文法事項を再確認する。TOEICに必要な語いを強化するため、定期的に単語テストを実施する予定である。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

Hiroshi Yoshizuka, Michael Schauerer 『Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test: Revised Edition』(成美堂、2017年)

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、ディクテーションや音読の練習などに活用すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test
2	Unit 1 Restaurant1	リスニング：疑問詞を聞き取る。 文法：代名詞①（人称代名詞）
3	Unit 2 Entertainment1	リスニング：助動詞の時制を聞き取る。 文法：代名詞②（不定代名詞と再帰代名詞）
4	Unit 3 Business	リスニング：前置詞から場所を連想する。 文法：時制①（現在、過去の時制）
5	Unit 4 Office	リスニング：人名、肩書き、部署名を連想する。 文法：時制②（現在完了）
6	Unit 5 Telephone	リスニング：理由を述べている文章を探す。 文法：前置詞①（時、期間を表す前置詞）
7	Unit 6 Letter & E-mail	リスニング：「方法」や「具合」を問う形に慣れる。 文法：前置詞②（位置、場所を表す前置詞）
8	Unit 7 Health	リスニング：分量や頻度、程度を問う形を覚える。 文法：数量形容詞
9	Unit 8 Bank & Post Office	リスニング：所要時間、頻度、距離を尋ねる形を覚える。 文法：動詞（自動詞と他動詞）
10	Unit 9 New Products	リスニング：勧誘の表現を覚える。 文法：接尾辞①（形容詞を作る接尾辞）
11	Unit 10 Travel①	リスニング：話者の意図を考える。 文法：接尾辞②（副詞を作る接尾辞）
12	Unit 11 Travel②	リスニング：否定疑問文の形を覚える。 文法：分詞構文
13	Unit 12 Job Applications	リスニング：話者が期待する具体的な行動を聞き取る。 文法：比較
14	Unit 13 Shopping	リスニング：付加疑問文の形を覚える。 文法：受動態
15	Review	Review Test

科目名	実用英語Ⅲ		科目ナンバリング	BCOS22005	
担当者氏名	笹平 康弘				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

この授業は、「実用英語II」をさらに発展させ、「社会、文化、人間関係」をテーマに、英語で発信すること大切さを理解し、その応用力を身につけることを目的とする。そのために、ペア・グループ活動を通して、英語で聞き、話すことに特に重点を置き、「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《テキスト》

「English Firsthand (4th edition) 2」 Marc Helgesen, Steven Brown著 ロングマン出版

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

英語の4技能である「聴き、話し、読み、書く」のうち、特に「聴き、話す」において、日常語1500語程度を使って次のことができるようになる：

- 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる
- 2) 話す：家族、興味・関心事、文化、社会などについて意見交換できる

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：

- |          |     |       |     |
|----------|-----|-------|-----|
| 1) 授業参加  | 30% | 2) 課題 | 20% |
| 3) 復習テスト | 20% | 4) 発表 | 30% |
- フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：  
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；  
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

受講時の英語力として、英検3級、TOEIC300点程度もしくはそれ以上が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明
2	Unit 1: Have you two met?	友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
3	Unit 2: You must be excited!	人間の感情表現をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
4	Unit 3: Where should I go?	旅行などで使う意見交換や個人的経験をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
5	Unit 4: I love that!	興味や意見をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
6	Unit 5: What's your excuse?	日常生活で起こる問題をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
7	Unit 6: What's it like there?	異文化をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
8	Review & Presentation	復習として、Unit1から6までの範囲で小テストを実施し、2分程度のプレゼンテーション（テーマは自由）を行う
9	Unit 7: Do you remember when...?	過去の出来事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
10	Unit 8: Let's have a party!	パーティー、レジャーなど娯楽をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
11	Unit 9: What should I do?	日常生活で起こる問題をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
12	Unit 10: Tell me a story	物語ををテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
13	Unit 11: In my opinion ...	世界情勢ををテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
14	Unit 12: It's my dream!	将来の夢・目標ををテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に応用する
15	Review & Presentation	復習として、Unit7から12までの範囲で小テストを実施し、2分程度のプレゼンテーション（テーマは自由）を行う

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	BCOS21006
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

※課題にはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳淑梅・劉光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。  
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	BCOS21007
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』  
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。  
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
  - ①CDを聞くこと
  - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

※課題にはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	BCOS21008
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようになる。文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
  - 2) 課題等の提出物20%
  - 3) 定期試験60%
- 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか?」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	BCOS21008
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前回到学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 期末テスト60%
- 4) 小テストやレポートにコメントを付して返却し、授業の到達目標に対し全体の講評を行い次年度目標に反映させる。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか?」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	BCOS21009
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
  - 2) 課題等の提出物20%
  - 3) 定期試験60%
- 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
2	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使える。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使える。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	BCOS21009
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 期末テスト60%
- 4) 小テストやレポートにコメントを付して返却し、授業の到達目標に対し全体の講評を行い次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
2	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使える。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使える。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

科目名	コンピュータ演習		科目ナンバリング	BCOS11010
担当者氏名	榎木 浩、堀池 聡、西田 悦雄			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ◎ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

本学計算機実習室のコンピュータを使うための基礎的な知識や技術を学習します。また、情報化社会の基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際して、その利便性や危険性など情報化社会で必要不可欠な「情報倫理」などの知識も修得します。

《テキスト》

毎回授業で資料を配布します。資料は事前に関覧できます。

《参考図書》

必要に応じて紹介します。

《授業の到達目標》

- (1) 情報共有や情報伝達のための電子メールが活用できる。
- (2) Webブラウザを使った検索等の操作ができ、情報収集ができる。
- (3) 情報倫理に従いコンピュータネットワークで行動できる。
- (4) レポート作成に用いる文書作成ソフト、表計算ソフト、発表のためのプレゼンテーションソフトの各操作が行え、活用できる。

《授業時間外学習》

e-ラーニングで配付する資料は期終了まで自由に閲覧できるため、事前事後に配付資料を熟読し理解を深めて下さい。課題作成は授業時間内を基本としますが、不足分は時間外学習で作成してe-ラーニングで提出してください。

《成績評価の方法》

課題の提出状況(20%)と課題内容(80%)を総合的に評価します。e-ラーニングで提出した課題についてコメントを付ける。

《備考》

道具としてのコンピュータをうまく使いこなせ、生活の一部であるネットワークでモラルをもって行動できることを望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の内容説明、計算機実習室利用のための手続きと初期設定（パソコン、電子メール、e-ラーニングなど）
2	Windows操作と電子メールの活用	Windows端末の基礎操作、電子メールの送受信、メールの本文やマナー
3	情報モラル	情報倫理と情報セキュリティ、情報倫理に従ったネットワークでの行動を事例により学習
4	コンピュータの基礎知識	コンピュータの歴史、ハードウェア、OS、アプリケーションソフト、情報理論を簡単に説明
5	Webとネットサービスの活用	Webブラウザの操作方法、WebページとHTML、WebサーバーとHTTP、検索サイトを使った情報収集
6	情報の利活用：文書作成(1)	文書作成ソフト（MS Word）の基本操作（文書校正、段落番号、箇条書き、書式設定）
7	情報の利活用：文書作成(2)	ヘッダーとフッター、表・図・写真の挿入、図形描画の操作
8	情報の利活用：文書作成(3)	習得した機能を全て用いて、ビジネス文書を作成する。
9	情報の利活用：プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションソフト（MS PowerPoint）の基本操作（スライドの作成、文字の入力、図・画像などの挿入、図形描画）
10	情報の利活用：プレゼンテーション(2)	スライドの組み立て、デザイン・フォント、ヘッダーとフッター、スライドショー、印刷の各操作と企画シートに従ったスライドの作成
11	情報の利活用：プレゼンテーション(3)	作成したパワーポイント資料を発表し、相互評価を行う。
12	情報の利活用：表計算(1)	表計算ソフト（MS Excel）の基本操作、編集操作（データ入力、行と列の操作、ヘッダーとフッター、ページレイアウト）
13	情報の利活用：表計算(2)	データをもとに主な関数を操作（合計、四則演算、平均、カウント）とグラフ作成（折れ線、棒、円、横棒）
14	情報の利活用：表計算(3)	相互参照と絶対参照、IF関数の操作、習得した機能を活用した総合課題
15	まとめ	到達度確認とまとめ

科目名	コンピュータグラフィックスの基礎		科目ナンバリング	BCOS21011
担当者氏名	稲富 恭、佐竹 邦子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ◎ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力）			

《授業の概要》

デザインは従来、専門職（デザイナー）が行う分野であったが、近年のデザイン用ソフトウェアの普及に伴い、社会人に求められる能力のひとつになりつつある。本授業では、初心者を対象にグラフィックソフトウェア（Adobe社）の操作について学ぶとともに、それらを用いた作品制作を行い、デザイン基礎力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜、プリントを配布する。

《参考図書》

宮川修, 鈴木貴子: 「実践力を身につける Photoshop+Illustrator 集中講座」, マイナビ

《授業の到達目標》

- ・ Adobe Photoshop、Illustrator、InDesign 等の基礎的操作を習得する
- ・ 案内チラシ、プレゼンテーションパネル等のデザインに必要な基礎的能力を身につける

《授業時間外学習》

予習: シラバスを参考に課題制作に必要な資料を収集する。  
 復習: 未完成課題の制作を行う。授業内容を元に操作の習熟につとめ、自主的に作品制作を行う。

《成績評価の方法》

- ・ 提出されたデザイン課題によって成績を評価する。
- ・ 課題は提出後、講評を行う。
- ・ 評価の内訳は、操作の習熟度に関する評価(50%)、デザインに関する評価(50%)とする。

《備考》

・ 教室設備の都合により、受講者の定員は20名である。希望者が定員を超える場合、1回目の授業で抽選を行う。またその場合、2回目の授業からの受講はできない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ビジネススキルとして求められるデザインスキルについて理解する。※受講者が定員を超える場合は抽選を行う。
2	Illustratorの基本的操作(1)	Illustratorの基本操作、文字、オブジェクトの作成、レイヤーの操作について理解する。〈課題〉案内地図を作成する。
3	Illustratorの基本的操作(2)	オフセット印刷、特色印刷について理解する。名刺をデザインする。
4	Illustratorの基本的操作(3)	ベジェ曲線等の操作について理解する。ロゴの制作を行う。
5	Photoshopの基本的操作(1)	画像データの形式、Photoshopの基本操作、写真の補正、加工について理解する。持参した写真の加工を行う。
6	Photoshopの基本的操作(2)	プレゼンテーション・スライドの作成を前提とした画像データの作成を行う。パワーポイントのスライドを作成する。
7	ポストカードの制作	Illustrator、Photoshop、InDesignの連携について理解する。季節のポストカードをデザインする。
8	二つ折りパンフレットの作成(1)	パンフレットのデザインを行う。デザインバリエーションを検索し、手書きスケッチによるエスキスを行う。
9	二つ折りパンフレットの作成(2)	Illustrator、Photoshop、InDesignの連携について理解する。エスキスをもとに、パンフレットのデザインを行う。
10	プレゼンテーションパネルの作成(1)	Excel等の数的データの変換、加工について理解する。ポスターセッション等の発表を前提としたプレゼンテーションパネルのデザインを行う。
11	プレゼンテーションパネルの作成(2)	レイアウトのバリエーションについて理解する。ポスターセッション等の発表を前提としたプレゼンテーションパネルのデザインを行う。
12	イベント告知チラシの作成(1)	実施予定の報告会、講演会、イベント等に使用する告知チラシのデザインを行う。
13	イベント告知チラシの作成(2)	実施予定の報告会、講演会、イベント等に使用する告知チラシのデザインを行う。
14	イベント告知チラシの作成(3)	イベント告知チラシのプレゼンテーション、講評を行う。
15	習熟度確認のための作品制作	授業時間内に与えられた課題の制作を行う。

《共通教育科目 国際理解》

科目名	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）		科目ナンバリング	BINL21001
担当者氏名	野世 英水			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

キリスト教は世界宗教として国際社会のさまざまな問題と深くかかわっている。この講義ではキリスト教の基礎を学ぶとともに、現代の国際社会におけるいくつかの問題を取り上げ、それら問題とキリスト教とのかかわりについて考えていくこととしたい。そこでは国際社会の諸問題をキリスト教という宗教より見ていくとき、また新たな視野がひろがっていくことに気づかされるであろう。

《授業の到達目標》

- ・キリスト教の教えや歴史の基礎を理解できるようになる。
- ・国際社会の諸問題についての認識を深め、それら諸問題とキリスト教とのかかわりについて理解できるようになる。

《成績評価の方法》

授業参加態度20%、ビデオ鑑賞後のレポート10%、期末試験70%

※質問、意見等を書いてもらい次回授業時に答える。

《テキスト》

講義時に必要なプリント等を配布する。

《参考図書》

『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編（岩波書店）2002。  
その他講義時に随時紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業終了後、毎回ノートや配布資料をを整理し、内容を理解する。
- ・キリスト教の聖書を手にし読んでみる。

《備考》

シラバスにそって授業をすすめますが、受講生の理解度によって変更することもあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	キリスト教と世界の諸宗教(1)	キリスト教の世界の諸宗教のなかでの位置づけ。キリスト教の国際的な分布。
2	キリスト教と世界の諸宗教(2)	カトリック、プロテスタント、東方正教会などのキリスト教教会の展開。キリスト教の宗教上の分類。
3	キリスト教との出会い(1)	キリスト教とは。イエス・キリストとは。旧約聖書と新約聖書。聖書のなかの神。
4	キリスト教との出会い(2)	イエス・キリストの生涯。
5	キリスト教と国際平和(1)	国際社会と平和。平和と暴力。キリスト教の平和思想。
6	キリスト教と国際平和(2)	キリスト教の正戦論。戦争とドイツキリスト教会、日本キリスト教会。
7	キリスト教と国際平和(3)	イスラームの平和思想、仏教の平和思想との比較。
8	キリスト教とホスピスケア(1)	キリスト教とターミナルケア、ホスピスムーブメント。
9	キリスト教とホスピスケア(2)	キリスト教における生と死。イスラーム、仏教の生死観との比較。
10	キリスト教の愛の実践ーマザー・テレサ	キリスト教の国際支援。マザー・テレサの愛の実践活動。ビデオ鑑賞。
11	キリスト教とジェンダー(1)	ジェンダーとフェミニズム。キリスト教のジェンダー問題。
12	キリスト教とジェンダー(2)	キリスト教と世界の宗教対立。北アイルランド紛争。
13	キリスト教と民族紛争・地域紛争(1)	キリスト教と世界の宗教対立。北アイルランド紛争。
14	キリスト教と民族紛争・地域紛争(2)	国際社会と原理主義。キリスト教原理主義とイスラーム原理主義。
15	15 学習のまとめ	国際社会の諸問題とキリスト教。キリスト教を通じた国際理解のありかた。

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）		科目ナンバリング	BINL21002
担当者氏名	重親 知左子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラーム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリムの訪日人数や国内のモスク(イスラームの礼拝所)も増加し、今後内外でムスリムと出会う機会は多くなる。この授業を通して、イスラームに関する基本的な内容を把握し、この宗教をめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。ドキュメンタリーを中心に、VTRも毎回視聴する。

《授業の到達目標》

- ・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラームをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラームに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。
- ・レポートに書かれた質問への回答や講評は、可能な限り授業時間内に行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、ハラール(イスラーム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	結婚、葬礼におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	イスラームをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の関係を、歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

- 小川忠『インドネシア イスラーム大国の変貌 躍進がもたらす新たな危機』新潮社、2016  
 後藤絵美『神のためにまとうヴェール 現代エジプトの女性とイスラーム』中央公論新社、2014  
 内藤正典『となりのイスラーム 世界の3人に1人がイスラーム教徒になる時代』ミシマ社、2016

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラームと接点を持つ(例：モスクやハラールショップ見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・出席登録直後の退出は、原則的に認めない。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	比較文化論	科目ナンバリング	BINL21004
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この社会に生きている私たちは、様々な背景を持った人や多様な文化や社会とつながっています。本講義では自文化を知るとともに文化の多様性を学び他者理解を深めます。アジア・ヨーロッパ・南北アメリカの文化・社会について、海外経験豊富な教員がオムニバスで講義を行います。いろいろな文化や社会があることを知り進むグローバル化の中で他者、他文化への理解を促進しましょう。

《授業の到達目標》

- ・自文化についての理論を学び海外の多様な文化や社会について理解を深め、説明することができる。
- ・兵庫大学が行っている海外研修や提携大学学生との交流の際に、相手を理解するための知識を身につける。

《成績評価の方法》

レポート・テスト50%  
 受講態度（授業への積極的な参加）50%  
 分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特に指定しません。

《参考図書》

特に指定しません。適宜授業内で紹介します。

《授業時間外学習》

メディア等に登場する国内外の動向に注目しておきましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	比較文化論概説（1）	「文化」とは何かを理解し、身近な文化について考え説明することができる。
2	比較文化論概説（2）	文化を比較するとはどういうことかを考え、自文化に関するいくつかの理論を学び比較文化の視点から説明することができる。
3	アジアの文化（1）	本学が交流しているタイの文化や社会について学び説明することができる。
4	アジアの文化（2）	本学が交流している韓国の社会について学び説明することができる。
5	アジアの文化（3）	本学が交流している韓国の文化について学び説明することができる。
6	ヨーロッパの文化（1）	本学が交流しているドイツの文化や社会について学び説明することができる。
7	ヨーロッパの文化（2）	本学が交流しているフィンランドの文化や社会について学び説明することができる。
8	北アメリカの文化（1）	アメリカの大学システムや学生の学びについて理解し説明することができる。
9	北アメリカの文化（2）	本学が交流しているアメリカの文化について学び説明することができる。
10	北アメリカの文化（3）	本学が交流しているアメリカの社会について学びを深め説明することができる。
11	北アメリカの文化（4）	アメリカの民族的マイノリティについて学び説明することができる。
12	南アメリカの文化	本学や加古川市が交流している南アメリカの国の文化や社会について学び説明することができる。
13	兵庫大学の国際交流	本学の国際交流プログラムに参加した学生や国際交流にかかわる人との交流を通して、国際交流とは何かについて考え意見をまとめる。
14	学習のまとめ（1）	各地域の文化や社会について学んだことをふりかえり、学んだことを整理してまとめる。
15	学習のまとめ（2）	授業全体をふりかえり多様な文化や考え方について関心を持ったテーマに沿って発表する。

科目名	歴史学		科目ナンバリング	BHIL21001
担当者氏名	金子 哲			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

主として日本の前近代を扱います。歴史事実の学習ではなく、「歴史の見方」「歴史的思考方法」の獲得を目指します。アナール歴史学—社会史、等身大の視点からの歴史学—の方法論を主に用います。前近代の市井の人々の感覚世界を探求します。「前近代の自由」が通底するテーマとなります。時代によって変わることのない普遍的人間の感覚、および、時代・地域により変化する感覚・諸価値を考察します。

《授業の到達目標》

1. 各自の感覚・価値観は「時代」「地域」「社会」に規定されている事に気付く。
2. 既に構築されている各自の感覚・価値観を相対化し、疑問を懐き、クラック（ひび割れ）を入れ、将来に脱皮しうるシード（種子）を獲得する。
3. 他時代・異文化のもつ、異なる感覚・価値観の存在を認め、共存しうる感性・理性を涵養する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、等を行います）を40パーセントとします。学期末のペーパーテストを60パーセントとします。講義中に随時「発想力と理解度」をチェックするアンケートを行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義全体のガイダンス。全体計画説明。注意事項の説明。
2	創られた伝統1	夫婦同姓問題。三行半って本当？ 近代の常識を疑え！
3	創られた伝統2	「大和撫子」「日本男児」幻想。「盆」と「正月」って何？
4	創られた伝統3	母系社会と父系社会。相続原理と社会倫理規範。
5	自由への賛歌1	近代的「唯一絶対的自我」への疑問。多様な自我。「排他的近代」の限界。
6	自由への賛歌2	市と自由1。環太平洋的「マナ」世界と交換の原理。
7	自由への賛歌3	市と自由2。縁切りと変身の原理。
8	自由への賛歌4	変容と変身の原理。俗世界と聖なる世界。
9	自由への賛歌5	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理1。
10	自由への賛歌6	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理2。
11	小さな神仏の世界1	来世利益と現世利益。本堂・本殿と末社・摂社の世界。
12	小さな神仏の世界2	背面信仰と第三項排除理論（差別問題を含む）。
13	小さな神仏の世界3	暗黒世界の神仏と王権。王権と第三項排除理論（差別問題を含む）。
14	総括1	各項目間の関連の確認。
15	総括2	全体のまとめ。

《テキスト》

なし。  
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

1. 網野善彦『増補 無縁・公界・楽』、平凡社ライブラリー（大学図書館にあり）
2. 『週刊朝日百科日本の歴史』、朝日新聞社（大学図書館にあり）
3. 福岡大学人文学部歴史学科『歴史はおもしろい』、西日本新聞社

《授業時間外学習》

異なる時代、異なる文化が発している情報に敏感になってください。テレビ、新聞、雑誌、映画、DVD、ゲーム、そして、ネットの板情報、などが発信している、「自分とは異なる感覚・論理」を拒絶するのではなく、受け止める気持を持って情報に接してください。

《備考》

オモチャ箱をひっくり返したような講義に出来たらな、と思っています。重い病苦にあえぐ人、不条理な差別を受ける人なども多数扱います。ご理解の上で御受講くださいませ。

科目名	文学	科目ナンバリング	BHIL21002
担当者氏名	野田 直恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

文学作品は書き手がことばによって構築する芸術だが、ことば自体が流動的なものであることから、その作品は必然的にさまざまな読み手の目に映じるものとなる。また、読み手が置かれた状況によっても作品は姿を変える。その変容ゆえに作品が読み手にもたらすものを見だし、文学と人との関係を考察する。

《テキスト》

プリントを適宜配付する。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

作品に用いられたことばの意味やそれを書き手が選んだ理由・背景を探ることを通じ、作品やそのことばを生み出した文化についての知見を広める。作品について自分なりの見解を持つようにする。文学全般についての知識を深める。

《授業時間外学習》

プリントの内容に即した小テストなどを、実施日・範囲を予告のうえ実施するので、復習は必須である。また、授業時の発問に対応できるよう、指定範囲の予習をしておくこと。予習の成果が認められる場合には、平常点を加点する可能性がある。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する小テストなどの課題（50%）と定期試験（50%）によって評価する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

中学・高校で使った文学史の教科書や参考書、国語便覧などがあれば、そのうちの1～2種類を初回の授業時に持参してください（どんなものでも可）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業全般についての説明	授業のすすめ方や小テストなどの課題について説明する。
2	「国語」と文学の違い 文学とは何か	高等学校までの「国語」という教科における文学作品の読み方が私たちにもたらしているものについて説明し、文学のあり方を考察する。
3	日本文学の概観 日本語の起源	日本文学の流れと、その表記に用いられる日本語の起源とについて概説する。
4	神話と歴史	『古事記』や『日本書紀』といった奈良時代の文学作品に見られる特質や、それらが後世に及ぼした影響について概説し、実際に作品の一部にふれてみる。
5	詩歌の変遷（歌について）	『万葉集』から『新古今集』までの歌の変遷についておもに概説し、実際にいくつかの作品にふれてみる。
6	物語と日記	平安時代の物語文学の発展について概説し、実際に作品の一部にふれることを通じて物語と日記との差異について考察する。
7	女性文学1	女性による文学作品が生まれた文化的背景について概説する。また、女性による古典作品にふれてみる。
8	女性文学2	女性による近代文学作品の一部にふれ、女性にとっての創作の意義を考察する。
9	文学と宗教	日本文学における仏教の影響について概説し、鎌倉時代の文学に見られる特質について、実際に作品の一部にふれながら考察する。
10	娯楽としての文学	庶民たちのあいだで広まり、受け継がれていった文学について概説し、作品の一部にふれてみる。
11	教育と出版	明治時代になって一般の人々が読み書きの能力を身につけるようになったことと、社会の流れとの関係について概説し、教育が文学にもたらした影響について考察する。
12	文明開化の光と影	日本文化が西洋文化との接触によってどのような影響を受け、それが明治～大正時代の文学にどのように反映したのかを概説する。また、実際に作品の一部にふれてみる。
13	作家と留学	日本の近代という時代に夏目漱石や森鷗外らが与えた影響について、彼らの作品の一部にふれながら概説する。
14	文学史的区切り	昭和時代における文学の変遷について概説し、近代文学と現代文学との境界をどのようにとらえるべきかを考察する。
15	作品と出会う	限られた時間の中で限られた作品しか読めない私たちが、作品とどのように出会い、どのように向き合えばよいのかということについて考察する。

《共通教育科目 歴史と文化》

科目名	芸術	科目ナンバリング	BHIL21003
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート (100%)

※各作家の芸術作品について感想・意見を述べさせ、それに対して講評を行う。

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期バリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	色彩とデザイン		科目ナンバリング	BHIL21004
担当者氏名	稲富 恭			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産活動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを“色”、“かたち”、“素材”の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《テキスト》

「新配色カード129a」日本色研事業(株) (<参考>¥500程度、3回目以降の授業以降使用する。)

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野における一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。提出されたレポートは返却後、授業中に解説を行う。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインの基礎(1):かたち	デザインの要素である“色”、“かたち”、“素材”について理解する。“かたち”について、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。
2	デザインの基礎(2):素材	デザインの素材について、椅子のデザインを例に材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。
3	デザインの基礎(3):色彩の基礎	光と色の関係、色の三属性について理解する。配色カードを利用し、色相環を作成する。
4	デザインの基礎(4):色彩の表現	色の分類、表色系、PCCSについて理解する。配色カードを利用し、等色相面を作成する。
5	デザインの基礎(5):色彩と心理	言葉による色表示、色彩と心理の関係について理解する。配色カードを利用しトーン表を作成する。
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	アーツ・アンド・クラフツからモダニズムに至る19世紀以降のデザインの歴史について概観する。
7	デザインの各分野(1):建築	実用的価値、美的価値、社会的価値といった側面から建築のデザインについて理解する。
8	デザインの各分野(2):ファッションの歴史	20世紀以降のファッションの系譜について解説し、社会の変化とデザインの関わりについて理解する。
9	デザインの各分野(3):ファッションと配色	ファッションの色彩調和とその手法について解説する。配色カードを利用し、ファッションの配色パターンを作成する。
10	デザインの各分野(4):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。
11	デザインの各分野(5):都市	都市のデザインを社会状況・政治体制、産業・エネルギーといった側面から考察する。※学期末レポートの課題を説明する。
12	デザインの各分野(6):和風デザイン	和風のデザインについて真・行・草といった側面から考察する。
13	デザインの各分野(7):デザインと地域性	デザインと地域特性の関係について、アメリカ、南欧、北欧のデザインを例に考察する。
14	デザインと配色	各デザイン分野における配色パターンと効果について考察する。配色カードを利用し、配色パターンの作成を行う。
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。

《共通教育科目 地域に学ぶ》

科目名	地域文化論		科目ナンバリング	BL0L21001	
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> <li>○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力</li> <li>◎ 基教-E 社会・文化について理解する力</li> </ul>			

《授業の概要》

播磨地域、特に東播地域の文化特質を考察する。アジア的視座、日本的視座、西国内部の視座、兵庫県内部の視座、からこれを比較検討する。

地理、歴史、文化、民俗、などから問題にアプローチしていきたい。

《授業の到達目標》

自らの属する地域を外部の視点から相対的に考察する能力の第一歩を獲得する事を目標とする。自文化の相対化、とも表現できる。

これは、異文化との共存、多文化共生をなし得る感覚の取得でもある。

《成績評価の方法》

学期末に行う筆記試験を60パーセントとする。毎回の講義への積極的関与度を40パーセントとする。毎回の講義では、様々な質問を提示し、回答してもらい、評価する。講義中に随時「発想力と理解度」をチェックするアンケートを行い、コメントを付けていきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の全体像の提示。考え方の提示。
2	考現学的アプローチ1	現代日本社会を席卷する「マイルドヤンキー文化」に関する考察。
3	考現学的アプローチ2	「マイルドヤンキー文化」の「聖地」は、何故「東加古川」なのか。
4	アジアの中で日本を考えてみよう	日本は大国か？小国か？日本は「単一民族国家」なのか？日本文化は均質なのか？などなど、社会常識を再検討する。
5	東は東、西は西	日本の東西文化の極めて大きい差異を、様々な事例から考察する。
6	歴史的アプローチ1	日本文化の中に残る、縄文文化と弥生文化の濃淡を考察する。さらに、日本の「周縁地域」の文化的独自性を考察する。
7	歴史的アプローチ2	播磨、特に東播の古代を再考し、その位相を考察する。日本武尊関連の神話分析も行う。
8	歴史的アプローチ3	播磨、特に東播の中世を再考し、東播の全盛期の位相を考察する。
9	歴史的アプローチ4	播磨、特に東播の文化財を考察する。
10	歴史的アプローチ5	播磨、特に東播の近世・近代を、「産業」に重点をおいて考察する。
11	文化論的アプローチ1	播磨、特に東播の「祭り」「祭祀」を考察する。
12	文化論的アプローチ2	播磨、特に東播の「芸能」を考察する。
13	文化論的アプローチ3	播磨、特に東播の「食」を考察する。第一回。
14	文化論的アプローチ4	播磨、特に東播の「食」を考える。第二回。
15	おわりに	全体の総括。

《テキスト》

なし  
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

網野善彦、『東と西の語る日本の歴史』、講談社学術文庫1343。  
原田曜平、『ヤンキー経済』、幻冬舎新書335。

《授業時間外学習》

常に地域の文化、自分の文化に関心を払ってください。日常生活の中で、講義内容を時々思い出し、反芻して、納得してください。他地域の文化、異文化への関心を持つように心がけ、情報に接してください。  
できれば、参考文献を御一読ください。

《備考》

楽しい講義にしたい、と考えております。

科目名	建築デザインと地域		科目ナンバリング	BL0L21002
担当者氏名	稲富 恭			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

建築・土木構造物(以下、建築)は気候、歴史、宗教、産業といった多くの要素と密接に関係している。本講義では、兵庫県内の建築を通じて、地域社会、地域文化について学びます。

《テキスト》

テキストは用いない。適宜、資料を配付する。

《参考図書》

「昔も今もこれからも 兵庫を築く」兵庫県建設業協会, 2013

《授業の到達目標》

- ・ 建築のデザインに関する基礎的知識を身につける。
- ・ 建築の理解をを通じて、兵庫県の歴史、文化、産業について理解する。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法: シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・ 復習の方法: 授業ノートを制作する。
- ・ 学期末レポート: 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。提出されたレポートは返却後、授業中に解説を行う。

《備考》

- ・ 出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。座席の指定を行う場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	兵庫県の建築・土木構造物(以下、建築)について概観する。建築と地域環境の関わりについて理解する。
2	古代の兵庫県と人々のくらし	大中遺跡、五斗長垣内遺跡、五色塚古墳等を取りあげ、縄文時代、弥生時代の建築と生活について理解する。
3	神道の成立と神社建築	長田神社、多田神社等を取りあげ、神道の成立と神社建築の系譜、神社がもつ社会的機能について考察する。
4	仏教の伝来と寺院建築	鶴林寺、浄土寺、朝光寺等を取りあげ、寺院建築の歴史と系譜、木造技術の発展について考察する。
5	幕藩体制と都市・城郭	姫路城等を取り上げ、兵庫県内に存在する江戸時代の城郭建築と都市の形成について理解する。
6	古民家の歴史と技術	箱木家住宅、三木家住宅等を例に、兵庫県の民家建築の歴史と形式について考察する。
7	明治維新と欧米型ライフスタイル	異人館、外国人住宅等を例に欧米型住宅の影響と神戸の景観形成について解説する。
8	西洋古典建築の系譜と神戸の近代建築	ギリシア・ローマ建築の系譜について概観し、旧居留地の近代建築について理解する。
9	阪神間モダニズム	ライト、ヴォーリズ等を例にモダニズム建築の系譜について概観し、阪神間モダニズムについて理解する。
10	戦後の住宅政策と都市開発	ポートアイランド、明舞団地等、戦後の大規模住宅開発を取りあげ、戦後の住宅政策について理解する。
11	地域の産業と土木構造物	加古川橋梁、布引ダム、明石海峡大橋等、兵庫県内の土木構造物を取りあげ、技術発展の歴史と構造手法について理解する。
12	ポストモダニズム社会と建築	F・ゲーリー、安藤忠雄等の建築を例に、ポストモダン建築の思想的背景と表現について考察する。
13	兵庫のまちなみとまちづくり	出石、龍野、篠山等の町並みを例に、兵庫のまちづくりと景観形成について考察する。
14	阪神大震災と今後の防災	阪神大震災とその後の対応、今後起こりうる自然災害を取りあげ、建築、まちづくりの面から考察する。
15	レポート発表	課題レポートの発表と講評を行う。

科目名	地域と文化財		科目ナンバリング	BLOL21003
担当者氏名	金子 哲			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

加古川エリアは文化財の宝庫です。その中の石造物を中心に、発見・評価・保存・活用する方法論を学びます。地域の新しい魅力を発見し、地域の未来に向けての「街創り」に関する視座の獲得を目指します。座学で各種石造物の評価方法・保存活用方法を学び、フィールドワークで実際に石造物の「発見」に挑戦します。拓本(石造物の表面を紙に写し取った物)を採る実習も行います。歴史的石造物の拓本採りにも挑戦します。

《授業の到達目標》

- ・石造物を評価できる基礎的な知識と感覚を獲得する。
- ・石造物を保存活用するための基礎的な知識を獲得する。
- ・石造物を通して、待機の文化や歴史を再発見する視座を獲得する。
- ・拓本を採る初歩の技術を稼得する。
- ・地域の散策が10倍以上楽しくなり、「ここにしかない」地域を愛する感覚を獲得する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、実技・実習等を行います）を60パーセントとします。学期末のペーパーテストを40パーセントとします。演習形式で講義を進め、随時「到達度」をチェックする質問や課題設定を行い、コメントを付けていきます。

《テキスト》

なし  
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

考古学調査ハンドブック 5『石造文化財への招待』、坂詰 秀一 監修、石造文化財調査研究所 編集、ニューサイエンス社

《授業時間外学習》

日常的に、地域を散策してみてください。路傍にある身近な文化財（石造物など）を「発見」し、評価して下さい。次の講義で報告してくれたら嬉しいですよ。  
参考として示す「文化財的価値の高い文化財（石造物など）」を現地に足を運んで、積極的に観賞・評価してみてください。

《備考》

体を動かしながら楽しく進めましょう。天候等により、フィールドワーク等の日程は変更となることがあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	石造物の面白さ。石造物の価値。石造物をめぐる近年の動向。
2	採拓実習 1	拓本(石造物の表面を紙に写し取った物)を採ってみよう。水をシュシュとふりかけ、墨をつけてポンポン叩いてみよう。
3	中世石造物 1	五輪塔・層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔 1
4	中世石造物 2	五輪塔・層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔 2
5	中世石造物 3	板碑等その他石造物。素材石。龍山石
6	近世・近代石造物	近世力士墓。近代戦死将校兵の墓。など。
7	フィールドワーク 1	大学の近くを散策して、石造物を「発見」しよう。
8	フィールドワーク 2	加古川エリアを散策して、石造物を「発見」しよう。
9	石造物保存	石造物保存の現状と問題点。
10	石造物と街おこし 1	石造物の観光資源化。保存と活用への市民の参画。
11	フィールドワーク 3	石造物をめぐる観光資源化・街おこしの現状を確認。
12	石造物と街おこし 2	石造物をめぐる観光資源化・街おこしの現状の問題点と改善策に関する討議。
13	採拓実習 2	拓本採りに再挑戦。
14	採拓実習 3（フィールド編）	歴史的石造物の実物で拓本を採ってみよう。
15	おわりに	全体の総括。

科目名	地域資料を読む		科目ナンバリング	BL0L21004	
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

ミミズがのたうったような崩し字の解説、を目指す講義ではありません。絵図・地図を中心に、活字化された地域資料（史料）を読み進め、「昔の地域の姿」を探索する方法論を学びます。地域資料（史料）の現状、消失・流出の危機と、保存方法・保存活動の方法を模索します。現物の古文書にも触れ、感触を確かめ、読める字がないか探してみます。フィールドワークを通して、前近代の古文書の保管状態も見学します。

《授業の到達目標》

- ・地域資料（史料）を評価する初歩的能力を獲得する。
- ・地域資料（史料）の保存活用に関する基礎知識を獲得する。
- ・往年の地域の姿を復元する初歩的方法論を獲得する。
- ・地域資料（史料）読解能力の第一歩を獲得する。
- ・地域文化活動の中核となる能力感性の第一歩を獲得する。
- ・地域の一次資料（史料）を通し、「ここにしかない」地域を愛する感覚を獲得する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、実技・実習等を行います）を60パーセントとします。学期末のペーパーテストを40パーセントとします。演習形式で講義を進め、随時「到達度」をチェックする質問や課題設定を行い、コメントを付けていきます。

《テキスト》

なし  
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

『文献史料を読む—古代から近代』、青木 和夫・高木 昭作  
 佐藤 進一・坂野 潤治 編、朝日新聞社  
 『古地図で見る神戸—昔の風景と地名散歩』、大国 正美、神戸新聞総合出版センター

《授業時間外学習》

地域のどこに資料（史料）が保管・保存されるか、生活の中でそれとなく聞いてみて下さい。情報を得られたら、次の講義の際に発表して下さい。  
 時間に余裕があれば、博物館・郷土資料館などを見学してみてください。  
 また、復習も大切に。

《備考》

楽しくなるように工夫します。クイズ要素をちりばめ、フィールドワークも行います。頭と体を動かしましょう。天候等でフィールドワークスケジュールの変更があり得ます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	全体のガイダンス。地域資料（史料）研究の楽しみに関して。
2	近世絵図・地図 1	近世加古川宿について1。絵図・地図からの復元1。
3	近世絵図・地図 2	近世加古川宿について2。絵図・地図からの復元2。
4	フィールドワーク 1	加古川宿跡の探索。
5	近世加古川エリアの地図・絵図 1	近世加古川地区の名所・寺社。
6	近世加古川エリアの地図・絵図 2	近世加古川地区の用水路とため池。
7	フィールドワーク 2	博物館・資料館見学。
8	近世文書に触れてみよう 1	現物の近世史料の扱い方と読解の第一歩。ため池絵図を中心に。
9	近世文書にふれてみよう 2	現物の近世文書の保存処理体験。
10	フィールドワーク 3	近世文書群の保存・保管状況の見学。
11	フィールドワーク 4	博物館・資料館の保管庫の見学。撮影資料等の見学。
12	地域資料（史料）保存の諸問題 1	地域資料（史料）の現状に関して。
13	地域資料（史料）保存の諸問題 2	地域資料（史料）の保存・活用方法を模索する。特に、対行政問題を中心に。
14	フィールドワーク 5	中世文書群の保存・保管状況の見学。実際に現物の中世文書に触れてみよう。
15	おわりに	全体の総括。

科目名	哲学	科目ナンバリング	BSOL21001
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。  
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。  
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。  
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。  
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（30%）および学期末に設定するレポート課題（70%）によって評価を行う。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。  
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。  
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学の創始 ソクラテス以前の哲学1.	哲学とは何かについて ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について
2	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテス以前の哲学2.	ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について
3	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテスとプラトン1.	アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について 問答法と真理の探究について
4	古代ギリシャの哲学思想 プラトンの哲学2.	プラトンのイデア説について
5	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学1.	アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について
6	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学2.	アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について
7	中世の哲学思想	アウグスティヌスの教父哲学について
8	中世の哲学思想	トマス・アクィナスのスコラ哲学について
9	近世の哲学思想 デカルトの哲学1.	精神および物体の概念について
10	近世の哲学思想 デカルトの哲学2.	心身二元論について
11	近世の哲学思想 カントの哲学1.	カントの批判哲学—『純粋理性批判』について ア・プリオリな判断およびア・ポストエリオリな判断、分析的判断・総合的判断について
12	近世の哲学 カントの哲学2.	カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則） 『判断力批判』について（自然の合目的性）
13	現代の哲学 生の哲学・実存主義哲学	バルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について
14	現代の哲学 プラグマティズムの哲学	ジェームズの哲学思想およびデューイの哲学思想について
15	まとめ	予備およびまとめ

《共通教育科目 現代社会を読み解く》

科目名	法と社会	科目ナンバリング	BSOL21002
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日常生活において問題となりうる典型的事例を法律的側面から解説します。実際の事例に基づいて解説します。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

特に指定しない。

《授業の到達目標》

実際に役立つ法的知識の習得。

《授業時間外学習》

特に指定しない。

《成績評価の方法》

レポート課題

《備考》

※授業到達目標に対し講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり（導入）	日本の法制度の歴史的沿革とその概要。
2	土地と建物の賃貸借契約	土地や建物（住居）を賃借する場合の法律問題。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードを利用した買い物やキャッシュカードを利用した借金の法律問題。
4	住宅ローン・自動車ローン①	住宅の購入に際しての法律問題。
5	住宅ローン・自動車ローン②	住宅ローンや自動車ローンを組むまでの流れ、その仕組み。
6	債務の整理・清算	多額の負債を背負った場合の清算方法。
7	刑事事件①	犯罪の容疑者が逮捕されるまでの流れ。
8	刑事事件②	逮捕された容疑者が有罪判決を受けるまでの流れ。
9	婚姻・離婚	主に離婚時の法律問題。
10	相続	相続人の範囲や法定相続分、その他相続制度の概要。
11	成年後見制度	主に高齢者で判断能力が低下した者の権利擁護制度の概要。
12	交通事故の法律関係	交通事故に遭遇した場合の法律問題。
13	保険制度	損害保険、生命保険、火災保険の仕組みと注意点。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟ではなく、民事訴訟制度の概要。
15	知的財産制度	著作権、特許権等の知的財産制度の概要。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	BSOL21003
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006  
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。  
 ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史		科目ナンバリング	BSOL21004
担当者氏名	岩本 智依			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社  
 砂川秀樹・RYOJI 『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス  
 岩本孝樹 『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%（学期末の最終授業を締切に参考図書を課題としたレポート）

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

なお質問とともに、定期試験やレポート等について事前添削を随時受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	人権の歴史とは①	人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。
4	人権の歴史とは②	人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。
5	部落差別と現代社会①	部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。
6	部落差別と現代社会②	「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障がい者差別の歴史と障害者差別解消法について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。
9	いのちと人権③	尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	教育と差別	いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

科目名	政治学	科目ナンバリング	BSOL21005
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にする事ができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年  
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年  
 他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

科目名	社会学		科目ナンバリング	BSOL21006
担当者氏名	吉原 恵子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵 (2013, 有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也 (2000, 日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

○授業内レポート1-2回、ミニ・テストを数回実施する。(配点：文章作成能力および知識の定着度45点) ○定期試験により学習達成度を評価する。(配点：理論の理解度、データを読む力、社会問題についての理解、批判的視点等の獲得度55点) ○試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《備考》

この授業では、講義内容をただ知識として暗記するのではなく、現実社会との関係のなかで理解するため、専門用語の図示・図解を行う演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会について理解する
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイバリング、パッシングについて理解する
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類(社会的カテゴリー)について理解する
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイムについて理解する
8	学習の総まとめ (1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	秩序の解説 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する
10	秩序の解説 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する
11	秩序の解説 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する
12	秩序の解説 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する
13	社会の構想 (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する
14	社会の構想 (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する
15	学習の総まとめ (2)	「秩序の解説」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する

科目名	経済学	科目ナンバリング	BSOL21007
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。毎時間提出する授業時の課題については、翌週の授業時に解答例の紹介とともに補足説明を行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されているビッグデータの活用、高機能ロボットなどについても考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう (3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

科目名	現代社会の理解		科目ナンバリング	BSOL21008
担当者氏名	沖野 光二			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

公職選挙法(第9条)が2015年に改正され、年齢満18歳以上の者が選挙権を有し、政治への直接参加（民主主義的手続き）の権利を得ると同時に政治的帰結の責任を担うこととなった。さらに民法(第4条)を改正し、成年とする年齢を18歳に引き下げ、法律行為の能力を有するべく現在調整されている。社会との政治的・法的・経済的関わりについて、課題とそれを解決すべき行動手順（手続き方法）を学生自らが見い出せる能力を養う。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

テーマ毎に関連する文献資料について、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

(1) 新聞やニュース記事の具体的事案・事例から抽象度を上げた教科書レベルの概念・理論へ展開することができ、論理的に政治的側面・法的側面・経済的側面から問題点と解決手順を思考できる能力を養う。(2) 法律行為の能力（特に契約行為の責任）を有する意味を理解し、不利益を被る場合に自ら解決に向けた思考・行動を起こせるような能力を養う。(3) 政治的帰結の責任を理解し、社会を観察し行動できるような能力を養う。

《授業時間外学習》

学生の日々の何気ない行動が、法律問題に直結する形で社会と関わりを持っている。学生諸君が、法律行為の能力を有する者（＝法的社会的責任を負う者）であると意識しながら、新聞記事などで社会の動きを観察するように心がけること。日常の何気ない行動であっても、その行為に関わる将来への影響の結果（outcome）が予測・想像できるようになってもらいたい。

《成績評価の方法》

1. 講義回数の3分の1以上の欠席の者は不可とする。
2. テーマに関する専門家（本学教授陣および外部講師）を数回交えて講義を展開するため、確認小テストおよび課題レポートの累計により評価する。

《備考》

ルーズリーフ形式ではなく、A4サイズ（B5サイズではない）のいわゆる大学ノートを必ず用意して、授業に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ライフサイクルにおける資金計画と時間の貨幣的価値（アルバイトの意味と奨学金制度）
2	労働契約の意義	ブラック・バイトやブラック企業などの劣悪な労働環境の事案からの考察、職業的専門家（労働基準監督官・社会保険労務士）の仕事（魅力）
3	契約の意味	契約の意味、労働契約の意義、職業的専門家（法曹（法律家））の仕事（魅力）
4	選挙制度の意義	選挙制度と国民審査制度の現状・裁判員制度の現状の考察
5	投票への準備	選挙制度と国民審査制度の意義・裁判員制度の意義と問題点、職業的専門家（議員・行政職公務員）の仕事（魅力）
6	政治的帰結の責任	（確認小テスト）
7	メディアと法律・人権	ソーシャルメディア（インターネット接続端末の利用）における人権問題・法律問題の考察
8	メディアと法律・人権	ソーシャルメディアと犯罪・人権侵害の事案からの考察、職業的専門家（都道府県警察本部サイバー犯罪対策課）の仕事（魅力）
9	メディアと法律・人権	（確認小テスト）
10	市民活動と住民活動	ボランティア活動・地域活動と行政（その1）
11	市民活動と住民活動	ボランティア活動・地域活動と行政（その2）
12	市民活動と住民活動	（確認小テスト）
13	人生とお金	ライフサイクルにおけるファイナンシャル・プラン、職業的専門家（ファイナンシャルプランナー）の仕事（魅力）
14	人生とお金	社会におけるお金の役割、所得と租税と資産運用、職業的専門家（国税専門官・税理士）の仕事（魅力）
15	まとめ	（確認小テスト）

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	BNAL21001
担当者氏名	本多 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持って余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。  
この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

《テキスト》

講義の時、配布する。

《参考図書》

講義時に指示する。

《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

《成績評価の方法》

- ①提出レポートの内容について事前にコメントをする。その上での提出を求める。
- ②授業の参加態度 10%  
小課題 20%  
学期末レポート 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに／倫理の役割	本講義の概要／倫理とは何か？
2	インフォームド・コンセント①	患者の権利／情報を与えられたうえでの合意
3	インフォームド・コンセント②	何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立
4	安楽死と尊厳死①	安楽死と尊厳死／その違いとは
5	安楽死と尊厳死②	死期を決めるのは誰か？
6	脳死と臓器移植①	医療技術の進歩／脳死と臓器移植の関係
7	脳死と臓器移植②	死の基準について
8	相互インタビュー①	これまでの講義のふりかえり
9	人工妊娠中絶①	国家と命の関係について
10	人工妊娠中絶②	出生前診断は必要か？
11	人工妊娠中絶③	議論の組み立て方
12	遺伝子操作と優生思想①	遺伝子操作の現状
13	遺伝子操作と優生思想②	障害学について
14	遺伝子操作と優生思想③	多様な社会を目指して／レポートのフィードバック
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	心理学	科目ナンバリング	BNAL21002
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト70%，レポート20%，受講態度10%  
 ＊授業終了前、テーマに対するミニレポートを求めることがある。そこには授業についての意見や感想も書けるようにする。次の授業で、レポート内容や意見について回答する。  
 ＊オフィスアワーなどにおいて、質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 § 1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 § 1~2, § 6~7》
3	覚えているって、どういうこと？(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 § 4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 § 1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 § 5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 § 1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 § 2~4》
8	君って、どんな人？(性格) I	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って、どんな人？(性格) II	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 § 1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 § 2~3》
11	あの人って、きっとこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 § 1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 § 4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 § 4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣  
 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房  
 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

科目名	化学	科目ナンバリング	BNAL21003
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。

私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《成績評価の方法》

- 定期試験（80%）および小テスト（20%）により評価します。授業の出席回数が10回以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。
- 小テストは返却し、フィードバックを行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類
10	糖質（2）	二糖類、多糖類、糖質の利用
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質
12	脂質（2）	誘導脂質、生体膜、脂質の利用
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能、タンパク質・アミノ酸の利用
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能

《テキスト》

『コ・メディカル化学』  
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人）  
『あなたと化学』暮らしを支える化学（裳華房）  
『環境・暮らし・いのちのための化学のこころ』（裳華房）  
『ビギナーズ有機化学』（化学同人）

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読み、専門用語の意味を理解しておくこと。
- 授業内容の要点をまとめる、演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《備考》

- 質問があれば、授業終了後などに質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動（特に、私語）はしないこと。
- アクティブラーニングゾーンにて授業を行う場合もある。

《共通教育科目 自然と科学》

科目名	生物学	科目ナンバリング	BNAL21004
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版（南雲保編、羊土社）

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻（デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳）

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験（100%）により評価する。  
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能について学ぶ。
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質について学ぶ。
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミンについて学ぶ。
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳について学ぶ。
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系について学ぶ。
6	光合成	光合成の機構について学ぶ。
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化について学ぶ。
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化について学ぶ。
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システムについて学ぶ。
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性（ホメオスタシス）、生体防衛機構について学ぶ。
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病について学ぶ。
12	生態系①	生物と環境について学ぶ。
13	生態系②	環境問題、動物の行動について学ぶ。
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類について学ぶ。
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療について学ぶ。

科目名	身のまわりの科学		科目ナンバリング	BNAL21005	
担当者氏名	湯瀬 晶文、穂積 隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> <li>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力</li> <li>○ 基教-G 論理的思考力</li> </ul>			

《授業の概要》

近年、非常に幅広い分野において、科学的な考え方は分野理解のために不可欠な要素となっている。この授業では科学の考え方を知らず、身の回りの様々な現象からいくつかの事例を採り上げ、「実験、体験、経験」を基本にして、「科学はどのようにものを見るのか」について説明を試みる。

なお、大学からの割り当（実施教室や予算）、および受講生の状態により内容を大きく変更することがある。

《授業の到達目標》

この授業では、身のまわりに生じている様々な現象を、科学の観点から見ようとする姿勢を身に付けることを目標とする。またいくつかの具体例において、科学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

＜実験に際しての注意点＞

自分の身は、自分で守る！

《成績評価の方法》

期末試験による評価の予定だが詳細は初回授業で確定する。

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

＜出席について＞

出席回数が全授業実施回数の3分の2に満たない時は、単位認定できないことがあります。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

授業の内容を生活の中で再確認すること。

日常生活の中で、「これはどうなっているのだろうか？」という疑問を持つようにすること。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、科学的世界観は最も幅広く強力なものの一つです。専門領域にとらわれることなく、ぜひ挑戦してみてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価等についての説明と意思確認を行う。授業内容に関する説明もあるため、履修希望者は必ず出席のこと。
2	選挙速報のふしぎ	開票率1%でも「当選確実」と表示できる理由を考える。手で触って区別がつかないピンポン玉から一部を抽出して全体との比較を行う。
3	GPSの原理	GPSはどうやって場所を突き止めるのかを考える。平面上でロープなどを用いてGPSの仕組みを体験する。
4	コンプガチャ問題 (コンプリートガチャ)	コンプリートガチャでかかる費用とそうなる理由を考える。手持ち資金を設定して、どの程度の費用でどの程度達成できるか実験する。
5	ものの重さと移動	ものの移動を通して、力学の基本とよく言われる事例を考える。力学台車に乗せる重量を変えて、どれくらいの力や時間を必要とするかを体験する。
6	様々なエネルギー	日常で簡単に使っているエネルギーとその大きさについて考える。断熱容器や手回し発電機などを用いて日常利用するエネルギーの大きさを実感する。
7	クルクル回るものたち	回転するものにみられるいくつかの現象を考える。ジャイロや車輪などを用いて回転する物体の意外な現象を実験する。
8	火のないところに煙？	火を使わずに火が出る理由を考える。断熱容器内で急速に圧縮すると発火する実験を行う。
9	おもしろ焼きそば	途中で焼きそばの色が変わる理由を考える。中華そばを調理する途中で調味料により色が変わることを実験する。
10	風で物を浮かべる	強力な送風機でピンポン玉などが浮き続ける理由を考える。ピンポン玉やカップ麺の容器が送風機により一定範囲内に浮揚することを実験する。
11	バスボム	バスボムのようなものを作り、泡が出てくる理由を考える。試薬を調合してバスボムのような入浴剤を作り、実際に発泡することを実験する。
12	小麦粉でボン！	小麦粉が爆発する理由を反応面積などから考える。粉じん爆発や酸素中でのスチールウール燃焼実験を行う。
13	花火のふしぎ	花火の色や酸化の仕組みを考える。炎色反応や花火の燃焼実験を行う。
14	総合演習	これまでの学修内容を振り返る。
15	まとめ	これまでの学修内容と得られた知見を再確認する。

《共通教育科目 暮らしと健康》

科目名	食と健康	科目ナンバリング	BLIL21001
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目的とし、消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示する。国内外での実践事例や教材を紹介し、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをめざす。本授業は兵庫県教育委員会の高連携科目でもある。

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性と意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- 成績評価の方法と基準  
毎回の講義後に提出を求めるリアクション用紙（20%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、定期試験（50%）
- フィードバックの方法  
わからない事はオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

テキストは使用しない。適宜、資料・プリントを配布する。

《参考図書》

「くらしの豆知識（2017年9月発刊予定）」 国民生活センター  
「ハンドブック消費者 消費者庁

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《備考》

- 授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。定期試験の受験資格は実施回数分の2以上の出席（遅刻・早退3回は欠席1回とみなす）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。
2	消費者教育の必要性	消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。
3	消費者市民社会とは	消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。
4	消費者問題と歴史 1	不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
5	消費者問題と歴史 2	食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
6	消費者問題と歴史 3	食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。
7	法から見た消費生活	近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。
8	企業から見る消費者教育	A C A Pの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。
9	海外における消費者教育	ユニセフやA C Eの活動を通して海外における実情を理解することができる。
10	持続可能社会と消費者	持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。
11	エシカル（倫理的）消費 1	エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。
12	エシカル（倫理的）消費 2	消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。
13	エシカル（倫理的）消費 3	消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。
14	エシカル（倫理的）消費 4	エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	BLIL21002
担当者氏名	三宅 一郎			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。  
 体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

毎時間プリントを配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。  
 健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業時間外学習》

<予習方法>  
 下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。  
 <復習方法>  
 学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。レポートに対しコメントを付して返却する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認すると共に、今後の自己の健康管理に役立ててもらいたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	BLIL21002
担当者氏名	矢野 琢也			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力</li> <li>◎ 基教-F 自然・健康について理解する力</li> <li>○ 基教-G 論理的思考力</li> </ul>			

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1. 運動（トレーニング）、2. 栄養、3. 休養 の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出80%、期末の課題レポート20%で評価します。

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する（減量など）。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング（筋トレ）の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養（リカバリー）の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	科目ナンバリング	BLIS21003
担当者氏名	徳田 泰伸、西尾 和典		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)  
『からだロジー入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
<復習方法>実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)		科目ナンバリング	BLIS21004
担当者氏名	樽本 つぐみ、徳田 泰伸、矢野 琢也、西尾 和典			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力			

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）  
『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>  
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。  
<復習方法>  
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。  
毎時間の受講成果をノートにまとめる(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめるレポート提出(30%)レポートはコメントを付して返却する

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	私のためのキャリア設計		科目ナンバリング	BCAL21001
担当者氏名	三上 嘉代子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-A コミュニケーション力 <input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力			

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《成績評価の方法》

1. 平常点(授業への取組姿勢) 50%、
2. レポート 50% (提出遅れは減点) レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

平成29（2017）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	プレゼンテーション		科目ナンバリング	BCBL11001
担当者氏名	石原 敬子、竹川 宏子、中本 淳、土方 直子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力			

《授業の概要》

大学での学修ではもちろんのこと、社会生活の様々な機会においても必要とされるプレゼンテーションのうち、スピーチや口頭発表、討論などでの方法を実践を交えて学ぶ。授業では、各種のスピーチ（自己紹介、時事ニュースの紹介など）、プレゼンテーションの技術（ストーリーの作り方、発表の仕方）、ディベートの方法（立論、反論、最終弁論の作成）を演習を通して身につける。

《授業の到達目標》

- ・多様なテーマに応じたスピーチやプレゼンテーションができるようになる。
- ・オーラルなプレゼンテーションでのストーリーの作り方、説得の技術、発表の仕方を理解し、実践できるようになる。
- ・立論・反論・最終弁論の作成・発表について演習で取り組み、ディベートを行うことができる。

《成績評価の方法》

平常点（毎時間の授業時の課題への取り組み・評価、事前事後学習への取り組み状況）とレポート課題をもって評価する。評価の割合は、平常点70%、レポート課題30%とする。提出物についてはコメントを付して返却する。

《テキスト》

プレゼンテーション協会『学生のためのプレゼンテーション・トレーニング』実教出版、2015年。

《参考図書》

銅直信子・坂東実子著『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』図書刊行会、2013年。  
 佐々木繁範著『スピーチの教科書』ダイヤモンド社、2012年。  
 その他、授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

毎時間、次回までの課題を指示するので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要、進め方 プレゼンテーションとは	授業の狙い、進め方、到達目標、受講上の注意事項について説明する。 プレゼンテーションの目的や方法、効果について学び、その必要性について理解する。
2	スピーチ (1) 魅力的な自己紹介	自己紹介の仕方を工夫し、印象に残るスピーチを行う。
3	スピーチ (2) さまざまなスキル	コミュニケーション・スキル、非言語的コミュニケーションについて学ぶ。
4	スピーチ (3) Show & Tell	お気に入りのものを持参し、提示しながら紹介する。
5	スピーチ (4) 最新の時事ニュース	新聞やテレビなどで報じられた最新の時事ニュースを取り上げ、紹介する。
6	口頭発表の技術 (1) ストーリーの作り方	プレゼンテーションでの構成のあり方、ストーリーの作り方について学ぶ。
7	口頭発表の技術 (2) 説得の技術	プレゼンテーションでの説得の技術について学ぶ。
8	口頭発表の技術 (3) レジュメの作成	プレゼンテーションの原稿に基づいて、レジュメを作成する。
9	口頭発表の技術 (4) 発表	工夫した発表を行う。
10	意見の形成と主張	賛否が分かれる問題について、自分の意見をまとめ、主張する。
11	ディベート (1) ディベートとは何か	ディベートの目的・流れ、ルールとマナーについて学ぶ。
12	ディベート (2) ディベートの準備	チームに分かれて、アイデアを練る。
13	ディベート (3) ディベートの準備	質問・反論の準備をする。
14	ディベート (4) ディベートマッチ	前回の授業で作成した内容に基づき、ディベートマッチを行う。
15	学習のまとめ	プレゼンテーションの目的や方法、実践についてふり返り、学んだ方法や技術について理解を深める。

科目名	アプリケーションソフト		科目ナンバリング	BCIS11001
担当者氏名	森下 博、西田 悦雄			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 情報処理能力 <input type="radio"/> 2-5 課題発見・分析力・解決力			

《授業の概要》

ビジネスでの現場での情報活用能力の実践を想定し、一般的に利用度が高いワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの3つに焦点を当て、より実践的な操作方法や知識を学習し、演習によるより高度な情報活用能力の修得を目指します。併せて、データの集計や分析、他者への説得力を向上させる方法等の獲得も目的とします。

《授業の到達目標》

(1)ワードプロセッサの役割を理解し、拡張された機能を駆使した文書作成が行える。(2)表計算ソフトの役割を理解し、基本操作と関数や拡張機能を駆使した集計や分析が行える。(3)プレゼンテーションソフトの役割を理解し、他者への有用な資料作成が行える。(4)3つのアプリケーションの連携ができ、情報の集計や分析に役立てられる。

《成績評価の方法》

授業毎に提示する練習問題(40%)とその内容をもとに実践する提出課題での到達度(60%)の合計で評価します(紙媒体による筆記試験は行いません)。分らないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《テキスト》

指定の教科書はありません。授業内で配布するプリントや紹介するWebページなどを利用します。

《参考図書》

特に指定する図書はありません。有用な参考図書や情報は授業内で必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

提出課題は演習時間だけでなく授業外の時間も活用し、完成度を一層向上させるように努力してください。授業や課題と直接関係がないものであっても、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを活用し、常に復習のつもりで取り組んでください。

《備考》

コンピュータをより深く理解し、より高度な応用力を身につけるため、普段からコンピュータの活用を心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ワードプロセッサ(1)	ガイダンスとビジネス文書編集
2	ワードプロセッサ(2)	文書作成と図の利用、ヘッダー・フッターによるレイアウト編集
3	ワードプロセッサ(3)	表組み、ワードアート、ページ罫線、図形の利用
4	ワードプロセッサ(4)	段組み文書作成
5	表計算ソフト(1)	表の基本：罫線を主とした書式設定と基本関数の活用
6	表計算ソフト(2)	参照：相対参照と絶対参照、VLOOKUP関数の活用
7	表計算ソフト(3)	条件：条件判定と論理関数の活用
8	表計算ソフト(4)	グラフ描画：単一グラフと複合グラフ
9	表計算ソフト(5)	集計：シート間の集計と書式の活用
10	表計算ソフト(6)	データベース関連機能の活用：ピボットテーブルとピボットグラフ
11	表計算ソフト(7)	編集作業の応用：コピーとリンク貼り付け、文字列操作関数
12	プレゼンテーションソフト(1)	プレゼンテーションソフトの基礎と図表の利用
13	プレゼンテーションソフト(2)	スライド編集：スライドの視覚効果、スライドマスタ
14	プレゼンテーションソフト(3)	資料印刷：配布資料とノート
15	総合的演習	それぞれのソフトの応用課題と3つのアプリケーションソフト間での連携

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	簿記演習 I	科目ナンバリング	BCBS21002
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-3 キャリア形成力		

《授業の概要》

商業簿記の基本原則を習得し、日商簿記検定3級に向けた基礎を学習します。取引ごとに問題演習をし、貸借対照表と損益計算書の作成方法を習得します。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

取引を仕訳で表現することを身につけるとともに、貸借対照表と損益計算書の意義と作成方法を習得します。

《授業時間外学習》

宿題を出しますので、次回授業時に提出してください。

《成績評価の方法》

授業中に行う小テスト（3回程度）で評価します。

《備考》

12桁の電卓が必要です。日商簿記検定の取得は就職にも有利です。是非合格を目指しましょう。

※次々回授業時に小テストの解答を示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記の基礎	簿記とは何か
2	日常の手続き	仕訳の仕組み
3	勘定	仕訳から勘定記入の流れ
4	商品売買	商品売買の基本的な処理方法 三分法
5	現金	簿記上の現金とその取扱い
6	当座預金	当座預金の意味と取扱い 当座借越の処理
7	小口現金	小口現金の意味と処理 インプレストシステムの仕組みと処理方法
8	約束手形	手形の仕組みと約束手形の基礎的処理方法
9	その他の期中取引	前受け・前払い、仮受け・仮払い、利息計算、付随費用、有価証券、租税公課、引出金などの処理方法 訂正処理の仕方
10	試算表 1	試算表の意義 試算表の仕組みと作成方法。
11	試算表 2	試算表の作成演習
12	決算手続き 1	貸倒引当金、有価証券の評価、消耗品の処理、未収・未払いの処理、減価償却
13	決算手続き 2	売上原価の計算
14	精算表	精算表の形式と作成方法
15	復習と確認	簿記の基本的処理の確認と総合演習

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	簿記演習Ⅱ	科目ナンバリング	BCBS21003
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 経済・社会の動きを見る力 <input type="radio"/> 3-3 キャリア形成力		

《授業の概要》

前半は商業簿記の基本原則を習得し、日商簿記検定3級に向けた基礎を学習します。後半は問題演習を中心に貸借対照表と損益計算書の作成方法を習得します。2月に行われる日商簿記検定3級合格を目指しましょう。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

簿記演習Ⅰ・Ⅱを通じて簿記の基本を身につけます。この科目を学んだ後、会計学入門・会計学・工業簿記・財務諸表論・簿記論へと学習を進めることで、会計学の総合的な専門知識を習得することができます。

《授業時間外学習》

宿題を出しますので、次回授業時に提出してください。

《成績評価の方法》

授業中に行う小テスト（3回程度）で評価します。

《備考》

12桁の電卓が必要です。日商簿記検定の取得は就職にも有利です。是非合格を目指しましょう。

※次々回授業時に小テストの解答を示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	簿記学習の目的
2	簿記の目的	貸借対照表・損益計算書・仕訳
3	商品売買（1）	仕入と売上
4	商品売買（2）	売上原価の算定（決算整理仕訳）
5	固定資産（1）	固定資産の取得・減価償却（決算整理仕訳）
6	固定資産（2）	固定資産の売却
7	手形取引（1）	手形取引の決済と貸倒
8	貸倒引当金	貸倒損失と貸倒引当金
9	復習と確認（1）	簿記の基本的処理の確認と総合演習
10	費用の見越しと繰り延べ	費用の見越しと繰り延べ（決算整理仕訳）
11	手形取引（2）	手形の裏書と割引・為替手形
12	未払金と未収金	仕入と売上以外の取引
13	仮払金と仮受金	仮払時・仮受時の処理方法と確定時の処理方法
14	有価証券	有価証券の購入・売却・評価替（決算整理仕訳）
15	復習と確認（2）	簿記の基本的処理の確認と総合演習

科目名	情報モラル	科目ナンバリング	BCIL21002
担当者氏名	榎木 浩		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-5 課題発見・分析力・解決力 <input checked="" type="radio"/> 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

インターネットやケータイ、スマートフォンの普及により大量の情報に瞬時に接し、情報を活用することにより日々の生活において様々な利便性が得られる一方、いじめや詐欺などのトラブル、ウィルスの被害、著作権侵害などの危険性と隣り合わせでもあり、自己の責任において対処しなければならない。この授業では情報に関連した法律、モラル、技術を学び、適切なルールやマナーのもとで情報を取り扱う方法や考え方を学ぶ。

《授業の到達目標》

- インターネット、スマートフォンのルールやマナーを理解できる。
- インターネット、スマートフォンでのトラブルに対処できる。

《成績評価の方法》

レポート課題等の提出物40%、到達度レベル確認60%  
 レポートはコメントを付けて写しを返却する。  
 分からないことは、オフィスアワー等で受け付ける。

《テキスト》

毎回プリントを配布する。

《参考図書》

『インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版、2014  
 『最新 事例でわかる情報モラル』実教出版

《授業時間外学習》

- (1) 事前学習  
 予め授業のプリントを公開するので読んでくること。
- (2) 事後学習  
 テーマ終了毎に課題を出すので、レポートにして提出すること。

《備考》

授業中は頻繁に質問をするので、はっきりと答えてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容、進め方、および成績評価の説明。 情報モラルとは何か
2	情報と情報社会	情報と情報社会の特徴、インターネットの光と影、情報のはたらきと性質
3	情報と情報社会	情報の受信・発信と個人の責任
4	個人情報と知的財産	個人情報とは、個人情報の流出と保護
5	個人情報と知的財産	知的財産権、著作権、知的財産の正しい利用
6	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	電子メールによる情報の受信・発信
7	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	Webページによる情報の受信・発信
8	ネットにおけるコミュニケーションとマナー	ネット上のコミュニケーション
9	情報社会における生活	社会生活における情報
10	情報社会における生活	身近な生活における情報
11	情報社会における生活	ネット社会におけるトラブルと犯罪
12	情報セキュリティとネット被害	情報セキュリティ
13	情報セキュリティとネット被害	コンピュータへの被害
14	情報セキュリティとネット被害	ネット社会のセキュリティ技術
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達度レベルを確認する。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	情報デザイン	科目ナンバリング	BCIL21003
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 2-4 情報処理能力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力		

《授業の概要》

社会への参画にはコミュニケーション能力を要し、やり取りされる情報を正確でわかりよい伝達が必要です。情報の特性や特徴を捉え、より良いコミュニケーションの表現や技術、表現方法、思考など情報の設計を学びます。授業では基礎的な知識や考え方を説明する講義を主としますが、理解度をはかるための演習も行います。考え方や表現方法は主観的な要素を多く含みますが、この科目では客観的な視点での情報を扱います。

《授業の到達目標》

情報を分かりやすくかつ正確に適切な情報量を伝達するため、

1. 情報の整理ができること、
2. 表現の意味と方法が理解ができること、
3. それら意味と表現を活用し適切な表現ができること、

を到達目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出点および内容点(40%)、試験に代わる課題(50%)、平常点(10%)とし総合的に判定し評価します。  
 課題提出は授業内で提示された課題のすべてを対象とします。  
 Eラーニングシステムのコメント欄で修正点等をフィードバックします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要・導入	情報とは？ 情報をデザインするとは？ 情報デザインの意義
2	意味と形式	意味と形式の違い
3	整理	情報を整理するためのアイデアや方法
4	形	形が有する情報の活用
5	色	色彩が有する情報の活用
6	図・表・グラフ	図や表とグラフの違いと有用性
7	モデリングの基礎(1)	「もの」の特性：インスタンスとクラス
8	モデリングの基礎(2)	「もの」の特性：関連 集約の概念とその応用
9	モデリングの基礎(3)	「もの」の特性：関連 汎化と継承の概念とその応用
10	モデリングの基礎(4)	「手続きと制御」：事象の時系列、シナリオ、事象トレース図
11	モデリングの基礎(5)	「手続きと制御」：並行・同期動作、アクティビティ図
12	モデリングの基礎(6)	「手続きと制御」：事象、状態、動作、状態遷移図の概念と応用
13	モデリングの基礎(7)	「機能と入出力」：プロセスとデータストア
14	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの定義と有用性
15	まとめ	その他補足とまとめ

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は適宜配付します。

《参考図書》

1. Sinan Si Albir著、原 隆文 訳、『入門UML』、オライリージャパン。2. Russ Miles, Kim Hamilton著、原 隆文 訳、『入門UML2.0』、オライリージャパン。など。  
 その他参考文献は必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

課題作成は授業時間内での作業を予定していますが、授業時間内で完成しない場合には時間外で作成して下さい。  
 授業内で配付する資料を熟読し理解して下さい。

《備考》

より深い理解を促すために授業計画の順序等変更・修正する場合があります。また、Eラーニングシステムを活用した授業です。

科目名	情報のための数学		科目ナンバリング	BCIL21004
担当者氏名	森下 博			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 主体的に学び考える力</li> <li>◎ 2-2 論理的思考力</li> <li>○ 2-4 情報処理能力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>○ 3-1 経済・社会の動きを見る力</li> </ul>			

《授業の概要》

授業では、情報科学の分野で必要とされる数学とその思考の方法について取り上げます。問題の本質を捉え、正解または最適解に近づくために必要な数学的手法の獲得を目指します。具体的には、基数変換、数理解析、線形代数、数理論理などの基礎概念について扱うこととし、その理解とともに、数学的なアプローチの強みとその解決を実感できることを目指します。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業の到達目標》

- 与えられた問題の本質を捉え、目標達成までのビジョンを描くことができる。
- 与えられた問題に対するアプローチの方法について、説明することができる。
- 与えられた問題を解決するまでの過程を、段階に分けて進めることができる。

《授業時間外学習》

授業で学んだ内容については、確実に身に付くようしっかり復習して下さい。また、より理解を深め、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みにも期待します。

《成績評価の方法》

提出課題40%

筆記試験60%

分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

日常の問題にはいつも正解と対策が用意されているわけではありません。解決に向けてどのように数学を駆使するか、そのアプローチの感覚を身に付けてほしいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明	授業の概要を説明するとともに、情報のための数学の具体的な事例紹介をおこなう。
2	データと情報の表現	問題解決のための戦略として、シミュレーションの活用と数学的思考について学ぶ。
3	情報と基数変換(1)	数の表現方法としてのさまざまな位取り記数法による進数表現と計算について学ぶ。
4	情報と基数変換(2)	十進数から二進数および十六進数への基数変換をおこない、色の表現について学ぶ。
5	情報と基数変換(3)	再帰的な構造をもつ問題のシミュレーションをもとに、指数の大きさについて学ぶ。
6	関数と数理解析(1)	数理モデルをもとに、定めた規則にしたがうシミュレーションの方法について学ぶ。
7	関数と数理解析(2)	漸化式による数列と座標変換について触れ、描画点の収束発散の様子について学ぶ。
8	関数と数理解析(3)	自己相似形の性質に触れ、新たな次元の定義による計算と図形の描画について学ぶ。
9	行列と線形代数(1)	行列の性質と和と積の演算を用いた問題解決のための行列の活用方法について学ぶ。
10	行列と線形代数(2)	連立方程式のさまざまな解き方の中で、公式による求め方とその拡張について学ぶ。
11	行列と線形代数(3)	行列の表現をもとに前進消去と後退代入による多元連立方程式の解法について学ぶ。
12	命題と論理演算(1)	コンピュータ内部での演算の仕組みを知るための論理演算とパターンについて学ぶ。
13	命題と論理演算(2)	ブール代数のさまざまな論理演算を確かめ、また符号誤りのチェックについて学ぶ。
14	命題と論理演算(3)	予想した命題の正しさの証明をするための手段として、数学的帰納法について学ぶ。
15	授業総括と振り返り	授業内容を総括し、情報のための数学のツールとそのアプローチについて振り返る。

科目名	グラフィックス	科目ナンバリング	BCIL21005
担当者氏名	田中 正彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-4 情報処理能力 ○ 3-4 創造力		

《授業の概要》

コンピュータグラフィックスの基礎的技法を学び、イラスト作成などの作品制作に結びつける。  
 この授業では色や形の情報を数値で表すベクトルグラフィックスを主に扱います。  
 フリーのCGソフトであるInkscapeを用いて作品作りを行います。

《授業の到達目標》

次のことがらを理解し活用することができる。  
 画像の表現方法、データの扱い方、色彩、構成  
 ドローソフトの使い方、グラフィックスの基礎的技法

《成績評価の方法》

毎回課題提出があります。  
 毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。(100%)  
 提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

なし  
 資料はe-Learningシステムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考図書》

CGに関する書籍は数多く出版されているので、いろいろ読んでみることを薦めます。  
 また、CGに限らず絵画を見ることも作品制作の参考になります。  
<http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/>

《授業時間外学習》

その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。  
 作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》

基本をきっちり理解し、楽しく作品制作にとりくみましょう。  
 e-Learningシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要	授業概要とeラーニングの使い方
2	ドローソフトとは	ドロー系ソフトウェアの基本的な使い方
3	作品の構成	ドロー系ソフトウェアでの作品制作の考え方
4	パスの構造	パスの構造とその編集方法
5	ベジェ曲線	ベジェ曲線を描くツールの使い方
6	着色	パスの色、色の表現、グループ化
7	グラデーション	グラデーションの作り方、使い方
8	ビットマップデータ	画像ファイルの利用と作成
9	レイヤー (1)	レイヤーと部品の重なり
10	レイヤー (2)	レイヤーをうまく使って作業する
11	いろいろな機能	スナップ、整列、配置、クリップ
12	文字	文字に関する機能
13	作品制作(1)	印刷物としての作品を考える
14	作品制作(2)	作品の構成を考える
15	作品制作(3)	作品制作と講評

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	ビジネス実務総論		科目ナンバリング	BCBL21006
担当者氏名	土方 直子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 1-2 主体的に学び考える力</li> <li>◎ 2-3 ビジネス基礎力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>○ 3-3 キャリア形成力</li> </ul>			

《授業の概要》

現代社会の経済活動の中心となる会社について、その存在意義・機能・組織形態について理解し、会社の一員として働く際に必要なビジネス実務の基礎知識を修得する。職場常識・ビジネスマナーからビジネスコミュニケーション（電話応対、来客応対、職場でのやりとり）まで幅広く学ぶことで働くイメージが具体的になり、自らのキャリア形成に役立てることができる。

《授業の到達目標》

- 現代社会のしくみや会社活動について理解できる。
- ビジネス実務の基礎知識を理解し、基本的スキルを修得し、活用することができる。
- ビジネスシーンでの様々なコミュニケーションにおける適切な対応方法が理解できる。
- 自らの働くイメージを具体的にすることができる。

《成績評価の方法》

定期試験（50％・テキスト持ち込み不可にて実施）、小テスト（40％）、課題等の提出物（10％）

小テスト等について、別の用紙にコメントを付して返却する。

《テキスト》

講師作成のレジュメを配布する。

《参考図書》

『ビジネス実務総論』一般財団法人全国大学実務教育協会編、紀伊国屋書店発行、2012

《授業時間外学習》

- 予習の方法：配布された資料に掲載されているキーワードについて調べておくこと。
- 復習の方法：授業内で完成させたレジュメの内容を振り返り、知識を定着させること。

《備考》

配布したレジュメはきちんとファイリングし、毎回、持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	会社活動の基本と組織形態	会社の存在意義と機能、組織形態、社会的責任について学ぶ。
2	社会人としての基本と常識・マナー	ビジネスワーカーである前に、まず、社会人としての自己管理能力、社会常識や公共のマナーを学ぶ。
3	ビジネスワーカーとしての資質と能力	ビジネスワーカーとしてのモラル、職場常識、ビジネスマナー、人間関係の考え方について学ぶ。ビジネスワーカーとして修得する能力についても考える。
4	仕事の基本的な進め方	仕事の基本的な進め方、職場でのホウ・レン・ソウ、PDCAサイクル、会議に関する知識、情報管理、ビジネス法規等について学ぶ。
5	コミュニケーション①「話す・聴く」	職場での話し方・聴き方、ビジネスシーンでの言葉遣い（敬語表現）について学ぶ。
6	コミュニケーション②「来客応対」	来客応対の基礎知識（受付、案内、茶菓サービス、席次、見送り、名刺の取り扱い）を学ぶ。
7	コミュニケーション③「電話応対」	電話応対の基礎知識（電話の受け方・かけ方のポイント、様々なシーンでの対応方法）について学ぶ。
8	コミュニケーション④「文書作成」	ビジネス文書の形式と内容の基本、ビジネスメールの作成方法について学ぶ。
9	ビジネスにおける交際業務	交際業務（慶弔関係）のマナーや贈答のしきたりについて学ぶ。
10	ビジネスマナー	ビジネスワーカーに必要なビジネスマナー（食事のマナー、服装のマナー等）を学ぶ。
11	サービス産業の現状と様々なサービス	現代日本のサービス事情と様々なサービスについて具体的事例を取り上げながら学ぶ。
12	サービススタッフに求められる資質と能力	サービススタッフに求められる資質と能力、サービススタッフとしての基本的考え方を学ぶ。
13	サービス実務	接客における顧客心理、サービスの7つのステップ（待機・迎え入れ・アプローチ・商品説明・クロージング・会計・見送り）について学ぶ。
14	サービスコミュニケーション	サービススタッフとしての言葉遣い（接客表現）を口頭表現、文章表現の2つの側面から学ぶ。
15	これからの時代のキャリア形成	ビジネス実務で学びをもとに自らの将来像をイメージし、関心ある業界や職種について調べる。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	秘書総論		科目ナンバリング	BCBL21008	
担当者氏名	土方 直子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 2-4 情報処理能力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-3 キャリア形成力				

《授業の概要》

秘書としてサポート業務を行う際の心構えや仕事の内容・進め方、コミュニケーションの取り方などを学び、交際業務や接遇の知識を身につける。こうした業務に精通していることは、秘書として働く場合はもちろんのこと、事務職等においても役立つ。また、新入社員としての仕事は上司や先輩のサポートをすることでスタートするので、好感度の高い対応ができるようになる。

《授業の到達目標》

- 「秘書」とは何か、その立場や仕事内容を理解できる。
- 秘書に求められる基礎知識を理解できる。
- 「サポート業務」の意味を理解し、ビジネスにおける様々な場面で適切な考え方をすることができる。

《成績評価の方法》

定期試験(50%・テキスト等の持ち込み不可にて実施)、毎回の講義で提出する課題(50%)

課題等にコメントを付して返却する。

《テキスト》

『新しい時代の秘書ビジネス実務』  
 全国大学実務協会編集、紀伊国屋書店、2014

《参考図書》

『礼節のルール～思いやりと品位を示す不変の原則25』P・M  
 フォルニ ディスカバヴァー・トゥエンティワン、2011

《授業時間外学習》

- 予習の方法：テキストの授業予定部分を熟読し、わからない言葉の意味を調べておくこと。
- 復習の方法：授業内容を振り返り、A4用紙一枚に授業の内容をわかりやすくまとめる(次回に提出する)。

《備考》

ビジネスシーンで必要とされる正しい言葉遣いを身につけるために、普段の生活から意識してきちんとした話し方を心がけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	秘書の仕事と役割	「秘書」とは何か、その役割と歴史、仕事内容について学ぶ。秘書業務の基本となるサポート業務について理解を深める。
2	秘書に求められる資質と能力	秘書にふさわしい人物像について、求められる資質や能力という観点から確認する。秘書として働くにあたっての心構えや気配りについて学ぶ。
3	秘書業務の内容と仕事の進め方	基本的な秘書業務の種類や内容を確認し、秘書としての仕事の進め方の基本を身につける。
4	秘書とスケジュールリング	秘書の仕事の基本となる「スケジュール管理」について、その目的と具体的方法を学ぶ。
5	秘書のコミュニケーション	秘書としての様々なコミュニケーション方法、ビジネス会話の基本的な話し方・聞き方を学ぶ。
6	秘書の言葉遣い	ビジネスシーンでの正しい言葉遣い(敬語)、秘書として特に必要な接遇表現(やわらかい印象の話し方)を学ぶ。
7	来客応対	来客応対の基本について内容を理解し身につける(名刺の取扱い、ご案内、茶菓サービス、見送り、席次等)
8	電話応対	電話応対の基本について内容を理解し身につける(電話の受け方・かけ方のポイント、電話特有の表現方法等)
9	出張業務	秘書の三大業務の一つである「出張業務」について、スケジュール作成や手配業務を学ぶ。
10	会議業務	会議について一連の業務を学ぶ(会議の種類、準備、会議中のサポート、終了後の業務等)
11	交際業務	交際業務(慶弔行事)におけるマナーや贈答のしきたりについて学ぶ。
12	通信業務・文書業務	ビジネス文書、ビジネスメールの基本的知識を修得し作成方法を学ぶ。各種文書の取扱い方法についての理解を深める
13	情報管理・資料整理・ファイリング	ビジネスに必要な情報管理の重要性について学ぶ。オフィスの資料整理やファイリングの方法を身につける。
14	ビジネスマナー	社会人として、秘書として必要なビジネスマナーを学ぶ(食事のマナー、服装のマナー、人間関係のマナーなど)
15	これからの時代の秘書に求められる実務	現代の社会状況や流れを学び、変化する秘書業務について理解を深め、臨機応変な対応ができるようにする。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	総合演習 I	科目ナンバリング	BCTS23010
担当者氏名	澤山 明宏		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-3 キャリア形成力		

《授業の概要》

公務員を志望し、公務員試験合格を目指す学生、あるいは公務員試験への準備を通じて教養・知識を充実し、就職活動への準備を企図する学生のために、公務員試験の内容に沿った授業です。

《テキスト》

毎時間レジュメを配布する。

《参考図書》

授業中に必要に応じて紹介します。

《授業の到達目標》

公務員試験の一次試験合格のための思考力、表現力の基礎を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

- ・毎回の内容が本番試験に直結していますので、復習が不可欠です。不明なところがあれば、必ず教員に質問してクリアしてください。
- ・宿題を出しますので、次回までに解答を仕上げ提出してください。次回授業において詳しく説明します。

《成績評価の方法》

- ・質問などの授業への積極的取組み：30%
- ・適宜実施するショートテスト等の点数：70% (ショートテストの解答は次回に示します。)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 数的処理入門 1	公務員種類と仕事、公務員試験の概要などについて説明 計算の基本—文字式と方程式
2	数的処理入門 2	計算の基本—文字式と方程式 2
3	数的処理入門 3	不等式と連立方程式
4	数的処理入門 4	割合に関する問題
5	数的処理入門 5	速さの問題の基本
6	数的処理入門 6	流水算と仕事算
7	数的処理入門 7	整数の性質
8	数的処理入門 8	場合の数と確立
9	数的処理入門 9	命題と論理
10	数的処理入門 1 0	順序関係と位置関係
11	数的処理入門 1 1	対応関係と試合の問題
12	数的処理入門 1 2	推理に関する問題
13	数的処理入門 1 3	図形の基礎と面積・体積
14	数的処理入門 1 4	正多面体の性質 軌跡と位相
15	言語分野入門	同意語・反意語など

《専門教育科目 プロジェクト実践科目》

科目名	プロジェクト演習入門		科目ナンバリング	BPPS11001
担当者氏名	池本 廣希、堀池 聡、木下 準一郎、高野 敦子、榎木 浩、土方 直子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>◎ 1-3 コミュニケーション力</li> <li>○ 1-5 チームワーク力</li> <li>○ 2-4 情報処理能力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> </ul>			

《授業の概要》

プロジェクト学習では、学生が主体的に課題を発見・提起し、学んだ知識を利用して調査・思考を行い、課題に対する解決策を導き出し、それをきちんと報告・発表できることが求められる。この授業では、チーム活動を通して問題解決のプロセスを体験しながら、プロジェクト学習とは何か、プロジェクト学習を進める上での道具・手法について講義と演習により学ぶ。

《テキスト》

随時プリントを配布する

《参考図書》

鈴木敏恵（2012）『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版

《授業の到達目標》

課題発見、目標設定、計画立案、情報収集・分析・判断・評価、課題解決、報告（プレゼンテーション）、振り返り（自己評価と成長確認）というプロジェクト学習の基本的な流れを理解する。

《授業時間外学習》

期限のある作業について、授業中に終わらなかった場合は授業時間外にグループで作業を完了させること。

《成績評価の方法》

平常点50%  
成果物（成長報告書と凝縮ポートフォリオ）50%

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で受け付ける。

《備考》

ポートフォリオを整理すること。  
アクティブラーニングを実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	プロジェクト演習の説明、授業の進め方、グループ編成、プロジェクト学習とは。
2	ブレインストーミングとKJ法	グループ討議でよく用いられるブレインストーミングとKJ法を実践と通して、課題発見を学習する。
3	課題発見と目標設定（講義・演習）	課題発見と目標設定の仕方を講義と演習を通して学習する。
4	計画立案と情報収集（講義・演習）	計画立案と情報収集の仕方を講義と演習を通して学習する。
5	問題解決策の創出（講義）	問題を解決するための情報分析、アイデア創出、判断、評価、具体化について説明する。
6	問題解決策の創出（演習）	問題解決策の創出を演習を通じて学習する。
7	問題解決策の評価（演習）	創出したアイデアの実現可能性や効果などの評価基準を設け、最も評価の高いアイデアを選ぶ方法を学習する。
8	問題解決策の評価（講義）	問題解決策の評価を演習を通して学習する。
9	問題解決策の具体化（講義）	決定したアイデアをより具体化し、問題解決策を実現するための実際の方策を考え、まとめる方法を学習する。
10	問題解決策の具体化・プレゼンテーション	問題解決策の具体化を演習を通して学習する。 第3者に伝えるために報告書としてまとめる方法を学習する。
11	プレゼンテーション（演習）	第3者に伝えるために報告書としてまとめる。
12	プレゼンテーション（演習）	まとめた報告書を発表する。
13	プロジェクト学習の再構築	元ポートフォリオから凝縮ポートフォリオを作成する。
14	プロジェクト学習の再構築	元ポートフォリオから凝縮ポートフォリオを作成する。 各自の凝縮ポートフォリオを展示し、相互評価を行う。
15	自己評価と成長確認	プロジェクトの活動について必ず振り返りを行い、自身の達成度を自己評価（コンピテンシー）し改善点をまとめ、成長報告書を作成する。

《専門教育科目 プロジェクト実践科目》

科目名	プロジェクト演習 I		科目ナンバリング	BPPS11002
担当者氏名	池本 廣希、堀池 聡、木下 準一郎、高野 敦子、榎木 浩、土方 直子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 1-3 コミュニケーション力</li> <li>◎ 1-5 チームワーク力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>○ 3-4 創造力</li> </ul>			

《授業の概要》

プロジェクト演習入門で学んだ内容をもとに、大学生活やキャンパスでの身近な課題を発見し、その課題解決にチームで取り組む。学生が自らテーマとなる課題を決定し、その解決に必要な情報や知識を収集し、解決策となるアイデアを創出し、実現可能な解決方法として提案する。最後にチームで報告としてまとめ発表する。この演習ではプロジェクト学習の基本的な流れを学生自身が実践、習得することに主眼を置く。

《授業の到達目標》

課題発見、目標設定、計画立案、情報収集・分析・判断・評価、課題解決、報告（プレゼンテーション）、振り返り（自己評価と成長確認）というプロジェクト学習の基本的な流れを実践できること。

《成績評価の方法》

平常点50%  
 成果物（成長報告書と凝縮ポートフォリオ）50%  
 分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	プロジェクト演習の説明、授業の進め方、グループ編成
2	準備	プロジェクトが取り組むテーマ（題材）を決め、そのテーマから問題（課題）を発見し、問題の本質を見極め明らかにする（目標設定）。
3	目標設定と計画立案	目標を達成するために必要な情報や作業を考え、時間配分等して、問題解決のための計画を立て、工程表を作成する。
4	問題解決策の創出	問題を解決するための情報を獲得し、ブレインストーミングやKJ法等を通して、情報の分析や判断をしながら、問題解決のアイデアをより多く創出する。
5	問題解決策の創出	問題を解決するための情報を獲得し、ブレインストーミングやKJ法等を通して、情報の分析や判断をしながら、問題解決のアイデアをより多く創出する。
6	問題解決策の評価・選定	アイデアの実現可能性や効果などの評価基準を設け、解決策を評価する。
7	問題解決策の評価・選定	アイデアの実現可能性や効果などの評価基準を設け、解決策を評価する。
8	問題解決策の評価・選定	解決策の評価にもとづき、最も評価の高いアイデアを選ぶ。
9	問題解決策の具体化・実施	問題解決策を実現するための具体的方策を考え、具体策を実施する。
10	問題解決策の具体化・実施	問題解決策を実現するための具体的方策を考え、具体策を実施する。
11	プレゼンテーション用の制作	第3者に伝えるために報告書としてまとめる。
12	プレゼンテーション	まとめた報告書を発表する。
13	凝縮ポートフォリオの作成	元ポートフォリオから凝縮ポートフォリオを作成する。
14	凝縮ポートフォリオの作成と評価	元ポートフォリオから凝縮ポートフォリオを作成し、相互評価を行う。
15	自己評価と成長確認	プロジェクトの活動について必ず振り返りを行い、自身の達成度を自己評価（コンピテンシー）し改善点をまとめ、成長報告書を作成する。

《テキスト》

随時プリントを配布する

《参考図書》

鈴木敏恵（2012）『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版

《授業時間外学習》

期限のある作業について、授業中に終わらなかった場合は授業時間外にグループで作業を完了させること。

《備考》

ポートフォリオを記録・整理すること。  
 アクティブラーニングを実施する。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	キャンパスライフ入門		科目ナンバリング	BSSS11001
担当者氏名	三宅 伸二、石原 敬子、堀池 聡、高野 敦子、榎木 浩、澤山 明宏、西田 悦雄、森下 博			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 2-4 情報処理能力 ○ 3-3 キャリア形成力			

《授業の概要》

1年I期の初年次教育として、4年間の大学生活を有意義に送るために必要な知識、大学が期待していること、地域が期待していること、社会生活のルールとマナー等を講義（外部講師講演含む）や演習を通じて学び、兵大生としての自覚と誇りを持ち、地域で活躍する人材となって育って行くための動機付けを行う。

《テキスト》

随時プリントを配布する

《参考図書》

随時紹介する

《授業の到達目標》

- ・兵大生としての自覚と誇りを持ち、地域で活躍する人材となって育って行く第一歩を踏み出すための知力・能力・人間力を修得する心構えを身につける。
- ・学修ポートフォリオを活用し、学習や生活に意欲的に取り組むことができる。
- ・キャリアポートフォリオを活用し、キャリア形成の意識を向上させ、自己実現に向けて積極的に行動する力を身につける。

《授業時間外学習》

ポートフォリオは毎回必ず記入し持参すること。授業時に出される課題は次回に提出すること。

《成績評価の方法》

平常点50%  
 ポートフォリオ（各テーマ成果物）50%  
 分からないことは毎回の授業やオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

楽しい大学生活を過ごしましょう。  
 授業進行によって各週テーマの入れ替えがあるかもしれません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業内容、授業等への取り組み方、学部長「現ビズの学び」、ポートフォリオの意義と内容
2	目標管理シート	目標管理シートの作成と懇談、履修指導
3	キャリアストーリー「自分史」	子どもの頃、中学、高校までの自分をノンフィクション作品としてまとめる。
4	キャリアストーリー「自分史」	子どもの頃、中学、高校までの自分をノンフィクション作品としてまとめ、朗読（発表）する。
5	ノートテイキング	模擬授業によるノートテイクとゼミ毎での個別指導
6	図書館ガイダンスとレポーティング	図書館利用のためのガイダンスと、レポート作成についての講義と演習
7	学習支援センター・情報（資料）収集と活用	学習支援センターの利用や支援内容の説明を受ける。 与えられた用語について、用語の意味などをインターネットを使わずに調べる。
8	情報（資料）収集と活用	与えられた用語について、学生がペアでその用語の意味、ビジネスとの関わり、ビジネス事例をコンピュータやインターネットを使わずに調べ、まとめる。発表する。
9	情報（資料）収集と活用	前回の授業でまとめた結果を発表する。
10	国際交流準備	英語による自己紹介等の作成と練習
11	国際交流	兵庫大学サマーキャンプ参加の留学生との交流
12	国際交流	兵庫大学サマーキャンプ参加の留学生との交流
13	キャリアストーリー「将来像」	外部講師によるキャリアストーリー講話、パネルディスカッション
14	キャリアストーリー「将来像」	自分のキャリアストーリー「将来像」の作成
15	自己点検と次期に向けて	修学基礎I説明、ポートフォリオをもとにした自己点検を行う。

科目名	修学基礎 I	科目ナンバリング	BSSS11002
担当者氏名	石原 敬子、堀池 聡、高野 敦子、澤山 明宏、笹平 康弘、西田 悦雄、森下 博、土方 直子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-3 キャリア形成力		

《授業の概要》

この授業では、日本語の運用能力のさらなる向上、とくに「読む力」「書く力」を重点的に鍛えることを目指して学習する。「読む力」に関しては、日本語の文章を読み解く力を、「書く力」に関しては、自分の考えや調べたことを、筋道立てて論じる力、読み手に対して正確にわかりやすく伝える力を培う。さらにインタビュー実践を通してコミュニケーションスキルの向上を図るとともに、依頼状などの文書の作成にも挑戦する。

《授業の到達目標》

- (1) 日本語での文章を読解できる。
- (2) 日本語での文章を構成でき、適切な表現で記述できる。
- (3) 日本語による文書表現ができる。
- (4) 日本語での会話（聴くこと、話すこと）を活用し、コミュニケーションを図ることができるなどの日本語のリテラシーの確立を目指す。

《成績評価の方法》

平常点（授業時の課題への取り組み、事前学習・事後学習への取り組みなど）とレポート課題をもって評価する。評価の割合は、平常点70%、レポート課題30%とする。提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

銅直信子・坂東実子著『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』国書刊行会、2013年。  
 プレゼンテーション研究会『学生のためのプレゼンテーション・トレーニング』実教出版、2015年。

《授業時間外学習》

毎時間課題を出すので、次の授業までにしっかりと取り組むこと。授業ではビジネス関連の文献・資料を取り上げる。日ごろから新聞やビジネス雑誌の記事などにも親しみ、経済・社会の動きに関心をもつようにしよう。

《備考》

「修学基礎 I」では、学修ポートフォリオの作成も課題とする。学修への取り組みや日常の気づきも記録する習慣をつけよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、受講上の注意事項などを説明する。
2	日本語の表現方法	「話し言葉」と「書き言葉」、主観表現と客観表現の区別、文体の統一など、基本的な表現方法について確認しよう。
3	文章の要約	文章を箇条書きにまとめたり、箇条書きを文章で表現する力を身につける。
4	読む力を鍛えよう (1)	文章の構成を学ぶ。資料の内容を理解して、ポイントを押さえて要約する。
5	読む力を鍛えよう (2)	文章の構成を学ぶ。資料の内容を理解して、ポイントを押さえて要約する。
6	読む力を鍛えよう (3)	資料の内容を理解して、ポイントを押さえて要約する。そのうえで、自分の考えをまとめる。
7	インタビューに挑戦しよう (1)	インタビュー先に宛てた依頼状を作成する。インタビューの内容を検討する。
8	インタビューに挑戦しよう (2)	目的に合ったインタビューを実践する。お礼状を作成する。
9	インタビューに挑戦しよう (3)	インタビューにより知り得た内容を、わかりやすく取りまとめて報告しよう。
10	読む力を鍛えよう (4)	相対立する意見が存在する問題を取り上げた文章を読み、論点を整理する。そのうえで、自分の考えを表現しよう。
11	書く力を鍛えよう (1)	伝えたいことを明示する文章の書き方を学ぶ。
12	書く力を鍛えよう (2)	テーマを決めてレポートを作成する。
13	書く力を鍛えよう (3)	文章を推敲し、より良いレポートに仕上げよう。
14	書く力を鍛えよう (4)	相対立する意見が存在するテーマを取り上げ、自分の考えを筋道立てて表現する。
15	学習のまとめ	この授業での学びを振り返り、学んだことを生かしてレポートを作成する。

《専門教育科目 専攻基礎科目》

科目名	現代ビジネス入門		科目ナンバリング	BIIL11001
担当者氏名	李 良姫			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 1-4 国際感覚・異文化理解力</li> <li>○ 2-1 経済学的思考力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力</li> </ul>			

《授業の概要》

日本経済や地域社会が直面する諸課題を経済と経営の側面から考察する。ビジネスは、その時代や社会のニーズに応える形で生まれるものであり、人々の暮らしを支え、経済・社会の発展に貢献している。授業では、グローバルビジネス、地域ビジネス、公共政策の視点から企業活動の意義や公的機関の役割について検討し、現代社会におけるビジネスの意味について理解を促す。

《授業の到達目標》

- 1) ビジネスとは何かについて説明することができる。
- 2) ビジネスの仕組みについて理解できる。
- 3) 日本経済が抱えている課題について理解できる。
- 4) 企業の経営仕組みを理解できる。
- 5) 現代ビジネスの役割と意義について理解できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果20% (参加意欲および討論内容によって評価する)
  - (2) レポート課題等の提出物20%
  - (3) 定期試験60%
- 地域のビジネス産業について調べたレポートにコメントを付けてフィードバックする。

《テキスト》

特に、使用しない。授業の進行に合わせて、必要な資料を配布する。

《参考図書》

- 『経験から学ぶ経営学入門』上林憲雄他著、雄有斐閣ブックス、2007  
 『日経ビジネス 日本経済入門』日経ビジネス編、日経BP社、2014  
 『最新日本経済入門 第4版』小峰 隆夫・村田 啓子著、日本評論社、2012

《授業時間外学習》

- (1) 日本の経済や地域の経済に関連する資料や情報を集め、メモを取り、それらを討論の際に活用する。
- (2) 事前に配布した資料について目を通し、出された課題について調べ提出する。

《備考》

常に地域の経済や企業の動きに興味を持ち、インターネットや新聞記事などの資料を多く集めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、授業概要について説明した上で、参考図書の紹介を行う。
2	現代ビジネスの定義	ビジネスとは何かについて理解し、ビジネスの仕組みを説明できる。
3	日本経済の現状と課題	現在における日本経済の動向と現状を説明し、日本経済が抱えている課題について理解できる。
4	地域経済の課題	地域社会が抱えている課題を経済的な側面から考察し、その課題に対する解決策について議論・提案することができる。
5	グローバルビジネス動向	目まぐるしく変化する世界のビジネス動向を把握し、その変貌にどのように対処していくかについて考察することができる。
6	需要と供給	消費者と需要、需要供給と市場について分析し、それぞれの特徴について説明できる。
7	経済成長	経済成長の条件、経済開発及び経済成長が引き起こす環境問題について考察し、持続可能な経済成長の可能性について考えることができる。
8	企業経営理念	会社の経営とはどんなことか、会社はどのような方針で動いているのかについて追求することができる。
9	企業組織と社員	会社はどんな仕組みで動いているのか、社員は仕事をどのように分担しているのかについて説明することができる。
10	人材育成制度	企業では、社員はどのようにして育成されるのかについて説明することができる。
11	国際経営	会社は、海外でどのように経営しているのかについて説明することができる。
12	企業の社会貢献	会社は、どのようにして社会に役立っているのかについて説明することができる。
13	民間企業活動の意義と公的機関の役割	グローバルビジネス、地域ビジネス、公共政策の視点における民間企業活動の意義と公的機関の役割について検討する。
14	現代社会におけるビジネスの意味	現代社会においてビジネスのあり方は、経済的な利益の追求のみならず、国際社会、地域社会に貢献するものでなければならないことについて認識することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を生かし、今後の現代社会におけるビジネスの意義について理解できる。

《専門教育科目 専攻基礎科目》

科目名	経済学入門		科目ナンバリング	BIIL11002
担当者氏名	中本 淳			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>◎ 2-1 経済学的思考力</li> <li>○ 2-2 論理的思考力</li> <li>○ 3-1 経済・社会の動きを見る力</li> </ul>			

《授業の概要》

この講義では、現代経済のあり方を理解するとともに、今後の本格的な経済学への導入となるような基本的な概念や基礎知識を概説する。前半で、ミクロ経済学・マクロ経済学の基本概念を学んだあと、後半では現代経済の動きを掴むための種々の指標や歴史的背景について講義していく。

《授業の到達目標》

経済学の基礎的知識・概念を身につけるとともに、日々の経済ニュースに出てくるキーワードを理解する。

《テキスト》

なし(講義の中で、資料を配布する)

《参考図書》

篠原総一, 野間敏克, 入谷純(1999)『初歩から学ぶ経済入門 -- 経済学の考え方』  
マンキュー(2014)『入門経済学(第2版)』東洋経済新報社  
高本茂『初歩の経済学』(幻冬舎ルネッサンス)

《授業時間外学習》

日々のニュースに意識して触れ、講義で学んだこととの関連を考えよう。

《成績評価の方法》

平常点(30%) + 期末テスト(70%)

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	経済学とは何かについて説明することができる。
2	国民経済の仕組み	市場の概念について説明し、その相互のつながりによって経済が成り立っていることを説明することができる。
3	市場メカニズム①	市場において、価格と取引量がどのように決まるのか、どのような要因が市場に影響を与えるのかを説明することができる。
4	市場メカニズム②	需要曲線と供給曲線の背後にある考え方について説明することができる。
5	市場メカニズム③	市場メカニズムがうまく働かない場合があり、そこに政府の役割があることを説明することができる。
6	マクロ経済指標①	GDPをめぐる諸概念について説明することができる。
7	マクロ経済指標②	一国の経済循環図において、GDPが他のマクロ指標とどのように関係しているのかを説明することができる。
8	マクロ経済指標③	為替レートがどのようにして決まるのか、また為替レートの変化が一国経済に与える影響について説明することができる。
9	戦後日本経済の歩み①	経済成長の概念と、戦後の日本経済成長の実際についての講義を通し、戦後日本経済史を概観する。
10	戦後日本経済の歩み②	国際金融市場の変遷と、それが日本経済に与えた影響について説明することができる。
11	戦後日本経済の歩み③	日本の財政、特に社会保障制度の経緯について、概略を説明することができる。
12	戦後日本経済の歩み④	景気対策の効果と、日本の財政の現状について、概略を説明することができる。
13	戦後日本経済の歩み⑤	金融システムの概略を理解し、バブル前後の経緯について、概略を説明することができる。
14	戦後日本経済の歩み⑥	日本経済の現状と課題について、理解する。
15	まとめ	いままでの学習内容を整理する。

《専門教育科目 専攻基礎科目》

科目名	統計学の基礎		科目ナンバリング	BIIL11003
担当者氏名	高野 敦子			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 2-2 論理的思考力</li> <li>◎ 2-4 情報処理能力</li> <li>○ 3-1 経済・社会の動きを見る力</li> </ul>			

《授業の概要》

統計的なものの見方や考え方を身につけることによって、根拠に基づいて考えたり決定したりする力を養います。そのために、身近な例を取り上げ実際に計算をしながら、データの見方や扱い方の基本を学びます。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

(1) データを使って根拠に基づいた考え方ができるようになる。(2) データを扱う上での基本を理解し、陥りやすい誤りを理解する。(3) 基本的なデータの入手方法、データの種類と特徴及びそれらに応じた統計手法の基礎を理解する。

《授業時間外学習》

毎回授業内容の理解を深めるために事後学習を宿題とします。また、期末試験に合格するためには、毎回の授業内容の復習が必要です。

《成績評価の方法》

平常点（毎回の課題）を40%、期末試験を60%の割合で評価します。課題は採点して返却します。

《備考》

グループワークを含めたアクティブラーニングを取り入れます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会における統計学	客観的なデータを用いた意思決定の重要性を豊富な具体事例を用いながら考察する。
2	統計で見る世界	データを通して世界を見ることを通して、データの重要性、見方のポイントを理解する。
3	統計データの可視化1	可視化の目的や効果を実例を通して理解する。
4	統計データの可視化2	グラフの特徴とその使い方を考え、理解する。
5	量的データの要約	データの代表値の種類と求め方を理解し、実習する。
6	データのばらつき	データのばらつきの意味と求め方を理解し、実習する。
7	データの分布	データの分布の意味と表現方法を理解し、実習する。
8	データ間の関係	データ間の関係の求め方と活用方法を理解し、実習する。
9	言葉の定義と標本調査	統計における概念の定義の重要性を理解し、標本調査の考え方を理解する。
10	時系列データ	時系列データの特徴、視覚的な表現の仕方を学ぶ。
11	アンケート調査1	アンケート調査とその分析の考え方を修得する。
12	アンケート調査2	アンケート調査を実践する。
13	データ分析と可視化手法の応用	ここまで学んだ手法を総合的に実践し、発表する。
14	データ分析と可視化技術の定着	ここまで学んだ手法を確認し、練習する。
15	まとめ	ここまでの学びをまとめ、ビジネスにおけるデータ分析の今後を考える。

科目名	数学基礎	科目ナンバリング	BIIL21004
担当者氏名	森下 博		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力		

《授業の概要》

日常生活に関わる具体的な問題を通して、数学的手法による最適な解決を目指します。その中で出てくる問題解決に必要な数学の概念を一つ一つ確認していきます。具体的には、方程式の解法、関数と最適解、数列と予測、確率と統計について取り上げます。正確に計算できる結果はもちろん大事ですが、過程をじっくりと考えることに重きをおきたいと思います。経済学を学ぶ際の強みを身に付けて下さい。

《授業の到達目標》

- 問題の内容を把握し、どの情報から何を求めるのか、説明することができる。
- 問題解決のためのアプローチの方法を順序立てながら説明することができる。
- 数学ツールを活用しながら、正確かつ効率的に最適解を求めることができる。

《成績評価の方法》

提出課題40%  
 筆記試験60%  
 分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業時間外学習》

授業はそれぞれの回で取り上げる内容が連動しています。次に備えるためにも、毎回確実に復習して下さい。自主的な学習の取り組みにも期待します。

《備考》

数学を学ぶ上で大切なことは、問題を正確に把握し、最適な解に到達するまでの見通しをイメージすることです。一歩ずつ解に近づくワクワク感を体験しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明	授業計画を説明するとともに、数学を活用した問題について具体的な例を紹介する。
2	情報の進数変換	十進数と二進数について概念と計算方法を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
3	方程式の解法(1)	1次方程式に対する解法のためのルールを確認し、具体的な例を使って定着を図る。
4	方程式の解法(2)	2次方程式に対する因数分解などの解法を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
5	方程式の解法(3)	連立の方程式に対する消去法などの解法を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
6	関数と最適解(1)	最適化問題に対する目的関数や制約条件を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
7	関数と最適解(2)	線形計画問題に対する不等式とその領域を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
8	関数と最適解(3)	最大値最小値問題に対する放物線の特徴を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
9	数列と予測(1)	数列の中で、等差数列と等比数列の概念を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
10	数列と予測(2)	与えられた数列の一般項と漸化式の概念を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
11	数列と予測(3)	単利と複利の違いを基に指数関数の概念を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
12	確率と統計(1)	順列組合せの数の上げおよび確率の計算を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
13	確率と統計(2)	単純平均や加重平均といった平均の計算を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
14	確率と統計(3)	命題とその数学的な証明のための考え方を確認し、具体的な例を使って定着を図る。
15	総括と振り返り	数学基礎の授業で取り扱ってきた内容や数学的アプローチの手法について振り返る。

《専門教育科目 専攻基礎科目》

科目名	経済学のための数学		科目ナンバリング	BIIL21005
担当者氏名	高野 敦子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 2-1 経済学的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力			

《授業の概要》

「数学基礎」で学んだ数学の概念が、経済学でどのように使われているかを学んでいきます。経済学の背景にある数字や数学に注目することにより経済を読み解くコツを学びます。数学が経済学でどのように用いられるかをイメージできるような内容です。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

ミクロ経済学・マクロ経済学を学ぶために必要な数学の基礎を身に付けることができます。また、論理的思考能力を向上させることができます。

《授業時間外学習》

毎回簡単な事前学習を宿題とします。それをすることによって、授業の理解が高まります。また、期末試験に合格するためには、毎回の授業内容の復習が必要です。

《成績評価の方法》

毎回の授業で行う確認テストと課題及び学期末に行う試験で評価します。評価点は、平常点（毎回の課題）を40%、期末試験を60%の割合とします。確認テストはその場で採点し、期末テストについては必要に応じてコメントを返します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のガイダンス 割合、変化率	GDPを取り上げながら、割合、変化率の概念の重要性を学ぶ。
2	関数と連立方程式	需要関数と供給関数を取り上げて関数の概念と連立方程式の解き方を学ぶ。
3	2次関数と関数の最大・最小	企業の目的を数式で表すことを題材とし、2次関数及び関数の最大・最小の求め方を学ぶ。
4	指数関数	複利計算を取り上げ、指数関数について学ぶ。
5	対数関数	割引現在価格を取り上げ、指数・対数関数について学ぶ。
6	等比数列	経済効果を取り上げて等比数列について学ぶ。
7	微分1	微分の概念を学び、微分を使って関数の増減を調べる。
8	微分2	微分を使って関数の最大・最小を調べる。弾力性について学ぶ。
9	確率	不確実な時代を生きるための確率を学ぶ。
10	関数の復習	余剰を取り上げて関数について復習する。
11	関数の復習	ゲーム理論を取り上げて2次関数について復習する。
12	数列の復習	貯蓄を取り上げて数列について復習する。
13	微分の復習	限界費用を取り上げて微分について復習する。
14	確率の復習	リスクをテーマに確率について復習する。
15	学習のまとめ	改めて経済を読み解く上での数学の役割を考える

科目名	ビジネス英語入門		科目ナンバリング	BIIS21006	
担当者氏名	笹平 康弘、廣間 準一				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input checked="" type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-2 グローバル・コミュニケーション力				

《授業の概要》

人と人とのコミュニケーションは、私たちの日常生活の基盤を支えるものであり、ビジネスの場でも不可欠である。この授業では、外国人訪問者とのコミュニケーションなど、実際の現場で活用できる基礎的な英語表現をグループで互いの意見を交換する活動を通して学び、「発信型」英語コミュニケーション力の基礎を身につける。

《テキスト》

『You're Welcome』Tae Kudo著 センゲージ・ラーニング出版

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

(1) 飲食店、道案内、お客対応など、現場で使われる基本的な表現を使ってコミュニケーションができる。(2) 高校レベルの日常よく使われる語彙、文法、表現を理解し、使うことができる。(3) 発音、イントネーションなど、英語の音声の特徴を理解し話すときに応用することができる。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：分からない部分を、辞書、参考書などで調べておく。(2) 復習の方法：授業内容を再確認し、モデル会話、表現など授業で練習した内容をスラスラ口に出るまで練習する。

《成績評価の方法》

(1) 授業内ペア・グループワークへの参加とその成果 30% (2) プレゼンテーション 30% (会話のロールプレイ、個人発表等の内容を評価する) (3) 授業内試験 40% (試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する)；フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	導入	授業方針の説明
2	For here, or to go?	ファーストフード店での注文対応の表現を学び、会話ができる。
3	How many are in your party?	レストランでの来客対応の表現を学び、会話ができる。
4	I'll be right back	レストランでの接客サービスに関する表現を学び、会話ができる。
5	Would you like me to heat this up?	コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学び、会話ができる
6	Your total comes to 3,240 yen.	買い物や飲食の会計に関する表現を学び、会話ができる。
7	I'm truly sorry for the trouble	商品やサービスへの苦情対応の表現を学び、会話ができる。
8	Review 進度調整	第7回までに学んだ内容の復習・進度調整
9	Do you have a reservation?	ホテルや旅館での宿泊客受付に関する表現を学び、会話ができる
10	Wi-Fi is available in this area	商業施設でのサービス提供や近隣情報の案内に関する表現を学び、会話ができる
11	I highly recommend Sakura Restaurant	旅行者への観光案内に関する表現を学び、会話ができる
12	Turn right at the first intersection	道案内の表現を学び、会話ができる
13	Take the subway to Hommachi	交通機関の利用案内や観光施設の情報提供で使われる表現を学び、会話ができる
14	First, put money in the machine	券売機や電化製品の使用方法の説明に使われる表現を学び、会話ができる
15	授業内試験・発表	まとめのテスト及び各自の選んだテーマで発表

《専門教育科目 専攻基礎科目》

科目名	ビジネス英語 I		科目ナンバリング	BIIS21007	
担当者氏名	笹平 康弘、廣間 準一				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input checked="" type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-2 グローバル・コミュニケーション力				

《授業の概要》

ビジネスの場での連絡や問い合わせ、応答に活用できる基礎的な英語表現を学ぶ。具体的には、初対面時のあいさつ、電話対応、用件の連絡、仕事の依頼、問い合わせに対する応答、イベントへの招待とその返答など、実際のビジネスシーンを想定した演習により、オーラル・コミュニケーション力の基礎を身につける。また、日本と英語圏におけるコミュニケーションスタイルの違いを理解したコミュニケーションのあり方も学ぶ。

《授業の到達目標》

- ビジネス現場での基礎的なコミュニケーションができる。
- 異文化におけるコミュニケーション・スタイルの違いを理解および意識したコミュニケーションができる。
- 基礎的な英語表現を使用した「発信型」コミュニケーションができる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内ペア・グループワークへの参加とその成果 30%
  - (2) プレゼンテーション 30% (3) 授業内試験 40% (試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する)
- フィードバックの方法：上記項目についてコメントする

《テキスト》

『First Steps to Office English』Tae Kudo著、センゲージ・ラーニング出版

《参考図書》

《授業時間外学習》

- 1) 予習の方法：分からない部分は、辞書、参考書などで調べしておくこと。
- 2) 復習の方法：授業内容を再確認し、モデル会話、表現など授業で練習した内容をスラスラロに出るまで練習する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	授業方針説明；自己紹介」の場面で使われる表現を理解し、使うことができる。また、英語の名刺の構成を理解し、各自作成した英語の名刺を使った自己紹介ができる。
2	Clarifying Meanings	“FYI”、“ASAP”等、分からない略語、単語の意味を英語で確認する英語表現をペア・グループ作業を通して学び、使うことができる。
3	Phone Conversation (1)	ビジネスの現場での「電話対応」の場面で使われる表現を理解し、使うことができる。
4	Phone Conversation (2)	第3回の授業をさらに発展させる。伝言の取り方を理解し、使うことができる。
5	Calling in Sick	健康状態に関する表現を、「病欠の電話のかけ方」、「健康」などをテーマとした会話練習を通して、理解し、使うことができる。
6	Appointments	「顧客との約束」、スケジュール管理に関する表現を理解し、使うことができる。
7	Making Offers	訪問者を案内したり、飲み物などを提供したりする際の表現を理解し、使うことができる。
8	Invitation	食事や催し物などへの誘い方、誘われた時の対応に関する表現を理解し、使うことができる。
9	Small Talk	英語特有のスマールトークで使われる表現および話題を理解し、会話を楽しむことができる。
10	Location	位置や場所を尋ねたり、説明したりするときの表現を理解し、使うことができる。
11	Directions	道順を尋ねたり、説明したりするときの表現を理解し、使うことができる。
12	Instructions	事務機の取り扱い方法など、説明したりするときの表現を理解し、使うことができる。
13	Checking in at a Hotel	ホテルでのチェックインの際に使われる表現を理解し、使うことができる。
14	Eating out	レストランでの会話や支払い方法に関する表現を理解し、使うことができる。
15	授業内試験・発表	これまでの学習で得られた成果を英語で発表し、質問に答えることができる。

科目名	現代経済社会		科目ナンバリング	BIIS21008
担当者氏名	石原 敬子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 2-1 経済学的思考力 <input type="radio"/> 2-5 課題発見・分析力・解決力 <input checked="" type="radio"/> 3-1 経済・社会の動きを見る力 <input type="radio"/> 3-3 キャリア形成力			

《授業の概要》

日々のニュースからもうかがえるように、今日の日本経済・社会は、グローバル化や少子高齢化などを背景にさまざまな課題や問題に直面している。この授業では、戦後の日本経済のあゆみを振り返り、現実経済を読み解く経済学の基礎的概念も学びながら、グローバル化と日本経済、雇用問題、ICT革命とビジネスなど、今日注目を集めているいくつかのトピックを取り上げ、経済・社会問題について考察する。

《授業の到達目標》

- ・現実の経済・社会問題に関心をもち、自らすすんで考察するようになる。
- ・一面的な見方に偏らず、異なる見解も踏まえて考える力を身につける。
- ・経済学考え方を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業への参加の姿勢、課題への取り組み、レポートなど）と学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点50%、学期末の筆記試験50%とする。授業時の課題については、解答例を解説する。レポートはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要	授業の概要、目標、受講上の注意事項について説明する。
2	日本経済の現状	現在日本経済・社会がどのような問題を抱えているのかを概観する。
3	人口減少社会(1)	少子高齢化に伴う財政問題、社会保障制度に関する問題について考察する。
4	人口減少社会(2)	少子高齢時代のビジネス、経済成長を維持するため課題について考察する。
5	雇用問題(1)	日本的経営の特徴、成果主義に基づく雇用制度の特徴と、それぞれの問題点について考察する。
6	雇用問題(2)	現在の日本が抱える雇用問題、働き方改革について考察する。諸外国の雇用制度や、限定正社員制度など新しい雇用制度についても考察する。
7	グローバル化(1)	貿易の利益について理解し、自由貿易と保護貿易をめぐる論争について考察する。
8	グローバル化(2)	RCEPやFTAAPなど、昨今の自由貿易を推進する動きと日本経済・社会への影響について考察する。
9	グローバル化(3)	グローバル時代の農業・食糧問題について考える。
10	ICT革命(1)	ICT革命の特徴、経済・ビジネスに及ぼした影響について考察する。
11	ICT革命(2)	ICT、ビッグデータを活用したビジネスについて考察する。
12	ICT革命(3)	人工知能・高機能ロボットが経済・社会にどのような変化をもたらすかを考察する。
13	地球環境問題(1)	地球温暖化問題と、日本や世界各国の取り組みについて考察する。
14	地球環境問題(2)	資源エネルギー問題について考える。
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を振り返る。

《テキスト》

特に指定しない。  
適宜プリントを配布する。

《参考図書》

伊藤元重著『日本と世界の「流れ」を読む経済学』PHPビジネス新書、2012年。  
三菱総合研究所編『IoTまるわかり』日経文庫、2015年。  
その他、授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・授業で取り上げたトピックについてより考察を深めるように、課題を出す予定である。日ごろからニュースや新聞記事に目を通し、経済・社会の動きを知る習慣を身につけよう。
- ・第11週目を終わったところに、学期末のテストにむけて、授業内容を復習・確認するための教材を配布する。授業内容を理解できているか、振り返ってみよう。

《備考》

科目名	国際関係論		科目ナンバリング	BIIS21009
担当者氏名	斎藤 正寿			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>◎ 1-4 国際感覚・異文化理解力</li> <li>○ 2-2 論理的思考力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>○ 3-2 グローバル・コミュニケーション力</li> </ul>			

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

- 自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
- 20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

科目名	社会調査の基礎		科目ナンバリング	BIIS21010
担当者氏名	田端 和彦			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 2-2 論理的思考力</li> <li>◎ 2-4 情報処理能力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>○ 3-1 経済・社会の動きを見る力</li> </ul>			

《授業の概要》

社会調査の意義と特に社会課題への取組などについての歴史を学びます。量的な調査方法ではアンケート調査の一連の手続き、そしてデータを整理しそこから社会的事象を見出すための統計的な知識を身につけます。質的な調査方法では、観察、インタビューの方法、その分析の方法を学びます。個人情報保護など、社会調査を行う上での注意事項についても理解します。

《テキスト》

テキストはなく、授業内でプリントを配布します。

《参考図書》

授業内で指示します。

《授業の到達目標》

アンケート、取材、観察など社会調査の手法を身に付けることができます。公表された統計表、アンケート調査の結果、また集めたデータを整理して示し、社会事象を読み取るために統計に関する基礎的な知識を身につけます。これらを通し地域社会における総合的な状況の理解の促進につながります。

《授業時間外学習》

授業後に確認のための宿題を課します。宿題は理解を確認する場合（事後学習）と事前の課題の場合があります。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほかレポートの提出状況などの授業に臨む態度も評価に含めます（20%）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス／社会科学と社会調査	地域における社会調査の意義や社会科学との関係を学びます。
2	社会調査の歴史①	イギリスのブースの貧困調査など社会調査の歴史とその役割を振り返り社会福祉での位置づけを理解します。
3	社会調査の歴史②	シカゴ学派による社会調査やフィッシャーによる推計学の導入、優生学につながる悲劇など、社会調査を取り巻く近代の歴史を理解します。
4	統計法と統計制度	国家と統計の関係から、民主的な公的統計のあり方を学びます。日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。
5	量的調査と質的調査	公的統計調査やアンケート調査など量的調査と観察など質的調査の違い、また横断的調査、縦断的調査など調査の考え方の基本を学びます。
6	母集団と標本集団	アンケート調査に必要な集団の考え方を理解し、母集団から標本集団を抽出する方法を学びます。
7	アンケート調査の方法①	調査の設計と調査目的の明確化、正確な調査を行うためのワーディングなどを学び、アンケート調査を作成するための基礎的な内容を理解します。
8	アンケート調査の方法②	調査票の配布回収方法など、実際にアンケート調査を行う場合に注意すべき点などについて把握します。
9	量的調査のデータ解析①	尺度水準などデータ分析の基本と1変量、2変量、多変量での分析方法の違いを踏まえ、1変量の場合の記述統計、単純集計などの分析手法を学びます。
10	量的調査のデータ解析②	引き続き、1変量での分析方法を学ぶとともに、2変量での分析方法である、回帰分析、相関分析について学びます。
11	量的調査のデータ解析③	重回帰分析など、多変量解析の解説を行うほか、仮説検定の基本を学び、その概念を理解します。
12	インタビューの手法	構造化インタビュー、非構造化インタビューについて学びます。インタビューの記述方法について学びます。
13	観察の方法／質的調査のデータ解析①	参与観察、非参与観察の特徴と違いを理解します。質的データ調査の分析方法として、グランデットセオリーの考え方を学びます。
14	質的調査のデータ解析②	引き続き、グランデットセオリーの考え方を学び、またKJ法などについても学びます。
15	個人情報保護と社会調査の結果の利用	個人情報保護の重要性を理解します。調査の実施や公表に関する倫理について学びます。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	BTAL41001
担当者氏名	古田 薫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の「教師の仕事」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉えるとともに、法的な位置づけや立場を理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《授業の到達目標》

- 教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解している。
- 教員養成と教員免許制度について理解している。
- 教員の任免と服務について理解している。
- 教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
- 教員に求められる資質能力と研修について理解している。
- 自分なりの教職観を持ち、自身の課題を省察することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
  - ②提出物（提出の回数と完成度等） 30%
  - ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- \* 提出物はコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教職とは何か、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、自分自身の教職観、教員像を獲得する。
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。
5	教員の職務①：教員の種類と職務、校務分掌	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力について理解する。
6	教員の職務②：学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。
7	教員の職務③：保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。
8	教員の職務④：アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。
9	教員の人事管理①：服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。
10	教員の人事管理②：任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。
11	教員の人事管理③：教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。
15	学習のまとめと振り返り	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

- ・東京都教職員研修センター（監修）『教職員ハンドブック 第3次改訂版』 都政新報社、2012
- ・石村卓也『教職論 これから求められる教員の資質能力』 昭和堂、2008年。
- ・『新任教師のしごと 中学校・高校版』 小学館、2007年。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容に関連したミニレポートを作成し提出する。配布された資料をあらかじめ読んでおく。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	BTAL41002
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

広い視野をもって教育を俯瞰する授業である。ポイントは、(1)人間とは何かを考える、(2)世界教育史に学ぶ、(3)日本の教育の流れを押さえ、これから教師になる者の歴史的立場づけを考える、(4)人権教育の概略を知る、(5)「総合的な学習」を検討しつつ、未来の教育の展望を探る、の諸点である。

《テキスト》

とくには定めず、授業中にプリントを配布する。

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析でき、それを文章で表現することを目指す。

《授業時間外学習》

学校教育はもとより、家庭教育、大人と子どもの関係、親と子の関係、地域社会と子どもの関係、子どもの遊び、子どもをめぐる生と死、子どもを取り巻く異文化と摩擦の問題、子どもの人権の問題、海外留学など、子どもに関する多岐にわたることがらに関心を広げ、活字情報等を摂取すること。

《成績評価の方法》

授業への参加度（教員の発問に対する口頭および記述式の解答）40%、レポート60%。ただし教育学のイロハであるが、受講生の様子によりこれを微調整することがある。

成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamotoh@hyogo-dai.ac.jpである。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育に関する問題意識の出し合い
2	人間とは何かを考える(1)	視聴覚教材鑑賞（前半）
3	人間とは何かを考える(2)	視聴覚教材鑑賞（後半）
4	人間とは何かを考える(3)	ディスカッション
5	世界教育史に学ぶ(1)	筋が通った教育者とは—ペスタロッチが問いかけるもの—
6	世界教育史に学ぶ(2)	教育は時代を反映するもの—モニリアル・システムを考える—
7	特別授業	教育についての集団討論
8	日本教育史に学ぶ(1)	イロハから帝王学まで—手習塾(寺子屋)は近世のフリースクールだった—
9	日本教育史に学ぶ(2)	水道方式—「下から」の教育内容現代化—
10	日本教育史に学ぶ(3)	ゆがんだ能力主義①—「上から」の教育内容現代化—
11	日本教育史に学ぶ(4)	ゆがんだ能力主義②—経済審議会答申から現在まで—
12	人権教育を考える(1)	差別・被差別からの解放をめざす教育
13	人権教育を考える(2)	同和教育から人権教育へ
14	未来の教育への展望	「総合的な学習」が問いかける、「自分で考える人間」づくり
15	本授業の総括	教育とは明日の日本・世界をつくる営み

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	BTAL41004		
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、教育における心理学的領域の理解をめざすとともに人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得とそれぞれの専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめることができる。○教育効果の検証（評価）ができる。○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。○障害をもつ子どもの学習や発達を理解し、「学び」について考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30％）、定期試験（70％）  
課題の提出については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。  
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房  
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。  
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、参加状況を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
9	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
10	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動 「障害」の理解	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害 障害をもつ子どもの教育、学習（学び）の課程
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	BTAL41005		
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育の「制度」（公教育制度、教育法制など）と「制度的実態」（教育行政、学校経営など）についての体系的な知識を獲得するとともに、昨今の教育改革の動向を検討しながら、現代日本における教育の課題を、みずからの問題として論理的に考えていく力が身につくよう、授業を進める。

《テキスト》

『現代教育の制度と行政』河野和清編著、福村出版、2008

《参考図書》

『図解・表解 教育法規 新訂版』坂田仰、河内祥子、黒川雅子、教育開発研究所、2012

《授業の到達目標》

1. 現代日本の公教育制度、教育法制などについての主要な知識を獲得する。
2. 現代日本の教育がどのように制度的に運用されているかについて、その実態を理解する。
3. 現代日本における教育改革の動向を検討し、今後の課題について考える力を養う。

《授業時間外学習》

授業中、指示する。

《成績評価の方法》

1. 筆記試験の結果で100%評価する。
  2. 筆記試験では、知識の定着度50%、文章作成能力（論理的思考力）50%の配点で、評価する。
- ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

教育改革の動向については、日頃から関心を持つよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	①教育制度、②公教育、公教育の歴史類型、③学校制度、学校制度の類型
2	近代以降の日本教育制度(1)	昭和(戦前)期までの公教育制度、教育行政
3	近代以降の日本教育制度(2)	昭和(戦後)期の公教育制度、教育行政
4	現代日本の教育制度(1)	公教育制度(現状と課題)
5	現代日本の教育制度(2)	教育法制(現状と課題)
6	現代日本の教育制度(3)	教育行政(現状と課題)
7	現代日本の教育制度(4)	学校経営(現状と課題)
8	現代日本の教育制度(5)	教育課程(現状と課題)
9	現代日本の教育制度(6)	教職員人事(現状と課題)
10	現代日本の教育制度(7)	児童生徒の管理(現状と課題)
11	現代日本の教育制度(8)	教員養成・研修(現状と課題)
12	現代日本の教育改革(1)	教育改革の動向
13	現代日本の教育改革(2)	教育改革における今後の課題
14	海外主要国の学校制度	アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ等の学校制度
15	まとめ	学修内容の再確認

平成28（2016）年度入学者

専門教育科目

科目名	ボランティア体験A		科目ナンバリング	BCTS32001
担当者氏名	森下 博、榎木 浩			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 チームワーク力 <input type="radio"/> 3-1 経済・社会の動きを見る力 <input type="radio"/> 3-3 キャリア形成力 <input checked="" type="radio"/> 3-5 計画力・実行力			

《授業の概要》

この授業では、地域社会に貢献する心を育み、現代の身近な生活の課題や地域社会問題を理解し、地域社会への参加を目指すことを目的とする。主に教育支援活動や福祉活動のボランティアとして参加し、子ども達、高齢者、障がい者などへの支援活動を通じて、世代別の人々とのコミュニケーションや関わり方、礼儀やマナー等を体験的な学習で学び、対人関係能力を養成する。

《授業の到達目標》

- ボランティアの理念を説明できる。
- ボランティア活動に関する知識や技能を身につける。
- 地域社会の問題を主体的にとらえ、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を支援できる人材となる。
- 多様な集団・組織のなかで豊かな人間関係を築きながら、リーダーの役割や組織の動かし方を習得する。

《成績評価の方法》

ワークショップやボランティア体験後のプレゼンテーション(50%)と活動報告書(50%)で評価する。  
 分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《テキスト》

教材を配布する。

《参考図書》

- 『ボランティア学を学ぶ人のために』内海成治/入江幸男/水野義之[編], 世界思想社, 2013
- 『ボランティアの可能性-人と企業ができること』鈴木盈宏, 廣済堂出版, 2012

《授業時間外学習》

シラバス等により各回の授業内容を確認の上、テーマに関する基本的な事柄を調べしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要、授業計画、成績評価方法に関する説明をおこなう。
2	ボランティアとは？	ボランティアの理念や活動に関する知識技能の説明をおこなう。
3	特別講義	外部講師によるボランティアについての特別講義を実施する。
4	ワークショップ	前回の特別講義の内容についてワークショップを実施する。
5	ボランティア体験(1)	ボランティアを体験する。
6	ボランティア体験(2)	ボランティアを体験する。
7	ボランティア体験(3)	ボランティアを体験する。
8	ボランティア体験(4)	ボランティアを体験する。
9	ボランティア体験(5)	ボランティアを体験する。
10	ボランティア体験(6)	ボランティアを体験する。
11	ボランティア体験(7)	ボランティアを体験する。
12	ボランティア体験(8)	ボランティアを体験する。
13	ワークショップ	ボランティア体験を振り返ってワークショップを実施する。
14	プレゼンテーション	ボランティア体験の活動について報告および発表する。
15	まとめ	ボランティア体験の活動報告書を作成し、提出する。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	ボランティア体験B		科目ナンバリング	BCTS32001
担当者氏名	木下 準一郎			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 チームワーク力 <input type="radio"/> 3-1 経済・社会の動きを見る力 <input type="radio"/> 3-3 キャリア形成力 <input checked="" type="radio"/> 3-5 計画力・実行力			

《授業の概要》

地域社会におけるボランティアの役割について体験授業とワークショップを通じて、通常の講義や演習で得られない知識や技能を体得する。この授業では、近隣市町村のまちおこし活動等でボランティア体験を行い、市民の主体的な活動が地域社会をより良くしていくことを学ぶとともに、優れた社会人となるための自己啓発の機会とすることを主たる目的とする。本年度は加古郡播磨町の大中遺跡祭りの運営に参加する。

《授業の到達目標》

ボランティアの理念を説明できる。ボランティア活動に関する知識や技能を身に付ける。地域社会の問題を主体的に捉え、その解決を目指し、地域でのボランティア活動を支援できる人材となる。集団のなかで豊かな人間関係を築きながら、リーダーの役割や組織の動かし方などを修得する。

《成績評価の方法》

ボランティア体験後に行うプレゼンテーション(50%)と活動報告書(50%)で評価する。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。大中遺跡祭り前夜祭および本祭でのボランティア体験授業に出席することで8回分の授業を受けたものとみなします。

《テキスト》

教材を配布します。

《参考図書》

『ボランティアを学ぶ人のために』内海成治編、世界思想社、1999  
 『ボランティアの可能性』鈴木盈宏、廣済堂出版、2012

《授業時間外学習》

シラバスを見て各回の授業内容を確認の上、内容に関する基本的な事柄を下調べしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要、授業計画、成績評価方法に関する説明
2	担当教員による講義	「大中遺跡祭りについて」
3	ワークショップ	前回の授業内容についてワークショップを実施する
4	担当教員による講義	「変革期の行政とボランティア」
5	体験授業直前指導	大中遺跡祭り実行委員会会議に参加する
6	ボランティア体験	ボランティア体験をする
7	ボランティア体験	ボランティア体験をする
8	ボランティア体験	ボランティア体験をする
9	ボランティア体験	ボランティア体験をする
10	ボランティア体験	ボランティア体験をする
11	ボランティア体験	ボランティア体験をする
12	ボランティア体験	ボランティア体験をする
13	ボランティア体験	ボランティア体験をする
14	ワークショップ	「ボランティア体験を振り返って」をテーマとしてワークショップを実施する
15	まとめ	活動報告書の提出

科目名	語学・異文化体験演習		科目ナンバリング	BCTS32003
担当者氏名	笹平 康弘			
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ○ 3-2 グローバル・コミュニケーション力 ○ 3-3 キャリア形成力			

《授業の概要》

この科目は、英語圏での4週間の英語学習、生活を通して、グローバルな視野を育むことを目的とする。授業は、現地の英語プログラムを履修し、履修者の英語力に応じたクラス編成で、スピーキング、リスニング（発音を含む）、リーディング、ライティングの4技能の訓練を受け、総合的なコミュニケーション力を身につける。また、ホームステイを経験することで、現地の社会・文化に肌で触れ、体験する。

《授業の到達目標》

現地で英語のアセスメント・テストを受験し、各自にあった英語レベルのクラスに参加する。各レベルに応じて、次の項目の向上を目標とする：

- 1) 英語4技能（特にスピーキング力）の向上
- 2) 現地の社会・文化に慣れ、親しむ
- 3) グローバルな視点で物事を考える
- 4) ホームステイを通して、現地での生活感覚を磨く

《成績評価の方法》

成績は、次の2つの項目を総合的に評価する：

- 1) 現地のプログラムの成績評価
  - 2) 事前研修及び帰国後のプレゼンテーション
- フィードバックの方法：研修報告へのコメントを行う

《テキスト》

現地のプログラムで採用する教科書を使用する

《参考図書》

現地でのプログラムの指示に従う

《授業時間外学習》

- 1) 現地の担当講師の指示に従って、予習・復習を行う
- 2) 課外活動に積極的に参加し、現地での生活を体感する
- 3) 積極的に行動し、英語使う機会を多く持つ
- 4) ホストファミリーと積極的に交流し、多様な人間関係を体感する

《備考》

当該科目の履修に当たっては、異文化での生活において、責任のある行動がとれることが必須である；笹平が担当する「実用英語II」の履修が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方針説明	短期留学プログラムの全体説明を行う
2	事前研修①	希望するプログラム入学のための準備（願書記入など）
3	事前研修②	現地での学習及び生活に関する情報交換、心構え
4	事前研修③	出発準備：現地での学習、生活に必要な持ち物その他；出発当日の注意事項
5	研修先へ出発～到着	現地空港到着後、各ホームステイ先に移動
6	現地プログラム開始	履修手続きおよび、クラス分けテスト受験 授業開始
7	現地プログラム第2週	各自のクラスで英語トレーニング 課外活動参加
8	現地プログラム第3週	各自のクラスで英語トレーニング 課外活動参加
9	現地プログラム第4週	各自のクラスで英語トレーニング 課外活動参加
10	研修先から帰国	空港到着後、各自帰宅
11	研修報告準備①	各自研修先で学んだこと、体験をまとめる （授業としては行わず、各自自由に準備する）
12	研修報告準備②	各自研修先で学んだこと、体験をまとめる （授業としては行わず、各自自由に準備する）
13	研修報告準備③	各自研修先で学んだこと、体験をまとめる （授業としては行わず、各自自由に準備する）
14	研修報告準備④	各自研修先で学んだこと、体験をまとめる （授業としては行わず、各自自由に準備する）
15	研修報告	研修の成果を発表する

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	工業簿記	科目ナンバリング	BCBS22004
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-1 経済・社会の動きを見る力 <input type="radio"/> 3-3 キャリア形成力		

《授業の概要》

前半は工業簿記の基本原理を習得し、日商簿記検定に向けた基礎を学習します。後半は問題演習を中心に原価計算と原価管理の方法を習得します。2月に行われる日商簿記検定合格を目指しましょう。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

原価の計算方法と原価の管理方法を体系的に身につけます。個別原価計算・総合原価計算・標準原価計算・直接原価計算と学んだ後、会社の収益と費用に注目し、問題点を発見し、分析する力を習得することができます。

《授業時間外学習》

期末レポートを作成して頂きます。

《成績評価の方法》

出席（20%）、中間テスト（40%）、期末レポート（40%）で評価します。

《備考》

電卓が必要です。商業簿記の知識は必要ありません。

確認テストについては、次回授業時に解答を示します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	簿記学習の目的
2	工業簿記の目的	商業簿記と工業簿記の流れ
3	工業簿記の種類	原価計算と原価管理
4	総合原価計算（1）	総合原価計算の流れ
5	総合原価計算（2）	平均法と先入先出法
6	総合原価計算（3）	仕損と減損・副産物
7	個別原価計算（1）	個別原価計算の流れ
8	個別原価計算（2）	仕掛品勘定・製品勘定・売上原価勘定
9	復習と確認（1）	工業簿記の基本的処理の確認と総合演習
10	標準原価計算（1）	標準原価計算の流れ
11	標準原価計算（2）	材料費と労務費の分析
12	標準原価計算（3）	製造間接費の分析
13	直接原価計算（1）	直接原価計算の流れ
14	直接原価計算（2）	損益計算書の分析
15	復習と確認（2）	工業簿記の基本的処理の確認と総合演習

科目名	簿記論		科目ナンバリング	BCBL22005
担当者氏名	三宅 伸二			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-3 キャリア形成力			

《授業の概要》

簿記演習Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象に、中級簿記（日商簿記検定3級～2級の商業簿記）レベルの能力を養います。簿記は、厳密な理論に基づいて構築されています（かつては数学の一分野でした）。積み木を一つ一つ積み上げるように進んでいきますので、しっかりついて来てください。途中を飛ばすと後が分からなくなりますので、欠席しないようにして下さい。特に、最初が重要です。

《授業の到達目標》

企業会計の基礎となる簿記の知識と技術の習得を図り、税理士、公認会計士試験に合格するための基礎学力を身に付けます。

《成績評価の方法》

到達度確認テスト（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。確認テストについては、次回授業時に解答を示します。

《テキスト》

使用しませんが、『合格テキスト日商簿記3級』、『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）に準拠して授業を行います。持っていれば役に立ちます。

《参考図書》

『合格トレーニング日商簿記3級』『合格トレーニング日商簿記2級』（TAC出版）

《授業時間外学習》

その日の授業に係る内容の宿題を出しますので、次回授業時に提出してください。提出時に宿題の解答を示します。

《備考》

日商簿記検定3級の基本（精算表の仕組みまで）を理解していることが前提です。現代ビジネス初学部の授業としては高度な内容の授業となります。単位取得のみが目的の人はご遠慮ください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現金と当座預金の処理	小切手、現金過不足、当座借越
2	手形の処理	約束手形の処理
3	その他の処理 1	借入金と利息計算、前受・前払金、未収・未払金、有価証券
4	その他の処処理 2	引出金と資本金、訂正処理
5	試算表	試算表作成の総合演習
6	決算手続き 1	有価証券の評価、現金過不足、消耗品、売上原価の計算
7	決算手続き 2	貸倒引当金、減価償却、固定資産の売却、前受・前払金、未収・未払金と再振替処理
8	決算手続き 3	精算表作成の総合演習
9	商品売買	売上原価の計算と棚卸減耗損、商品評価損
10	固定資産	買換え、除却、消失
11	有価証券	購入、売却、評価替、社債の取得と利息の計上、社債の償還
12	引当金	引当金の設定と決算整理
13	株式	株式発行時の処理、無形固定資産・繰延資産の決算処理
14	社債	社債の発行と償却
15	剰余金の処分	株式会社の税金、剰余金の配当と処分

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	アルゴリズム	科目ナンバリング	BCIS22006
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 1-2 主体的に学び考える力</li> <li>◎ 2-2 論理的思考力</li> <li>○ 2-4 情報処理能力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> </ul>		

《授業の概要》

現在私たちの生活は、コンピュータ科学によって生まれた様々なアイデアによって支えられています。そのアイデアを実現するための手順を正確にレシピとしてまとめたものが「アルゴリズム」です。アルゴリズムを学ぶことにより、社会を支える技術の仕組みを理解し、自分自身でも簡単な仕組みを実現できるための基礎力を養います。簡易言語を用いた実習も取り入れます。

《授業の到達目標》

私たちの暮らしや社会を支えている「アイデア」をその「アルゴリズム」を使って理解し説明することができる。さらに、アルゴリズムの要素を学び、自分自身でも簡単なアルゴリズムを作ることができる。

《成績評価の方法》

毎回の授業で行う確認テストと課題及び学期末に行う試験で評価します。評価点は、平常点（毎回の課題）を20%、期末試験を80%の割合とします。確認テストはその場で採点し、期末テストは必要があればコメントを返却します。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

毎回、授業内容の理解を助けるための事後学習を指示します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アルゴリズムとは	アルゴリズムとは何か、またその歴史を理解する。
2	アルゴリズムの体験	「手順」の実行を実際に体験する。
3	ページランク	グーグルが検索結果のランキングのために使った革新的なアルゴリズムを理解する。
4	公開鍵暗号法	インターネット上で情報を安全に送るための独創的なアイデアを理解する。
5	誤り訂正符号	データの送信を支える、「自分で誤りを訂正する」アルゴリズムを理解する。
6	パターン認識	分類におけるアルゴリズムを理解する。
7	データ圧縮	日常多くの場面で恩恵を被っているデータ圧縮のアルゴリズムを理解する。
8	データベース	オンライン取引に欠かせないデータベース技術を支えるアルゴリズムを理解する。
9	デジタル署名	デジタル署名を構成しているアルゴリズムを理解する。
10	人工知能	学習のアルゴリズムを理解する。
11	経路探索	経路探索のアルゴリズムを理解する。
12	アルゴリズムを表記するための要素	処理、分岐、ループ、ルーチンを理解する。
13	アルゴリズムを表記するための要素	ハイパーリンク、ハッシュテーブル、計算テーブルを理解する。
14	プログラミング実習	処理、分岐、ループ、ルーチンを使ったプログラミング実習
15	プログラミング実習	ハイパーリンク、ハッシュテーブル、計算テーブルを使ったプログラミング実習

科目名	情報発信と検索	科目ナンバリング	BCIL22007
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 多様なものの見方、考え方 <input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-4 創造力		

《授業の概要》

ウェブが日常のインフラになりつつある今、それを使って、的確に情報を入手する技術、そして効果的に情報を発信する技術はこれからの情報化社会を生きるために、ビジネスを推進するために必要不可欠です。この授業では、アクセスする人たちの目的を叶え、発信者のビジネス的な目的を実現するためのウェブデザインの技術及び、より効率よく的確に情報を入手するための検索技術を学びます。実習を適宜組みます。

《授業の到達目標》

ウェブの役割と特性を説明することができる。ウェブを使った情報の発信と検索を的確にかつ効果的に行うための考え方を述べることができ、そのために必要な技術を使いこなすことができる。

《成績評価の方法》

毎回の授業で行う確認テストと課題及び学期末に行う試験で評価します。評価点は、平常点（毎回の課題）を50%、期末試験を50%の割合とします。確認テストはその場で採点し、期末試験については必要に応じてコメントします。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

毎回、授業内容の理解を助けるための事後学習を指示します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ウェブの役割と特性	ウェブによって私たちの生活がどう変わったか、モバイルインターネットやソーシャルメディアの普及によって情報の伝わり方がどう変わったかを学ぶ。
2	ウェブの技術の理解	ブラウザ、マークアップ言語、スタイルシートについて学ぶ。
3	ウェブサイトの制作	HTMLのマークアップについて学ぶ。
4	ウェブサイトの制作	CSSデザインの基本について学ぶ。
5	ウェブ技術の応用	音楽・映像を再生する技術を修得する。
6	ウェブアプリの基礎	ページを動的に書き換える技術を修得する。
7	ウェブアプリの基礎	Canvasを使ってゲームを作る。
8	ウェブアプリの作成	Canvasを使ってゲームを作る。
9	ウェブアプリの作成	APIを利用してウェブアプリを作成する技術を修得する。
10	情報検索の基礎	図書館検索とウェブ検索を比較しながら、情報検索について考える。
11	ウェブ検索の仕組み	「集める」、「整理する」、「検索する」の3ステップに分けて仕組みを理解する。
12	ウェブ検索の技術	人工知能を活用したウェブ検索の進化を理解する。
13	ウェブの将来	Linked Dataについて理解する。
14	ウェブと社会	オープンデータ、ビッグデータなどのこれからの社会に関わるトピックスを理解する。
15	まとめ	ウェブを使った情報の発信と検索を的確にかつ効果的に行うための考え方をまとめる。

科目名	情報システム I	科目ナンバリング	BCIL22008
担当者氏名	榎木 浩		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-5 チームワーク力 <input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-4 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

情報システムは高度化する情報社会に欠かせない存在であり、コンピュータやネットワークといった情報技術の側面からだけでなく、情報技術を利用する人間という側面からも理解する必要がある。この授業では、情報社会の中心となる情報システムについて、現代社会での役割の理解を深める。情報とは何かという一般論にはじまり、人間の情報行動、情報システムの本質、技術、事例、利用と評価、情報倫理を学ぶ。

《テキスト》

毎回プリントを配布します。

《参考図書》

『新情報システム学序説』新情報システム学体系調査研究委員会（編）、情報システム学会、2014

《授業の到達目標》

- 情報と何かという基本概念を説明できる。
- 人間はどのように情報システムを作ってきたのか理解する。
- 情報システムを構成する技術を理解する。
- 現代社会の情報システムの事例を理解する。
- 現代社会で起きている情報システムの問題を理解する。
- 情報システムに関する倫理と法を理解する。
- 人間中心の情報システムについて説明できる。

《授業時間外学習》

- (1) 事前学習  
 予め授業のプリントを公開するので読んでくること。
- (2) 事後学習  
 テーマ終了毎に課題を出すので、レポートにして提出すること。

《成績評価の方法》

レポート課題等の提出物50%、到達度レベル確認50%  
 レポートはコメントを付け写しを返却する。  
 分からないことは、オフィスアワー等で受け付ける。

《備考》

将来どの職業に就いても、情報システムは身近な問題となるので、その本質を理解して欲しい。ワークショップでは積極的に発言をして欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 情報とは何か	授業内容、進め方、および成績評価の説明。 情報の誕生、情報の構造、情報の推論、情報の発信。
2	人間の情報行動	情報行動の起源、現代の情報行動、仮設実証法とPDCAプロセス、情報技術の利用と知識の拡大
3	情報システムの発展 (1)	情報システムの本質モデル、社会システムの発展
4	情報システムの発展 (2)	経済システムの発展、矛盾を解決するハイブリッド・システム
5	情報システムの技術 (1)	情報システムと情報技術
6	情報システムの技術 (2)	技術による情報システム（サービス）の進展、情報技術の進展
7	情報システムの事例 (1)	国、社会の情報システムの事例
8	情報システムの事例 (2)	利用者中心の情報システムとデザインの事例
9	情報システム問題のケーススタディ（1）	現代の情報システムに関わる諸問題（問題事例）をワークショップ形式で問題点と解決を考察
10	情報システム問題のケーススタディ（2）	現代の情報システムに関わる諸問題（問題事例）をワークショップ形式で問題点と解決を考察
11	情報システム問題のケーススタディ（3）	現代の情報システムに関わる諸問題（問題事例）をワークショップ形式で問題点と解決を考察
12	情報システムの利用と評価	一般市民としての情報システムの利用例と評価
13	情報システムにおける倫理・法	情報システムのリスク、情報倫理、法
14	情報システムの教育	情報システム分野の人材育成、教育デザインコンセプト、教育の基本要素
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達度レベルを確認する。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	情報ネットワーク		科目ナンバリング	BCIL22010
担当者氏名	堀池 聡			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 2-4 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

インターネットに見られるように、ネットワークなくしては情報処理は成り立ちません。この講義ではネットワーク技術の基本を学ぶことにより、計算機とネットワークがどのように関わっているかを理解し、ネットワークの今後の発展にも対応できる知識を習得します。

《テキスト》

『ネットワーク利用の基礎 [新訂版]』 野口健一郎 (サイエンス社)

《参考図書》

その他は適宜紹介します。

《授業の到達目標》

情報ネットワークの基本的な動作が理解できます。例えば、自宅のパソコンからインターネットを通じて外部のサイトにアクセスしたとき、パケットがどの経路をたどるか、どのプロトコルが用いられるか等の具体的な動きがわかるようになります。

《授業時間外学習》

教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通して下さい。

《成績評価の方法》

毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。翌週の授業で、確認テストの解説をします。受講マナーが悪い場合は確認テストの点数を減点します。

《備考》

家庭や大学で利用しているコンピュータがどのようなネットワーク環境にあるか関心を持ちながら、本講義を受講して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本講義の狙い、受講上の注意点、成績評価の方法情報ネットワークの概要
2	ネットワークとデジタル通信	ネットワークとは、コンピュータネットワークの利点、ビットの伝送
3	ネットワークの構成	伝送媒体、通信機器、ネットワークの形状、ネットワークの種類
4	プロトコル	プロトコルの必要性、プロトコルの階層構造、プロトコルの体系
5	コンピュータ間の通信接続	通信回線の実現方法、データ伝送の実現
6	ローカルエリアネットワーク	LANプロトコルで考慮すべき事項、LANプロトコルの位置づけ、主要なLANプロトコル、無線LAN
7	インターネットワーク	広域ネットワークの成り立ち、インターネットワーク通信のプロトコル、IP、経路制御
8	トランスポートサービス	トランスポートサービスの位置づけ、トランスポートプロトコル、TCP
9	インターネットワーク	インターネットの構成方法、インターネットへの接続、IPアドレス、ドメイン名、名前解決
10	電子メール	電子メールの基本形式、電子メールの配達仕組み、電子メールの利用
11	ワールドワイドウェブ	WWWの基本構成、ハイパーリンクとハイパーテキスト、URI、ブラウザ、WWWのプロトコル
12	ネットワークプログラミング	FTP、TELNET、クライアントサーバ方式、Webサービス
13	ネットワークセキュリティ	ネットワーク上の脅威、通信路の安全性、暗号技術、不正プログラム
14	習得事項の整理	情報ネットワークに関し、最低限習得すべき事項を整理し、全体に関する理解を深める。
15	まとめ	講義全体の習得事項に関し到達レベルを確認する。

科目名	プログラミング演習 I		科目ナンバリング	BCIS22012	
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-2 論理的思考力 ○ 2-4 情報処理能力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力				

《授業の概要》

プログラミング言語の特徴・歴史などプログラミングの基礎知識を学ぶとともに、課されている問題の解決手段としての処理や制御など技法(前半部分)の獲得と論理的な思考方法の養成を行いながらプログラミング能力の基礎の確立を目指します。授業は基礎知識や論理・方法を説明する講義と演習を併せて行い『プログラミング演習II』への接続を行います。

《授業の到達目標》

課されている問題解決の一手段として、プログラミング言語の活用のための基礎(前半部分)を対象とします。  
 ・プログラミング言語での処理を行う命令等の理解。  
 ・記述規則に従い処理手順や手続きが記述できること  
 ・処理手順を論理的に分析し応用する力を獲得することを到達目標とします。

《成績評価の方法》

課題の提出および内容点(30%)、筆記による試験(中間試験と定期試験)(60%)、平常点(10%)を評価対象とします。提出課題は提示された課題のすべてとします。  
 Eラーニングシステムのコメント欄で修正点等をフィードバックします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要・プログラミング環境の整備	プログラミングサーバへのアクセス サーバへの接続の初期設定
2	言語の基礎知識と基本的操作の練習	サーバでのツール操作方法 プログラミングの基本
3	標準出力の概念 文字・文字列・数字	printf関数での書式、書式変換の解説 定数の用語定義
4	定数と変数 標準入力	変数の概念、記述方法 標準入力からの入力方法と応用
5	式・演算子 処理の単位	式と演算子の記述 処理のまとめ
6	制御文(1) 条件分岐	条件式による条件分岐 条件式の作成方法
7	制御文(2) 多岐にわたる条件分岐	多岐分岐の考え方
8	中間試験	試験の実施 答案返却および解答
9	制御文(3) 繰り返し制御	ループの概念と有効性
10	制御文(4) 繰り返し制御の入れ子	多重ループの概念と有効性
11	制御文(5) その他の制御文	その他制御文の解説と例の解説
12	制御文(6) その他の制御文の応用	条件式を使わない条件分岐, 多重ループからの脱出方法
13	配列	配列の概念と記述方法
14	関数	関数の概念と記述方法
15	まとめ	その他補足とまとめ プログラミング演習IIへの接続のための理解

《テキスト》

教科書は使用しません。授業に必要な資料は適宜配付します。

《参考図書》

1. B.W.Kernighan, D.M.Ritchie著, 石田晴久訳, 『プログラミング言語C 第2版 -ANSI規格準拠-』, 共立出版. 2. 鈴木正人著, 『実践Cプログラミング -基礎から設計/実装/テストまで-』, サイエンス社 など.  
 その他参考文献については必要に応じて適宜紹介します。

《授業時間外学習》

授業内で配布する資料を熟読し理解を深めて下さい。また、計算機実習室が空いている時間帯では計算機は自由に利用できますから、各自で記述したプログラムの動作など確認を行って下さい。

《備考》

履修者のより深い理解を促すために授業計画の順序等を変更/修正する場合があります。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	ビジネス実務演習		科目ナンバリング	BCBS22007
担当者氏名	土方 直子			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 1-2 主体的に学び考える力</li> <li>◎ 1-3 コミュニケーション力</li> <li>○ 2-3 ビジネス基礎力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> </ul>			

《授業の概要》

「ビジネス実務総論」での学びに基づいて、ビジネス実務を行うために必要となる知識・技術を実技を通して身につける。具体的には「上司とのコミュニケーションの取り方（報告）」「接客実務と言葉遣い」「電話応対」「来客応対」などについて実技を行う。単に方法を覚えるだけでなく、上司の視点、企業の視点から考え、対応できる力を養うことを目標とする。

《授業の到達目標》

- 社会人としてふさわしい職場常識・礼儀・マナー、職業人としてふさわしいビジネス知識を理解し実践できる。
- ビジネスシーンで日常的に行われる業務（報告・連絡・相談、電話応対、来客応対、会議準備など）を確実に実践できる。

《成績評価の方法》

定期試験40%（試験はテキスト等の持ち込み不可にて実施）、実技テスト（接客・文書作成等）40%、授業中で実施する確認テスト20%

わからないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	「ビジネス実務」の基礎知識の確認	「ビジネス実務総論」のテキストをもとに、ビジネスの基礎知識を確認する。
2	仕事の基本的な進め方①「指示の受け方」	ビジネスシーンにおける「上司からの指示」の受け方のポイントを確認し、実践する。復唱確認やメモ作成を重点的に行う。
3	仕事の基本的な進め方②「報告の仕方」	ビジネスコミュニケーションの基本となる「報告・連絡・相談」の基本を確認し、実践する。経済情報やビジネスニュースなどを素材として取り上げる。
4	ビジネス会話Ⅰ「電話応対」①	電話応対の基本を確認し、実践する。（様々な場面での電話の受け方を中心に行う）
5	ビジネス会話Ⅰ「電話応対」②	電話応対の基本を確認し、実践する。（様々な場面での電話のかけ方を中心に行う）
6	ビジネス会話Ⅰ「電話応対」③	様々な場面での電話応対を実践する。（様々な業種における電話応対を行う）
7	接客実務「来客応対」	来客応対の基本を確認し、実践する。（来客応対の一連の流れー受付、ご案内、茶菓サービス、見送りまで）
8	接客実務「訪問」①	訪問の基本を確認し、実践する。（電話でアポイントメントをとる、訪問）
9	接客実務「訪問」②	訪問の基本を確認し、実践する。（名刺交換、交渉・取引の進め方など）
10	ビジネス会話Ⅱ「接客」①	接客の基本を確認し、実践する。（店頭での来客応対の一連の流れを行う）
11	ビジネス会話Ⅱ「接客」②	接客の基本を確認し、実践する。（店頭での商品説明などを想定して行う）
12	ビジネス会話Ⅱ「接客」③	接客の基本を確認し、実践する。（クレーム対応などのケースを想定して行う）
13	会議・会合コーディネート	会議や会合の計画から終了までの一連の流れを確認し、実践する。
14	出張コーディネート	出張計画から手配、出張先での行動計画などの一連の流れを確認し、実践する。
15	まとめ	ビジネス実務全体を総括し、それぞれの実技のポイントをまとめ修得状況を確認する。

《テキスト》

講師作成の資料を配布する。

《参考図書》

- 『ビジネス実務総論 改訂版』（全国大学実務教育協会編、紀伊国屋書店、2012）
- 『ビジネスワーク総論』（中村健壽編、同文書院、2003）

《授業時間外学習》

- 予習：実技を行う項目について「ビジネス実務総論」で作成したテキストの該当部分を読んでおくこと。
- 復習：実技で行った内容を、毎回、確認してまとめること。

《備考》

配布された資料はファイリングし、毎回、持ってくること。

《専門教育科目 キャリア基盤科目》

科目名	人生設計と資産運用		科目ナンバリング	BCTL22006
担当者氏名	橋本 尚史			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 2-1 経済的思考力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-3 キャリア形成力			

《授業の概要》

野村証券、野村総合研究所から講師を招いて「証券市場の役割と証券投資」について実践的に学ぶ。各講師とも野村証券等で豊富な実務経験をつんだ資産運用のプロである。授業は単なる株式講座ではなく、ダイナミックな経済の動きの中で身近な資産（お金）をめぐる問題を具体的にわかりやすく説明する。

《テキスト》

『証券投資の基礎』野村証券投資情報部編 丸善、2002年

《参考図書》

『日本の資本市場』氏家純一編、東洋経済新報社

《授業の到達目標》

資本主義社会である日本においては、お金がすべてではないにしろお金と無関係に暮らすことは不可能である。それどころか、少子高齢化社会を迎えて、年金・保険などお金をめぐる知識はますます不可欠になっている。この授業では、これからの経済社会において当然必要とされるお金（資産）との付き合い方に関する知識を身近な問題として実践的に学ぶ方法を修得する。

《授業時間外学習》

金融資本市場、経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。

《成績評価の方法》

期末試験での成績（100点満点）で評価する。  
また、わからないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

就活に役立つ情報が満載です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の概要と計画
2	経済関係の情報とは	経済情報の捉え方
3	金融資本市場とは	金融資本市場の役割とその変化
4	債券市場とは	債券市場の役割と投資の考え方Ⅰ
5	債券市場とは	債券市場の役割と投資の考え方Ⅱ
6	株式市場とは	株式市場の役割と投資の考え方Ⅰ
7	株式投資の話	株式市場の役割と投資の考え方Ⅱ
8	投資信託とは	投資信託の役割とその仕組み
9	リスクの負担	リスク・リターンとポートフォリオ分析
10	外国為替とは何か	外国為替市場とその変動要因について
11	日本の株式	日本の株式市場
12	今後の産業	産業の展望と投資の考え方
13	投資の理論と心理	資本市場における投資家の心理
14	人生設計と資産運用	資産運用とライフプランニング
15	まとめ	一連のオムニバス講座の総括

科目名	秘書実務演習		科目ナンバリング	BCBS22009	
担当者氏名	土方 直子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力 ◎ 1-5 チームワーク力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-3 キャリア形成力				

《授業の概要》

秘書総論での学びをもとに、秘書業務を行うために必要な知識と技術を、実技を通して身につける。  
 具体的には「上司とのコミュニケーション（報告・連絡）」  
 「スケジュール管理」「言葉遣い」「来客対応」「電話対応」  
 「文書作成」「会議運営」などについて実技を行う。

《テキスト》

講師作成のプリントを配布する。

《参考図書》

○『新しい時代の秘書ビジネス実務』全国大学実務教育協編、紀伊国屋書店、2009

《授業の到達目標》

○秘書業務全般について基本的内容を理解し、必要な提案を行うことができる。  
 ○秘書として日常的に行う実務（スケジュール管理、接客実務文書作成、会議運営等）を確実に実践できる。

《授業時間外学習》

○予習：次回の授業予定項目のテキスト部分（「秘書実務総論」）を読み、ポイントを確認しておくこと。  
 ○復習：実技で行ったことを忘れないように、内容を再確認し自ら行ってみること。

《成績評価の方法》

定期試験40%（試験はテキスト等の持ち込み不可にて実施）、実技テスト30%、課題提出30%

《備考》

講義時に配布されるプリントをファイルに保管し、毎回、持ってくること。

わからないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	秘書業務の確認	「秘書総論」で学んだ内容を振り返り、実技をスムーズに行えるよう詳細を確認する。
2	コミュニケーション① 「話し方・聞き方」	秘書として上司や来客との適切なコミュニケーションの取り方を確認し、実践する。「正しい言葉遣い」や「感じのよい話し方・聞き方」を修得する。
3	コミュニケーション② 「指示の受け方」	上司からの指示の受け方を確認し、実践する。メモをとりながら確実に聞き取る訓練をし、復唱確認方法を身につける。
4	コミュニケーション③ 「報告の仕方」	上司とのコミュニケーションにおける「報告・連絡・相談」について確認し、実践する。実技では特に「報告の仕方」を重点的に学ぶ。
5	接客実践 「来客対応」①	来客対応の基本を確認し、実践する。（「受付対応～応接へのご案内」までを中心に行う）
6	接客実践 「来客対応」②	来客対応の基本を確認し、実践する。（「茶菓サービスからお見送り」までを中心に行う）
7	接客実践 「来客対応」③	ビジネスシーンでの様々な来客対応方法を学び、実践する。（アポイントメントのない来客、クレーム対応など）
8	接客実践 「電話対応」①	電話対応の基本を確認し、実践する。（様々なシーンでの「電話の受け方」を中心に行う）
9	接客実践 「電話対応」②	電話対応の基本を確認し、実践する。（アポイントメントをとるなどの「電話のかけ方」を中心に行う）
10	接客実践 「電話対応」③	電話対応の基本を確認し、実践する。（伝言を預かったケースを想定し、復唱からメモ作成までを中心に行う）
11	文書業務	ビジネス文書の基礎知識を確認し、実践する。（社内文書、社外文書、社交文書のそれぞれの作成に取り組む）
12	交際業務	秘書にかかせない「慶弔関係」などの交際業務を確認し、実践する。（場面設定をし、交際業務の手配を行う）
13	出張コーディネーター	秘書業務の柱の一つとなる「出張業務」について、スケジュール立案から手配までを想定し、実践する。
14	会議コーディネーター	会議についての基礎知識を確認し、会議準備を実践する。
15	まとめ	秘書業務全体を総括し、それぞれの実技のポイントをまとめ修得状況を確認する。

《専門教育科目 プロジェクト実践科目》

科目名	プロジェクト演習Ⅱ		科目ナンバリング	BPPS12003
担当者氏名	池本 廣希、堀池 聡、木下 準一郎、高野 敦子、榎木 浩、橋本 尚史、森下 博、土方 直子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 1-5 チームワーク力 ◎ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-4 創造力 ○ 3-5 計画力・実行力			

《授業の概要》

実社会課題挑戦型の学修として、実社会におけるテーマを1年次の授業内容から選び、プロジェクト演習を実施する。1年次に学んだ知識に加えて広く、情報を収集し情報を分析する力、解決すべき問題を見つけ出す力、アイデアを創造し提案していく力を養う。また、活動成果をわかりやすく報告書にまとめ、発表する力をつける。この演習では、情報収集や分析、問題解決、報告を主眼に置く。

《テキスト》

随時プリントを配布する

《参考図書》

鈴木敏恵（2012）『プロジェクト学習の基本と手法』教育出版

《授業の到達目標》

- 情報を収集し情報を分析報告する力を身につける。
- 問題を解決する方法を見つけ出す力を身につける。
- 問題解決のアイデアを創造し提案していく力を身につける。
- 報告と発表する力をつける

《授業時間外学習》

期限のある作業について、授業中に終わらなかった場合は授業時間外にグループで作業を完了させること。

《成績評価の方法》

平常点50%  
 成果物（成長報告書と凝縮ポートフォリオ）50%  
 分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で受け付ける。

《備考》

ポートフォリオを記録・整理すること。  
 アクティブラーニングを実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	プロジェクト演習の説明、授業の進め方、グループ編成
2	準備	プロジェクトが取り組むテーマ（題材）を決め、そのテーマから問題（課題）を発見し、問題の本質を見極め明らかにする（目標設定）。
3	目標設定と計画立案	目標を達成するために必要な情報や作業を考え、時間配分等して、問題解決のための計画を立て、工程表を作成する。
4	問題解決策の創出	問題を解決するための情報を獲得し、ブレインストーミングやKJ法等を通して、情報の分析や判断をしながら、問題解決のアイデアをより多く創出する。
5	問題解決策の創出	問題を解決するための情報を獲得し、ブレインストーミングやKJ法等を通して、情報の分析や判断をしながら、問題解決のアイデアをより多く創出する。
6	問題解決策の評価・選定	アイデアの実現可能性や効果などの評価基準を設け、解決策を評価する。
7	問題解決策の評価・選定	アイデアの実現可能性や効果などの評価基準を設け、解決策を評価する。
8	問題解決策の評価・選定	解決策の評価にもとづき、最も評価の高いアイデアを選ぶ。
9	問題解決策の具体化・実施	問題解決策を実現するための具体的方策を考え、具体策を実施する。
10	問題解決策の具体化・実施	問題解決策を実現するための具体的方策を考え、具体策を実施する。
11	プレゼンテーション用の制作	第3者に伝えるために報告書としてまとめる。
12	プレゼンテーション	まとめた報告書を発表する。
13	凝縮ポートフォリオの作成	元ポートフォリオから凝縮ポートフォリオを作成する。
14	凝縮ポートフォリオの作成と評価	元ポートフォリオから凝縮ポートフォリオを作成し、相互評価を行う。
15	自己評価と成長確認	プロジェクトの活動について必ず振り返りを行い、自身の達成度を自己評価（コンピテンシー）し改善点をまとめ、成長報告書を作成する。

科目名	プロジェクト演習Ⅲ		科目ナンバリング	BPPS12004
担当者氏名	池本 廣希、堀池 聡、木下 準一郎、高野 敦子、榎木 浩、橋本 尚史、森下 博、土方 直子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 チームワーク力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-4 創造力 ◎ 3-5 計画力・実行力			

《授業の概要》

実社会におけるテーマを専攻領域から選び、プロジェクト演習を実施する。チームで設定した目標に向かって協力し意見をまとめていくことで、コミュニケーション力、思考力、行動力を高める。様々な視点から問題を検討し、解決するための複数のアイデアを提案できる能力を身に付ける。そして、最適な解決案を選出し評価するための手法を検討し、アイデアを実際に試行するための計画を立案する能力を養う。

《テキスト》

随時プリントを配布する

《参考図書》

鈴木敏恵 (2012) 『プロジェクト学習の基本と手法』 教育出版

《授業の到達目標》

- コミュニケーション力、思考力、行動力を身につける。
- 複数の問題解決策の提案と最適解の導出する力を身につける。

《授業時間外学習》

期限のある作業について、授業中に終わらなかった場合は授業時間外にグループで作業を完了させること。

《成績評価の方法》

平常点50%  
 成果物（成長報告書と凝縮ポートフォリオ）50%  
 分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で受け付ける。

《備考》

ポートフォリオを記録・整理すること。  
 アクティブラーニングを実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	プロジェクト演習の説明、授業の進め方、グループ編成
2	準備	プロジェクトが取り組むテーマ（題材）を決め、そのテーマから問題（課題）を発見し、問題の本質を見極め明らかにする（目標設定）。
3	目標設定と計画立案	目標を達成するために必要な情報や作業を考え、時間配分等して、問題解決のための計画を立て、工程表を作成する。
4	問題解決策の創出	問題を解決するための情報を獲得し、ブレインストーミングやKJ法等を通して、情報の分析や判断をしながら、問題解決のアイデアをより多く創出する。
5	問題解決策の創出	問題を解決するための情報を獲得し、ブレインストーミングやKJ法等を通して、情報の分析や判断をしながら、問題解決のアイデアをより多く創出する。
6	問題解決策の評価・選定	アイデアの実現可能性や効果などの評価基準を設け、解決策を評価する。
7	問題解決策の評価・選定	アイデアの実現可能性や効果などの評価基準を設け、解決策を評価する。
8	問題解決策の評価・選定	解決策の評価にもとづき、最も評価の高いアイデアを選ぶ。
9	問題解決策の具体化・実施	問題解決策を実現するための具体的方策を考え、具体策を実施する。
10	問題解決策の具体化・実施	問題解決策を実現するための具体的方策を考え、具体策を実施する。
11	プレゼンテーション用の制作	第3者に伝えるために報告書としてまとめる。
12	プレゼンテーション	まとめた報告書を発表する。
13	凝縮ポートフォリオの作成	元ポートフォリオから凝縮ポートフォリオを作成する。
14	凝縮ポートフォリオの作成と評価	元ポートフォリオから凝縮ポートフォリオを作成し、相互評価を行う。
15	自己評価と成長確認	プロジェクトの活動について必ず振り返りを行い、自身の達成度を自己評価（コンピテンシー）し改善点をまとめ、成長報告書を作成する。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	修学基礎Ⅱ		科目ナンバリング	BSSS12003
担当者氏名	三宅 伸二、堀池 聡、李 良姫、竹川 宏子、西田 悦雄、橋本 尚史、森下 博、中本 淳、土方 直子			
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-2 主体的に学び考える力 <input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 3-3 キャリア形成力			

《授業の概要》

修学基礎Ⅰで身につけた日本語基礎力を活用して、学科教育内容に準拠した題材・テーマをもとに、専門的な文書の読解と表現を重点的に身につける。実社会のさまざまな場面で求められる思考力、判断力、表現力に必要な基礎的な知識や教養を修得するための読解力を身につける。また、文章力を構成する能力である語彙力、表現力、構成力、説得力、魅力、および生産力の向上を文章執筆を通して身につける。

《テキスト》

教科書は特に指定しません。必要に応じて適宜資料を配布します。

《参考図書》

必要に応じて適宜紹介します。

《授業の到達目標》

1. 日本語での文書を読解・構成できる。
2. 日本語による適切な文書表現や応答ができる。
3. 日本語での適切な語彙を理解し、活用できる。
4. 専門領域での用語を理解し、活用できる。

《授業時間外学習》

授業内で学んだことをノート等にまとめ、理解が不足している点は次回の授業までに理解を深めておくこと。課題等の作成は時間外に作成すること。身の回りに存在する文章に関心を持つこと。

《成績評価の方法》

平常点(60%)＋レポート等課題(40%)で評価します。

《備考》

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修指導、自己紹介
2	読み書きの力を鍛える①	文章の構成を学ぶ。資料の内容を理解して、ポイントを押さえて要約する。
3	読み書きの力を鍛える②	文章の構成を学ぶ。資料の内容を理解して、ポイントを押さえて要約する。
4	読み書きの力を鍛える③	文章の構成を学ぶ。資料の内容を理解して、ポイントを押さえて要約する。
5	口頭発表①	与えられたキーワードを元にマインドマップを作成し、自身のテーマを決める。
6	口頭発表②	自身のテーマについて調査したことをまとめ、発表する。
7	ディベート①	テーマの選定とチーム分け
8	ディベート②	データの収集および論点整理
9	ディベート③	データの収集および論点整理
10	ディベート④	データの収集および論点整理、ディベートに向けた資料の作成
11	ディベート⑤	ディベートマッチ
12	レポートを書く①	自身のテーマの決定、アウトラインの作成
13	レポートを書く②	レポートの執筆、参考文献の書き方
14	レポートを書く③	レポートの執筆
15	まとめ	その他補足および総括

科目名	専攻演習 I	科目ナンバリング	BSSS12004
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

専門教育の準備として、専攻の特徴、学修内容や想定される進路等を理解する。文献の読み方、社会調査の方法、基本的なデータ分析手法、研究論文やレポートの書き方等を学ぶ。地域社会と密接な関係を持つ観光ビジネス統計を活用しながら研究を遂行するために必要な基礎的能力である情報収集能力、データ分析力、プレゼンテーション能力等を身につける。

《授業の到達目標》

- 1) 文献の読み方が理解できる。
- 2) 社会調査方法が理解できる。
- 3) データ及び資料の収集分析ができる。
- 4) アンケート及び聞き取りの現地調査ができる。
- 5) 調査結果の報告書作成及びプレゼンテーションができる。
- 6) 発表者に対する評価ができる。

《成績評価の方法》

- (1) 発表40% (情報収集能力、発表態度によって評価する)
- (2) レポート課題等の提出物60%

作成された質問項目について修正し、フィードバックする。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

『実践社会調査入門-今すぐ調査を始めたい人へ』玉野和志著、世界思想社、2008  
 『観光ビジネス未来白書-統計に見る実態・分析から見える未来戦略-』加藤弘治、同友館、2015

《授業時間外学習》

- (1) 各自の関心テーマについて、アンケート及び聞き取り調査項目を作成する。
- (2) 作成した調査用紙を持って、実際にアンケート及び聞き取り調査を実施する。
- (3) 調査結果を統計分析し、演習で発表するための資料を作成する。

《備考》

実施する現地調査及び結果分析は、極めて基礎的な社会調査です。この演習を通して、フィールドワークの楽しさを学ぶことを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の概要、進め方、スケジュールなどについて説明する。
2	文献の読み方①	テーマと関連する文献の調べ方、読み方について理解できる。
3	文献の読み方②	観光関連文献及び資料を紹介し、最近の観光研究動向について説明する。
4	社会調査方法①	社会調査の目的と方法について認識し、各自の関心テーマを見つけることができる。
5	社会調査方法②	社会調査方法について理解でき、社会調査の手順と過程を説明することができる。
6	アンケート作成方法	関心テーマについてアンケートを作成する。アンケート作成の際の注意事項、アンケート作成の作り方などについて理解できる。
7	聞き取り調査方法	聞き取り調査の意義について説明し、関心分野における聞き取り調査項目を実際に作成する。
8	データ収集方法	先行研究、統計資料、行政の発行資料などの収集の仕方について理解できる。
9	データ整理手法	収集したデータの効果的な整理手法について説明する。特に、IT機器を活用する。
10	データ分析方法	収集資料、現地調査、アンケート及び聞き取り調査の分析方法について理解できる。
11	報告書の作成方法	研究成果を提示するための報告書作成の仕方について理解できる。
12	効果的なプレゼンテーション	プレゼンテーションで最も多く使用されているパワーポイントが作成できる。効果的なプレゼンテーションのための心得について理解できる。
13	プレゼンテーション①	研究結果をプレゼンテーションする。発表者以外は、プレゼンテーション内容について質問を行う。また、発表者に対し評価、記入し、教員に提出する。
14	プレゼンテーション②	研究結果をプレゼンテーションする。発表者以外は、プレゼンテーション内容について質問を行う。また、発表者に対し評価、記入し、教員に提出する。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、今後の研究発展について提示できる。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専攻演習 I	科目ナンバリング	BSSS12004
担当者氏名	橋本 尚史		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

専門演習をすすむにあたり必要なスキルとしてリサーチ・リテラシー（「読む力」、「書く力」、「聞く力」、「課題発見力」、「情報収集力」、「推理整理力」、「データ分析力」、「プレゼンテーション力」）があります。本演習Ⅰでは「グローバル」と「公共」に関連したトピクスを取り上げて、リサーチ・リテラシーの力を身に付けます。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考図書》

1. 石坂春秋 (2007) 『レポート・論文・プレゼン スキルズ』くろしお出版。

《授業の到達目標》

リサーチ・リテラシー（「読む力」、「書く力」、「聞く力」、「課題発見力」、「情報収集力」、「推理整理力」、「データ分析力」、「プレゼンテーション力」）を身に付けて、自分たちで問題の発見・解決ができるようになることを目標とします。

《授業時間外学習》

新聞を読み世の中の動向に興味を持つこと、そしてインターネット、図書館も積極的に利用してさまざまなことに興味を持つことが重要です。

《成績評価の方法》

与えられた課題に対する取り組み姿勢（30パーセント）・発表内容（20パーセント）と授業への参加姿勢（50パーセント）によって評価します。また、わからないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

授業への遅刻、そして授業中の途中退出・私語は厳禁です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	本専攻演習Ⅰの進め方について説明します。
2	世界・地域の気になるニュース (1)	世界・地域の気になるニュースを紹介して、ディスカッションをします。
3	世界・地域の気になるニュース (2)	世界・地域の気になるニュースについて問題点を整理して、仮説を立てます。
4	世界・地域の気になるニュース (3)	世界・地域の気になるニュースに関する仮説について資料・データを収集します。
5	世界・地域の気になるニュース (4)	世界・地域の気になるニュースについて収集した資料・データを用いて分析をおこないます。
6	世界・地域の気になるニュース (5)	世界・地域の気になるニュースについてまとめます。
7	世界・地域の気になるニュース (6)	世界・地域の気になるニュースについてプレゼンテーション資料を作成します。
8	世界・地域の気になるニュース (7)	世界・地域の気になるニュースについて発表と討論をおこないます。
9	気になるニュースの探求 (1)	グループで気になるニュースを探します。
10	気になるニュースの探求 (2)	グループで探したニュースについて問題点を整理して、仮説を立てます。
11	気になるニュースの探求 (3)	グループで探したニュースに関する仮説について資料・データを収集します。
12	気になるニュースの探求 (4)	グループで探したニュースについて収集した資料・データを用いて分析をおこないます。
13	気になるニュースの探求 (5)	グループで探したニュースについてまとめます。
14	気になるニュースの探求 (6)	グループで探したニュースについての発表と今後の検討をおこないます。
15	まとめ	本講義で学んだことについてふり返ります。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専攻演習 I	科目ナンバリング	BSSS12004
担当者氏名	三宅 伸二		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

基本的に、日商簿記検定合格を目指した授業を行います。主に、グループ演習によりレベルアップを図ります。3級に合格すれば、続いて2級を目指します。また、社会に関心を持つ意味で、時事問題の新聞や雑誌記事の輪読、議論、解説なども随時行っていきます。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

授業中に指示・紹介します。

《授業の到達目標》

まず、日商簿記検定3級合格をめざします。

《授業時間外学習》

授業時間内の学習だけでは、簿記検定合格には時間が不足です。3級に合格するには、毎日少なくとも1日1時間の家庭学習が必要です。

《成績評価の方法》

到達度確認テスト（3回）の状況（90%）と宿題（10%）で評価します。確認テストと宿題の解答は次回の授業において行います。

《備考》

授業時間内の学習だけでは、簿記検定合格には時間が不足です。毎日1時間の家庭学習が必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	簿記上の取引と仕訳	簿記上の取引の意義と仕訳の原理
2	仕訳と勘定への転記	仕訳から勘定記入へ
3	勘定の締切と試算表	締切の意味と方法（大陸式と英米式）試算表の意義と作成方法
4	6桁精算表	精算表の意義と作成方法
5	商品売買1	商品売買の基本的処理分記法による処理
6	商品売買2	付随費用、返品・値引きを伴う商品売買三分法による処理
7	現金	簿記上の現金の種類と処理方法現金過不足の処理
8	当座預金	当座預金の意義と基本的な処理当座借越の処理
9	手形1	手形の意義と約束手形の処理
10	手形2	為替手形の意義と処理裏書手形、手形借入・手形貸付
11	貸付金・借入金未収金・未払金	基本的な処理と利息計算
12	前払金・前受金	予約販売の処理
13	仮払金・仮受金	基本的な処理と利息計算
14	立替金・預り金商品券	自店発行商品券、他店発行の商品券の処理
15	固定資産の処理	固定資産の購入と減価償却 固定資産の売却

科目名	専攻演習 I	科目ナンバリング	BSSS12004
担当者氏名	森下 博		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

この演習では、今後専門科目を深く学んでいく上で必要とされる技術や方法について扱います。具体的には、社会のニーズや意識を知るためのアンケート調査を取り上げ、その計画から結果のまとめに至るまでのアプローチについて習得します。情報の「収集と整理」「集計と分析」「読解と執筆」「発信と表現」を掲げて段階的に進めていきます。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考図書》

適宜、参考書を紹介していきます。

《授業の到達目標》

- アンケートを実施する目的を明確にもち、その実施計画をとりまとめることができる。
- アンケートの回収により得られたデータをもとに、正確に集計と分析をすることができる。
- アンケートの集計分析結果をもとに、提案や改善をわかりやすく説明することができる。

《授業時間外学習》

授業内で終えることのできなかつた課題については、次回までに済ませておいて下さい。理解を深めるため、さらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出40%  
 課題提出とその成果60%  
 分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

授業では、今後の学修において必要とされるリサーチリテラシーの習得に力を入れます。演習を通じて確実に身につけ、実感してもらいたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習の概要と展開方法	専門科目に必要な身につけておくべき力を掲げ、授業計画と展開について説明する。
2	課題発見とアプローチ	アンケート調査の目的を明確にし、テーマの選定および実施計画について検討する。
3	情報の収集と整理(1)	アンケート調査の対象と回収の方法を決定し、得ようとする情報の整理をおこなう。
4	情報の収集と整理(2)	アンケート調査の質問項目の内容や回答の種類について検討し、調査票を作成する。
5	情報の収集と整理(3)	アンケート調査の設問と選択項目を点検し、調査の目的などを含む表紙を作成する。
6	情報の集計と分析(1)	アンケート調査の実施と回収された調査票をもとに、データ入力と整理をおこなう。
7	情報の集計と分析(2)	アンケート調査のデータの集計の仕方と設問の性質に合ったグラフ化について学ぶ。
8	情報の集計と分析(3)	アンケート調査の属性別のデータの集計をおこない、結果の比較分析について学ぶ。
9	情報の読解と執筆(1)	アンケート調査の集計結果をもとに、傾向の読み取りとその取りまとめをおこなう。
10	情報の読解と執筆(2)	アンケート調査の集計結果をもとに、表やグラフを含めた執筆の仕方について学ぶ。
11	情報の読解と執筆(3)	アンケート調査の集計結果をもとに、プレゼンのスライドのまとめ方について学ぶ。
12	情報の発信と表現(1)	アンケート調査の分析と考察の内容を発信するための手段について検討をおこなう。
13	情報の発信と表現(2)	アンケート調査の結果を発信するために、ウェブページの制作について取り上げる。
14	情報の発信と表現(3)	アンケート調査の発信手段としての、ウェブページのデザインについて取り上げる。
15	演習の総括と振り返り	この演習で取り扱ってきたリサーチリテラシーがどれだけ身についたかを振り返る。

科目名	専攻演習 I	科目ナンバリング	BSSS12004
担当者氏名	竹川 宏子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

この授業では、社会的な問題や企業が抱える問題を解決する力を養うために問題発見や調査、データの扱い方、まとめ方の基礎について学ぶ。まず、学ぶべきさまざまなリテラシーとは何か、どうしたら身につくのか考えてもらう。

このクラスでは、企業が抱える問題を解決するという想定で顧客満足度の調査方法に焦点を当て、問題発見-仮説の設定-調査-解決という一連の流れについて解説する。

《授業の到達目標》

- リサーチリテラシーを構成する要素について学ぶことができる。
- 調査における資料収集の方法を学ぶことができる。
- 調査のイメージを描くことができる。

《成績評価の方法》

(1) 小テスト60%，(2) まとめの発表20%，(3) レポート課題20%とする。小テストは4回程度行う。小テストはその場で自己採点した後、提出する。各自が自己採点することにより、理解不足の箇所を確認することができる。授業態度が悪い場合は減点の対象とする。

《テキスト》

山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、2011年

《参考図書》

授業に合わせて適宜指示する。

《授業時間外学習》

小テストを数回行うので、そのため授業の復習を時間外に行う。レポート課題を出すので、それらを授業時間外に学習する。

《備考》

小テストは自己採点するので、ボールペンなど消せない筆記用具を持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	シラバスを参照しながら授業の概要と学習意義について理解する。
2	「聞く力」をつける①	「聞く力」とは何かについて理解する。
3	「聞く力」をつける②	聞く力はどのようにすれば身につくのかを考え、グループディスカッションし、その結論をまとめる。
4	「課題発見力」をつける	「課題発見力」とは何かについて学び、どのようにすれば身につくのかを考え、グループディスカッションし、それをまとめる。
5	「情報収集力」をつける①	「情報収集力」とは何かについて学び、どのようにすれば身につくのか理解する。インターネットを使った情報収集について理解する。
6	「情報収集力」をつける②	文献検索を中心とした情報収集について理解する。
7	「情報整理力」をつける	情報整理の方法について理解する。
8	調査の必要性	顧客満足について学び、調査の必要性と調査内容について理解する。
9	調査の手順	状況分析に向けて、適切な資料はどのようなものであるかを理解する。
10	アンケート用紙の作成①	アンケートの構造を理解する。
11	アンケート用紙の作成②	テーマを決めてアンケート用紙を作成する。
12	「プレゼンテーション力」をつける	自分の作成したアンケート用紙について説明を行う（発表）。
13	「データ分析力」をつける①	データ分析を満足度の事例で理解する。
14	「データ分析力」をつける②	データ分析の基本的、一般的な考え方について理解する。
15	まとめ	学習内容の振り返りを行う。

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専攻演習 I	科目ナンバリング	BSSS12004
担当者氏名	堀池 聡		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

現代の情報セキュリティの中核技術である暗号について学習することにより、研究を遂行するために必要な基礎能力を身につけます。暗号の技術について調査し、理解した内容をExcelで検証します。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配付します。

《参考図書》

サイモン・シン著『暗号解説』（新潮文庫）  
 その他は適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

暗号の学習を通じて、文献調査、論理的思考法、コンピュータ操作といった基本的な技術の向上を目指します。また、暗号の基礎的事項とExcelの基本操作を修得できます。

《授業時間外学習》

授業ごとに指定するコンピュータ演習や文献調査を行って下さい。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取組み(60%)、成果物とそのレポート(40%)により評価します。

出席回数が10回未満の場合は単位を与えません。遅刻やマナー違反は出席回数の削減対象とします。

《備考》

わからないことはオフィスアワーなどで質問を受付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ゼミの進め方とスケジュール、メンバー紹介、履修指導
2	暗号の基礎(1)	暗号の基礎についての調査
3	暗号の基礎(2)	暗号の歴史についての調査
4	換字式暗号(1)	換字式暗号についての調査
5	換字式暗号(2)	換字式暗号の解読方法についての調査
6	換字式暗号(3)	換字式暗号の解読実習
7	Excelによる換字式暗号解読ツール(1)	Excelによる換字式暗号の頻度分析
8	Excelによる換字式暗号解読ツール(2)	Excelによる換字式暗号解読ツールの検証
9	Excelによる換字式暗号解読ツール(3)	Excelによる換字式暗号解読ツールを用いた演習
10	RSA暗号(1)	素数や素因数分解などのRSA暗号の基礎
11	RSA暗号(2)	RSA暗号の仕組みに関する調査
12	RSA暗号(3)	RSA暗号の解読に関する調査
13	ExcelによるRSA暗号の実現(1)	ExcelによるRSA暗号ツールの検証
14	ExcelによるRSA暗号の実現(2)	ExcelによるRSA暗号の演習
15	まとめ	演習で学んだ暗号に関するまとめ

《専門教育科目 演習科目》

科目名	専攻演習 I	科目ナンバリング	BSSS12004
担当者氏名	西田 悦雄		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

自ら選択した専攻研究テーマ設定のための調査、情報収集、参考文献の読み方など研究を進めるための基礎となる研究リテラシーを学びます。

《テキスト》

小笠原信之著、「文書力が身につく本」、高橋書店

《参考図書》

小笠原信之著、「文書力が豊かになる本」、高橋書店。など。その他の参考文献に関しては必要に応じて適宜紹介します。

《授業の到達目標》

1. 研究テーマの設定が行える。
  2. 研究のための調査が自発的に行える。
  3. 情報通信技術やツールを活用できる。
  4. 研究の進捗状況報告・論文作成のための文書が書ける。
- など必要となる研究リテラシーのスキルや考え方の獲得も目標とします。

《授業時間外学習》

課題、演習および研究に必要な活動に関しては授業時間外で対応して下さい。  
なお事前・事後学習での情報収集は学内で行うようにして下さい。

《成績評価の方法》

基礎課題(50%)、研究テーマに関わる課題(40%)、平常点(10%)として判定し評価します。

《備考》

興味や関心を持ち意欲的取り組むことを望みます。また、理解度や進捗の状況により授業の順序の変更・修正することがあります。

議論ではフィードバックをはかりながら、研究テーマを見つけ進めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	概要	研究リテラシーの概要説明、ファーストステップの目標設定
2	計算機の基礎知識	計算機の基礎概念と基礎知識、ネットワークの基礎知識
3	情報検索の基礎知識	ネットワーク活用に基づく情報収集
4	文書の表現と活用	レポート・論文等の文書作成のための基礎の復習
5	文献の探し方(1)	WebブラウザとCiNiiの基礎
6	文献の探し方(2)	Google Scholarの基礎
7	文献情報の活用	その他の情報検索サイトの活用
8	文書作成の基礎(1)	情報伝達を意識した文章作成
9	文書作成の基礎(2)	よりわかりやすい文書のための豊かな表現の獲得
10	研究テーマの調査(1)	検索サイト(CiNii)の活用
11	研究テーマの調査(2)	検索サイト(Google Scholar)の活用
12	研究テーマの調査(3)	収集した情報のまとめと発表の筋立て
13	研究テーマの調査発表(1)	テーマ決定のための調査報告(1) 発表用資料の作成
14	研究テーマの調査発表(2)	テーマ決定のための調査報告(2) 発表
15	まとめ	その他補足およびまとめ

科目名	経営学		科目ナンバリング	BAOL32001
担当者氏名	竹川 宏子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-3 キャリア形成力			

《授業の概要》

世界経済、社会に対して大きな影響を及ぼしている大企業に焦点を当て、その仕組みと戦略について解説する。企業と私たちが直接かかわる身近な問題から入り、企業と社会とのかかわり、企業活動の本質などについて解説する。

なお、企業にかかわる大きなニュースについては、随時テキストの範囲を超えてトピックスとして取り上げる。

《テキスト》

周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔『経営学1』実教出版, 2009年

《参考図書》

守屋貴司・近藤宏一・小沢道紀『はじめの一步 経営学』ミネルヴァ書房, 2007年

《授業の到達目標》

- 社会における企業の役割を理解できるようになる。
- 株式会社の制度と意味について理解できるようになる。
- 企業活動の内容（経営の諸機能、経営管理）について理解できるようになる。

《授業時間外学習》

予習の方法：テキストの該当箇所を読んできて（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。

復習の方法：授業のノートを見返して疑問点を考えてくることとする。

《成績評価の方法》

(1) 定期試験70%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）(2) 中間小テスト30%（持ち込み不可として評価する。中間テストはその場で自己採点し、自らの理解度を確認する。授業態度が悪い場合は減点の対象とする）。

《備考》

連絡用のメールアドレスは第1回講義の際に伝える。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	シラバスを参照しながら授業の概要を理解し、経営学の学習意義について学ぶ。
2	現代社会における企業経営①	企業が社会に与える影響力について理解する。
3	現代社会における企業経営②	経済社会の変化と企業の関係について理解する。
4	企業活動と利害関係者	利害関係者の概念について理解する。
5	会社の種類	会社の種類について理解する。
6	株式会社の制度と意味	株式会社の特徴と会社設立の手続きについて理解する。
7	中間のまとめ	小テストを行い、これまでの学習内容の理解度を確認する。
8	財務と会計	企業の活動資金の調達と運用について理解する。
9	人的資源管理①	採用、配置、異動、評価、能力向上、退職など主要な管理項目について理解する。
10	人的資源管理②	働きがい、労使利害の調整について理解する。
11	生産管理①	生産の仕組みの基礎について理解する。
12	生産管理②	工程管理や品質管理の基礎について理解する。
13	マーケティング①	マーケティングの概念、顧客のニーズ調査、商品開発などについて理解する。
14	マーケティング②	価格設定、流通チャネル、販売促進について理解する。
15	まとめ	学習内容の振り返りを行う。

科目名	グローバル経済事情		科目ナンバリング	BAOL32002
担当者氏名	澤山 明宏			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ○ 2-1 経済学的思考力 ◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力			

《授業の概要》

グローバル経済を多面的に理解し、受講生がグローバル化に関わっていくかを考えるための指針となる授業を目指します。前半ではグローバル化の経済、政治の側面からの理解を目指し、後半では具体的な地域・問題を中心にグローバル化の現状を理解することを狙います。映画など幅広く資料を使用し、具体的なイメージをもってグローバル経済を考える機会を提供したいと思います。

《授業の到達目標》

- (1) グローバル経済について多面的な理解を得る。
- (2) 社会科学的研究に必要な論理的思考ができる。
- (3) 地域研究の基本を身につける。
- (4) 時事問題について興味を持ち理解できる。

《成績評価の方法》

- (1) 毎回提出するコメントシート：20%
- (2) ショートテスト（1～2回）：40%
- (3) 定期試験またはレポート：40%

\*上記についての評価を都度受講生に個別に伝え、以後の学習の指針を提供する予定。

《テキスト》

指定テキストはありません。必要な教材は適宜授業で配布します。

《参考図書》

- ・伊藤元重「ゼミナール国際経済入門」（日本経済新聞社）
  - ・浦田秀次郎「国際経済学入門」（日本経済新聞社）
- この他の参考図書は授業で紹介していきます。

《授業時間外学習》

- ・第2回から第6回の講義は経済学の知識を前提にしています。授業でも丁寧に解説しますが、着実に理解するために参考図書などの関係書を熟読して復習してください。
- ・第7回から第13回は事例が中心になります。新聞、雑誌などの時事問題も読むようにすると一層興味が持てるでしょう。

《備考》

受講生の関心、理解度、開講中の経済問題の展開などを考慮しながら授業計画を修正することもあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	グローバル化の諸相	グローバル経済への入門として、その多面性について学ぶ。
2	国際貿易の基本	国際経済理解の基本である貿易理論とその有効性を学ぶ。
3	国際マクロ経済学（1）	国際経済をマクロ的に理解するための基本を学ぶ。
4	国際マクロ経済学（2）	国際経済をマクロ的に理解するための基本を学ぶ。
5	通貨問題	国際経済の理解に不可欠の為替レートの問題に焦点を合わせて学ぶ。
6	通商システム	現在の通商システム（WTO、FTA、EPA、TPPなど）に至るまでの変遷とその内容について学ぶ。
7	地域研究（1）EU①	EU（ヨーロッパ連合）の成立の背景、発展の過程を学び、20世紀の国際経済への理解を深める。
8	地域研究（2）EU②	EUのユーロ導入、拡大に伴う成果と問題を学び、EUの将来を展望する。
9	地域研究（3）中国	中国経済が目覚ましい発展を遂げた背景を学び、さらにその現状から将来を展望する。
10	地域研究（4）アメリカ	アメリカ合衆国、中南米諸国の経済の現状を学び、将来を考える。
11	地域研究（5）アフリカ	これから期待されるアフリカについて、その歴史と現状を学び、その発展の可能性を探る。
12	地域研究（6）イスラム	紛争、テロが頻発するイスラム諸国に焦点を合わせ、イスラム教の基本を理解し、その歴史と今後を展望する。
13	地域研究（7）アジア	地理的にも経済政治の面でも日本との関係が深いアジア地域について、その多様性を学び将来を展望する。
14	地域リスクについて	各地域に潜在する固有のビジネスチャンスと同時にリスクを展望し、グローバル経済でのリスク管理に必要な知識を学ぶ。
15	グローバル経済の未来	総括として世界経済の今後を展望する。

科目名	ミクロ経済 I		科目ナンバリング	BAOL32003
担当者氏名	石原 敬子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-1 経済学的思考力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力			

《授業の概要》

ミクロ経済学は、市場のはたらき、資源配分のメカニズムを分析するための手法である。「ミクロ経済 I」では、部分均衡分析の基礎理論を学び、経済学的考え方を身につけることを目標とする。基礎的な概念からしっかりと勉強し、市場の働きについての理解を深め、身近な経済問題について経済学的に考察するための基礎的な力を養う。

《授業の到達目標》

- ・ミクロ経済学の基礎的な概念（需要と供給、市場均衡、需要の価格弾力性、費用の諸概念など）を理解する。
- ・ミクロ経済学の基礎理論を用いて、企業の価格戦略など、身近な問題について考察できるようになる。
- ・市場経済の特徴、市場の働きについて理解し、説明できるようになる。

《成績評価の方法》

平常点（授業時の課題への取り組み、事前学習・事後学習への取り組み状況など）と学期末のテストをもって評価する。評価の割合は、平常点30%、学期末のテスト70%とする。授業時の課題や宿題などの提出物については、コメントを付して返却するとともに、授業時に解答・解説を行う。

《テキスト》

伊藤元重著『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社、2003年。

《参考図書》

N.G. マンキュー著・足立英之他訳『マンキュー 入門経済学（第2版）』東洋経済新報社、2014年。  
 ピンダイク&ルビンフェルド著・姉川知史監訳『ミクロ経済学 I』中経出版、2015年。  
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- 《事前学習》  
次週の授業内容を事前に伝えるのでテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- 《事後学習》  
授業内容を振り返るとともに、演習課題に取り組むこと。

《備考》

経済理論を理解するためには、基礎からの積み重ねが重要である。質問は随時受け付けるので、わからないことをそのままにせず、理解に努めよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要、授業の進め方 ミクロ経済学とはどのような学問かを説明する。（テキスト第0章）
2	市場経済の特徴	市場経済の特徴について、計画経済と比較しながら考察する。（テキスト第0章）
3	需要と供給（1）	需要曲線・供給曲線の特徴について学ぶ。（テキスト第1章 pp. 20-27）
4	需要と供給（2）	需要曲線、供給曲線にかかわる概念（需要の価格弾力性、供給の価格弾力性）を理解する。（テキスト第1章 pp. 27-34）
5	消費者行動と需要曲線（1）	需要曲線の構造について学ぶ（テキスト第2章 pp. 38-44）
6	消費者行動と需要曲線（2）	需要曲線を用いて、価格戦略について分析する。（テキスト第2章 pp. 44-51）
7	消費者行動と需要曲線（3）	消費者行動について需要曲線を用いて分析する。（テキスト第2章 pp. 52-60）
8	消費者行動と需要曲線（4）	需要曲線を用いた分析についての振り返り
9	供給に関する分析（1）	生産にかかわる費用構造について考える。（テキスト第3章 pp. 62-67）
10	供給に関する分析（2）	さまざまな費用概念について理解する。（テキスト第3章 pp. 67-76）
11	供給に関する分析（3）	企業の利潤最大化行動について考える。（テキスト第3章 pp. 76-84）
12	市場と価格メカニズム	効率的な資源配分とはどのようなことかを考え理解する。（テキスト第4章 pp. 88-92）
13	余剰分析（1）	効率的な資源配分について、余剰分析を用いて考察する。（テキスト第4章 pp. 92-99）
14	余剰分析（2）	消費税の引き上げ、自由貿易と保護貿易など身近な経済問題を取り上げ、その経済効果について余剰分析を用いて考察する。（テキスト第4章 pp. 99-104）
15	学習のまとめ	この授業で学んだことを振り返り、理解度を確認する。

科目名	マクロ経済 I		科目ナンバリング	BAOL32004
担当者氏名	中本 淳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 2-1 経済学的思考力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力			

《授業の概要》

この講義では、マクロ経済学の基本的な概念とモデルを学ぶことで、マクロ経済政策を評価する考え方を学んでいく。基本的には、海外との取引のない「国内経済」という簡単なモデルを想定し、財市場・金融市場・労働市場の動きと相互関係を捉えるための基本的なモデル(45度線モデル・IS-LMモデル・AD-ASモデル)と、それらのモデルにおける財政・金融政策の役割と効果について学んでいく。

《授業の到達目標》

- ・マクロ経済の基本的な指標について、相互の関連を理解しつつ捉えることができる。
- ・財政政策や金融政策がマクロ経済にどのような影響を与えるのかについて、IS-LMモデルやAD-ASモデルといった枠組みを使って論理的に説明することができる。

《成績評価の方法》

平常点(30%)＋期末テスト(70%)

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で受け付ける。

《テキスト》

伊藤元重(2012)『マクロ経済学 第2版』日本評論社

《参考図書》

福田 慎一、照山 博司(2016)『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣  
 麻生良文(2009)『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

- ・配布するレジュメを使用して、講義前に予習を行うこと。
- ・講義後は章末の演習問題を利用して、きちんと復習すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要	経済循環図を用いて、マクロ経済の捉え方の概略を理解する。
2	経済指標①GDP	GDPの定義と、三面等価の原則について説明することができる。
3	経済指標②物価指数	GDPデフレーターや消費者物価指数などの代表的な物価指数について説明することができる。名目GDPと実質GDPの違いを理解する。
4	需要と供給①	マクロ経済学における2つの考え方の違い(ケインジアンと新古典派)について概略を説明することができる。
5	財市場の分析①乗数プロセス	簡易な数値例を通して、経済の一部における生産の増加が経済全体に波及していくプロセスを説明することができる。
6	財市場の分析②45度線モデル	45度線モデルを使って、財政政策の効果が財市場に及ぼす影響を、説明することができる。
7	貨幣市場の分析①貨幣とは	貨幣とは何か、それに対する需要がどのような指標によって左右されるか、を説明することができる。
8	貨幣市場の分析②貨幣供給	信用乗数について説明することができる。
9	IS-LM分析①モデルの導出	財市場・貨幣市場の分析から得た関係を、IS曲線・LM曲線として表現することができる。
10	IS-LM分析②政策効果	IS-LMモデルを使って、財政・金融政策の効果について説明することができる。
11	IS-LM分析③応用	投資や貨幣需要の利子弾力性の大きさや、「流動性のわな」の存在などによって、IS-LM分析における政策効果がどのように変わるのかを理解する。
12	AD-AS分析①モデルの導出	IS-LMモデルからAD曲線を、労働市場の考察からAS曲線を導出することができる。
13	AD-AS分析②政策効果	AD-ASモデルを使って、財政・金融政策の効果について説明することができる。
14	需要と供給②	新古典派とケインジアンの考え方の違いが、IS-LMモデルやAD-ASモデルにおいて、どのように反映されるのかを理解する。
15	まとめ	今まで学んだモデル(45度線モデル・IS-LMモデル・AD-ASモデル)を使い、それぞれのモデルにおける政策効果を説明することができる。

科目名	現代ビジネスの実際		科目ナンバリング	BAOL22007	
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 経済学的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ◎ 3-3 キャリア形成力				

《授業の概要》

現代経済社会の実際を知るために、現代社会を理解する上での基礎知識を習得し、民間企業等で活躍している方々から経済社会の現場で起きていることを学ぶ。

現場の話は外部講師によるオムニバス形式の講義で行う。外部講師としては公認会計士、地元加古川市の企業経営者、企業の人事担当者などを予定している。また受講生には各自が一つの業界を調査し、授業で発表してもらう。

《授業の到達目標》

各講師の話を通じて、今の経済社会を実感することを目標とする。

将来の自分の姿を思い描くための助けにもなる。

《テキスト》

テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

必要に応じ、各講師から指示する。

《成績評価の方法》

(1) 毎回授業で作成するレポートによる平常点(60%)、  
 (2) 発表点(40%)により評価する。平常点では受講態度も考慮する。平常点が40点に達しない場合は、発表点に関係なく不合格とする。レポート・発表について、発表後に不足点や改善点をコメントする。

《授業時間外学習》

毎回の講義内容を振り返り、レポートを作成する。授業の後半で行うの発表の準備をする。

《備考》

第1回目のガイダンスを必ず受講すること。その際、確定した2017年度のスケジュールを配布する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の目的、注意事項、単位取得方法について述べる。現在講師のスケジュールを調整中であり、ガイダンス時に確定スケジュールを配布する。
2	キャリア設計について	講師の話により良く理解し、職業意識を高めるためにキャリア設計の基礎について理解する。
3	企業経営者	企業経営や学生時代に学んだことなどについて話を聞き、自分の意見をまとめる。
4	流通・小売業の担当者	小売業の歴史、小売業の業務について話を聞き、自分の意見をまとめる。
5	アパレル企業の担当者	アパレル企業の仕事内容と、講師が学生時代に学んだことや仕事について考えていることを聞き、自分の意見をまとめる。
6	メカニカルパーツシステム専門総合商社の担当者	専門商社の仕事内容と、講師が学生時代に学んだことや仕事について考えていることを聞き、自分の意見をまとめる。
7	建築設備エレクトロニクス総合商社の担当者	専門商社の仕事内容と、講師が学生時代に学んだことや仕事について考えていることを聞き、自分の意見をまとめる。
8	中間のまとめ 学生発表のガイダンス	これまで学んだことを振り返る。授業の14回、15回で行う業界についての学生発表に関して必要な調査や発表方法について理解する。
9	社会保険労務士	社会保険労務士の役割、仕事内容について話を聞き、自分の意見をまとめる。
10	公認会計士・税理士	大学時代の過ごし方、資格試験にむけての勉強、仕事の内容などについて話を聞き、自らの意見をまとめる。
11	加古川市役所 職員	加古川市の概要や市役所組織と業務について理解し、自分の意見をまとめる。
12	高砂市役所 職員	高砂市の概要や市役所組織と業務について理解し、自分の意見をまとめる。
13	兵庫大学 職員	大学の組織で働くとはどういうことかについて理解し、自分の意見をまとめる。
14	学生発表	金融サービス、素材資源エネルギー、社会インフラの業界について学生発表。
15	学生発表	小売・流通、生活資材・サービスの業界について学生発表。

科目名	経営戦略 I		科目ナンバリング	BAOL22008	
担当者氏名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 2-2 論理的思考力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力</li> </ul>			

《授業の概要》

消費者の意識の変化、技術の高度化、国際化の進展は、企業環境を大きく変化させている。このような環境変化のもとで企業活動を行い、成長させていくためには経営戦略が不可欠である。この授業では、基本的な経営戦略の考え方と理論を学ぶ。

《テキスト》

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎『1からの戦略論』中央経済社、2009年

《参考図書》

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年

《授業の到達目標》

- 経営戦略の本質を理解することができるようになる。
- 基本的な戦略の理論を理解することができるようになる。
- 社会や競争環境の変化に応じて戦略を考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくる（該当箇所は第1回目の授業時に提示する）。
- (2) 復習の方法：授業のノートを見返して分からない点を確認する。

《成績評価の方法》

(1) 定期試験90%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）、(2) 課題レポート作成を10%として評価する。レポートは別紙でコメントを返却する。

《備考》

連絡用のメールアドレスは第1回講義の際に伝える。当該科目を履修する上で履修しておくことが望ましい科目は「経営学」である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	シラバスを参照しながら授業の概要を理解し、経営戦略の学習意義について学ぶ。
2	戦略策定と分析単位	戦略策定に必要な概念（3C分析、SWOT分析、SBU）について理解する。
3	業界の構造分析	業界の収益性を決める5つの要因について理解する。
4	戦略グループ①	戦略グループの事例について理解する。
5	戦略グループ②	戦略グループと移動障壁について理解する。
6	基本戦略①	コストリーダーシップ戦略、経験曲線、規模の経済性について理解する。
7	基本戦略②	差異化（差別化）戦略、集中戦略について理解する。
8	事例研究	企業戦略の事例を学び、関連するテーマでレポートを作成する。
9	製品ライフサイクル別戦略①	製品ライフサイクル理論について理解する。
10	製品ライフサイクル別戦略②	製品ライフサイクル別の戦略について理解する。
11	市場地位別戦略	市場リーダー、チャレンジャ、フォロワー、ニッチャーについて理解する。
12	能力基盤の競争①	資源アプローチについて理解する。
13	能力基盤の競争②	コア・コンピタンスについて理解する。
14	事業システムの構築	事業間の連携について理解する。
15	まとめ	学習内容の振り返りを行う。

科目名	企業経営研究 I		科目ナンバリング	BAOL22010
担当者氏名	竹川 宏子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 2-4 情報処理能力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ◎ 3-3 キャリア形成力			

《授業の概要》

企業には大企業と中小企業がある。一般的な経営学では組織の複雑さや社会への影響の大きさなどの点から、大企業が取り上げられることが多いが、農林水産業以外の産業で働く人の約7割が中小企業で働いていると言われている。

そこで、この授業では私たちに身近な中小企業の特徴と日本における発展の歴史について解説する。

《テキスト》

渡辺幸男・小川正博・黒瀬直博・向山雅夫『21世中小企業論（第3版）』有斐閣、2013年。

《参考図書》

日本政策金融公庫総合研究所編『地域経済の振興と中小企業』同友館、2016年。

《授業の到達目標》

- 中小企業の特徴をつかみ、大企業との違いを理解することができる。
- 日本における中小企業が時代ごとに抱える問題を理解することができる。
- 社会における中小企業の役割と存在意義について理解することができる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：テキストの該当箇所を読んでくる（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
- (2) 復習の方法：授業のノートを見返して分からない点を確認する。

《成績評価の方法》

(1) 定期試験70%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）、(2) 中間小テスト20%、(3) 課題レポート作成を10%として評価する。中間テストはその場で自己採点し、自らの理解度を確認する。授業態度が悪い場合は減点の対象とする。

《備考》

連絡用のメールアドレスは第1回講義の際に伝える。当該科目を履修する上で履修しておくことが望ましい科目は「経営学」である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要と進め方	シラバスを参照しながら、中小企業について学ぶ意義について理解する。
2	中小企業で働くこと①	中小企業で働く人の類型を学び大企業との違いを理解する。
3	中小企業で働くこと②	働く場としての特徴について理解する。
4	企業の創業と進化①	中小企業の開業・廃業率、既存企業の活性化の重要性について理解する。
5	中小企業の多様性①	中小企業の法的概念規定について理解する。
6	中小企業の多様性②	中小企業が経済活動を行う上で有利な点、不利な点について理解する。
7	中間小テストと解説	これまでの学習内容をどの程度理解したかを確認する。
8	戦後日本の中小企業問題①	戦後復興期（1945～55年）における中小企業問題について理解する。
9	戦後日本の中小企業問題②	高度成長期（1956～73年）における中小企業問題について理解する。
10	戦後日本の中小企業問題③	減速経済期（1974～90年）における中小企業問題について理解する。
11	戦後日本の中小企業問題④	減速経済期（1991年以降）における中小企業問題について理解する。
12	事例研究	企業活動の具体的な活動を学ぶため、1つ企業を決めてその企業概要をレポートにまとめる。
13	ものづくりと中小企業①	下請取引と下請系列関係について理解する。
14	ものづくりと中小企業②	日本の工業の構造変化と中小企業の経営行動について理解する。
15	まとめ	授業内容の復習と確認を行う。

科目名	ビジネス法務		科目ナンバリング	BAOL22011	
担当者氏名	連 紗智				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 3-3 キャリア形成力			

《授業の概要》

近年、経営者側だけでなく企業の中で働く従業員側にも最低限の法知識を備えておくことが求められている。本授業では、企業と関わる社会人として最低限知っておくべき法的素養を身につけられるようにする。

《テキスト》

テキストは使用しない。プリント教材を配布する。

《参考図書》

『ビジネス実務法務検定試験 3級公式テキスト 2017年度版』（東京商工会議所）

《授業の到達目標》

- ・ビジネスの上で必要となる基礎的法律知識を理解する。
- ・ビジネス実務法務検定試験 3級が合格できる。

《授業時間外学習》

予習は必要ないが、復習として適宜『ビジネス実務法務検定試験 3級公式問題集 2017年度版』を利用すると理解が深まる。

《成績評価の方法》

- ・小テスト 40%
  - ・定期テスト 60%
- 小テスト実施後には全体講評を行い、目標到達度合の確認と共有を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ビジネスと法律のかかわり	企業活動・ビジネスに関する法律の基礎知識を説明しつつ、概略を俯瞰する。
2	権利・義務の主体	民法における意思能力・権利能力・行為能力及び代理制度の基礎を理解する。
3	会社のしくみ	法人の種類及び会社の機関の基礎を理解する。
4	ビジネスに関する法律関係	契約の基礎について学んだ上で、契約法各論について理解する。
5	取引の決済(手形・小切手等)	手形・小切手の仕組み及び役割を理解する。
6	契約によらない債権・債務の発生	不当利得、事務管理、不法行為の基礎について理解する。
7	ビジネス文書の保存・管理	ビジネス上交わされる文書や書類についての基本的なルールを学ぶ。
8	法人の財産取得・管理	民法における即時取得、債権譲渡及び登記簿の見方について学ぶ。
9	知的財産権	各種の法律のよって保護されている特許権、意匠権、商標権及び著作権について学ぶ。
10	通常の債権の管理	企業間取引の留意事項や債権が消滅する事由としての弁済・相殺等を理解する。
11	債権の担保	抵当権を中心に担保制度の基本を理解する。
12	取引に関する各種の規制	独占禁止法などビジネスをする上でどのような法規制があるのかを学ぶ。
13	従業員の雇用と労働関係	労働基準法を中心に労働法の基礎及び多様な雇用形態について理解する。
14	取引と家族関係	家族法及び相続法の基礎について学ぶ。
15	まとめ	ビジネス法務についてのまとめ

科目名	ビジネス文書		科目ナンバリング	BAOL22012	
担当者氏名	土方 直子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-3 コミュニケーション力 <input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 2-4 情報処理能力 <input type="radio"/> 3-3 キャリア形成力				

《授業の概要》

ビジネスシーンでは様々な文書の作成が求められる。ビジネス文書の作成のポイント、形式、表現方法の基本を学び、実践を通して確実に作成できるように学習する。  
 また、近年、ビジネスシーンで多用されるビジネスメールのマナー、作成方法についても取り上げる。

《授業の到達目標》

- ビジネス文書の種類、形式、作成方法を理解できる。
- ビジネス文書特有の表現方法を理解できる。
- 目的にあったビジネス文書を的確に作成できる。

《成績評価の方法》

期末試験（50％ 試験はテキスト等の持ち込み不可にて実施）  
 文書の課題提出（50％）

課題等にコメントを付して返却する。

《テキスト》

講師作成のプリントを配布する。

《参考図書》

- 『ビジネス文書実務』（石井典子・三村善美著、早稲田教育出版、2001）
- 『ビジネス文書検定ガイド3級』（財団法人実務技能検定協会編、2006）

《授業時間外学習》

- 予習：配布されたプリントのキーワードを調べておくこと
- 復習：文書作成の課題に取り組むこと（次回、提出する）

《備考》

- ペン字練習を予定しているので、書きやすい黒のボールペンを用意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ビジネス文書の基礎知識①	ビジネス文書の表記技能を学ぶ。 （漢字、送り仮名、数字、句読点など）
2	ビジネス文書の基礎知識②	ビジネス文書の表記技能を学ぶ。 （用語、書式）
3	ビジネス文書の基礎知識③	ビジネス文書の表現技能を学ぶ。 （正確な文章、わかりやすい文章、礼儀正しい文章とは）
4	ビジネス文書の種類と特徴	ビジネス文書の種類とそれぞれの特徴、作成のポイントを学ぶ。 （社内文書、社外文書、社交文書、ビジネスメール）
5	社内文書の基本①	社内文書の基本を学び、作成する。 （案内状の作成に取り組む）
6	社内文書の基本②	社内文書の基本を学び、作成する。 （通知状、依頼状の作成に取り組む）
7	社内文書の基本③	社内文書の基本を学び、作成する。 （報告書の作成に取り組む）
8	社外文書の基本①	社外文書の基本を学び、作成する。 （社外への案内状、通知状に取り組む）
9	社外文書の基本②	社外文書の基本を学び、作成する。 （注文状に取り組む）
10	社外文書の基本③	社外文書の基本を学び、作成する。 （礼状に取り組む）
11	ビジネスメールの基本①	ビジネスメールの基礎知識を学ぶ。 （ビジネスメールの特徴、メリットとデメリット、作成方法など）
12	ビジネスメールの基本②	ビジネスメールの作成に取り組む。 （実際のメール機能を利用して作成する）
13	ビジネスメールの基本③	基本のメール作成を理解したうえで、応用として複雑な内容のメール作成に取り組む。
14	封書の書き方	文書を送付する際の封筒への表記方法を学び、実践する。
15	文書の通信業務	ビジネス文書における受発信事務について基本を学ぶ。 （秘文書の取り扱い、特殊郵便、脇付けなど）

科目名	異文化理解		科目ナンバリング	BAGL22001
担当者氏名	本多 彩			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-2 グローバル・コミュニケーション力			

《授業の概要》

異なる文化間で円滑なコミュニケーションを図り協同作業を行うには、お互いの言葉を知るだけでは難しい。それぞれの考え方の元となる歴史、宗教、社会及び対人関係等、異文化に対する理解が欠かせない。本講義では、異なる文化間で相互理解を深めるという立場から、異文化とは何か、異文化を理解するとはどういうことかを考え、異文化理解のための学習を進める。異文化を理解した上でコミュニケーションのあり方も考える。

《授業の到達目標》

・円滑なコミュニケーションには文化の違いについての理解が重要であることを学び、文化の違いと理解について説明することができる。  
 ・文化の違いを理解をしたうえでのコミュニケーション方法を学び、自らの言葉で表現することができる。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

各種メディアを通して国内外で起きている出来事とその背景に注目しておこう。

《成績評価の方法》

受講態度（事前・事後学習への取り組みを含む）40%  
 レポート（各回10%×3）30%  
 学期末の報告 30%  
 をもって評価する。  
 分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	異文化理解に必要な視点について学び説明することができる。
2	宗教から見た異文化理解(1)	世界の諸宗教の価値観と多様性について学び説明することができる。
3	宗教から見た異文化理解(2)	日本の文化と宗教との関連について学び説明することができる。
4	宗教から見た異文化理解(3)	欧米の文化について学びよく考え説明することができる。
5	宗教から見た異文化理解(4)	アジア諸国にひろがる様々な文化について学びよく考え説明することができる。
6	宗教から見た異文化理解(5)	多様な文化のあり方と宗教との関連について整理し説明することができる。
7	社会構造から見た異文化理解(1)	さまざまな家族形態について学び説明することができる。
8	社会構造から見た異文化理解(2)	働くことについて特に雇用制度や働き方を中心に理解を深め説明することができる。
9	社会構造から見た異文化理解(3)	多様な社会のあり方について整理し説明することができる。
10	生活様式と習慣から見た異文化理解(1)	他国で見られる生活様式を学び日本の生活様式と比較してその違いを見つけ説明することができる。
11	生活様式と習慣から見た異文化理解(2)	習慣やものの見方について日本と海外との違いを知り説明することができる。
12	生活様式と習慣から見た異文化理解(3)	日本と海外で異なる生活様式や習慣について整理し説明することができる。
13	異文化のもとでのコミュニケーション(1)	留学に行ってみたい国、関心のある国や地域について調べてまとめ説明することができる。
14	異文化のもとでのコミュニケーション(2)	異文化コミュニケーションのあり方について整理してまとめ発表する。
15	まとめ	異文化理解について自らの考えを説明することができる。

科目名	ビジネス英語Ⅱ		科目ナンバリング	BAGS32002
担当者氏名	笹平 康弘、廣間 準一			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-2 グローバル・コミュニケーション力			

《授業の概要》

英語による自己紹介からコミュニケーション力を養成するとともに国際ビジネスで必要とされる自己表現力に加え、国際ビジネスの知識習得をする。授業はビジネス英語特有の表現を活用できる能力の育成として、履修生は英文レターやEメール等を読み、作成を実施するとともに、社会で必要とされるビジネスマナーについても習得する講座構成とする。

《テキスト》

「Present Yourself 1(2nd Edition): Experiences」 Steven Gershon著 ケンブリッジ大学出版

《参考図書》

「改訂版 日商ビジネス英語検定3級公式テキスト」日本商工会議所編

《授業の到達目標》

英語によるコミュニケーション力の基礎をつくとともに、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得やビジネスの現場や国際業務で使用する英文レターやEメールなどでのコミュニケーション手段の習熟を目標とする。さらに、英語圏での日常生活の中で出会う場面を想定し、自己紹介はもとより英語でのコミュニケーション力の上達も目標到達とする。

《授業時間外学習》

予習：英語でのプレゼンテーションは下準備が重要であるため、授業で指示された課題をもとに準備する。  
 復習：徹底した復習をする。

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：  
 ①授業参加：40%、②課題：30%、③発表：30%  
 ※フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える。

《備考》

当講座の履修者は「ビジネス英語入門」並びに「ビジネス英語I」の単位獲得者の参加が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、授業の進め方、自己紹介、評価説明等
2	英文レターの基礎 Present Yourself (PY)①	企業における英文レターの必要性とその基礎知識について知る。 プレゼン準備①：Knowing your audience; planning a presentation
3	レターフォームと句読点のスタイル; PY②	Letter Formの種類と特徴について知る。 プレゼン準備②：Developing presentation techniques
4	ビジネスレターの構成 PY③	レターペーパーの種類と余白、ビジネスレターの構成要素について知る。 プレゼン準備③：Outlining your presentation
5	句読点の後のスペースと語の文節; PY④	Punctuationの種類と使用について知る。 プレゼン準備④：第1回プレゼンテーション
6	復習 PY⑤：A Good Friend	小テストにより、これまでの理解を確認する。 プレゼン準備①：Exploring the topic
7	ビジネスマナー① PY⑥	社会人の基礎マナー（1）：ビジネスマナーの全体像を知る。 プレゼン準備②：Focusing on language
8	ビジネスマナー② PY⑦	社会人の基礎マナー（2）：身だしなみ、敬語、ビジネス会話等について理解する。 プレゼン準備③：Organizing ideas
9	ビジネスマナー③ PY⑧	ビジネスマナー・職場、社内での基礎マナー(1)：遅刻・早退・欠勤時のマナー他 プレゼン準備④：Adding impact
10	ビジネスマナー④ PY⑨	ビジネスマナー・職場、社内での基礎マナー(2)：上司同僚への挨拶、職場での態度他 プレゼン準備⑤：Developing presentation techniques
11	ビジネスマナー⑤ PY⑩	ビジネスマナー・取引先、お客様対応マナー(1)：来客への対応と接遇、名刺交換他 プレゼン準備⑥：第2回プレゼンテーション
12	ビジネスマナー⑥ PY⑪：A Favorite Place	ビジネスマナー・取引先、お客様対応マナー(2)：交渉・営業等の基礎知識 プレゼン準備①：Exploring the topic
13	ビジネスマナー：復習 PY⑫	小テストにより、これまでの理解を確認する。 プレゼン準備②：Focusing on language; organizing ideas
14	ビジネスマナー：まとめ PY⑬	ビジネスマナー全般のまとめをおこなう。 プレゼン準備③：Adding impact; outlining your presentation
15	PY⑭	プレゼン準備④：Developing presentation techniques; 第3回プレゼンテーション

科目名	ビジネス英語Ⅲ		科目ナンバリング	BAGS32003	
担当者氏名	笹平 康弘、廣間 準一				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 1-3 コミュニケーション力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 3-2 グローバル・コミュニケーション力				

《授業の概要》

英語による自己紹介からコミュニケーション力を養成するとともに国際ビジネスで必要とされる自己表現力に加え、国際ビジネスの知識習得をする。授業はビジネス英語特有の表現を活用できる能力の育成として、履修生は英文レターやEメール等を読み、作成を実施するとともに、社会で必要とされるビジネスマナーについても習得する講座構成とする。

《テキスト》

「Present Yourself 1 (2nd Edition): Experiences」 Steven Gershon著 ケンブリッジ大学出版

《参考図書》

「改訂版 日商ビジネス英語検定3級公式テキスト」日本商工会議所編

《授業の到達目標》

英語によるコミュニケーション力の基礎をつくとともに、実社会で必要とされるビジネスマナーの習得やビジネスの現場や国際業務で使用する英文レターやEメールなどでのコミュニケーション手段の習熟を目標とする。さらに、英語圏での日常生活の中で出会う場面を想定し、自己紹介はもとより英語でのコミュニケーション力の上達も目標到達とする。

《授業時間外学習》

予習：英語でのプレゼンテーションは下準備が重要であるため、授業で指示された課題をもとに準備する。  
 復習：徹底した復習をする。

《成績評価の方法》

積極的授業参加を重視し、次の項目で評価する：  
 ①授業参加：40%、②課題：30%、③発表：30%  
 ※フィードバックの方法として、上記項目に関して各自にコメントを与える。

《備考》

本講座は「ビジネス英語Ⅱ」と連動していることから「ビジネス英語Ⅱ」履修、単位取得者での継続履修が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、授業の進め方、自己紹介、評価説明等
2	ビジネス英語① Present Yourself(PY)①	英文レターで使われる一般用語、敬称等について知る プレゼン準備①：Exploring the topic ('A memorable experience')
3	ビジネス英語② PY②	英語Eメールの基礎知識(1)：Eメールの一般利用時の利点と注意点について知る プレゼン準備②：Focusing on language
4	ビジネス英語③ PY③	英語Eメールの基礎知識(2)：Eメールの書き方とビジネスEメールのルールについて知る プレゼン準備③：Organizing ideas
5	ビジネス英語④ PY④	英文ビジネスレターのサンプル：各種ビジネスレター事例をもとに学習する プレゼン準備④：Adding impact
6	ビジネス英語⑤ PY⑤	英文ビジネスFAX、Eメールのサンプル(1)：各種ビジネスレター事例をもとに学習する プレゼン準備⑤：Developing presentation techniques
7	ビジネス英語⑥ PY⑥	英文ビジネスFAX、Eメールのサンプル(2)：各種ビジネスレター事例をもとに学習する プレゼン準備⑥：第1回プレゼンテーション
8	ビジネス英語⑦：復習 PY⑦	小テストを実施し、これまでの理解の確認をする プレゼン準備①：Exploring the topic ('I'll show you how'/'Screen Magic')
9	ビジネスマナー① PY⑧	電話、メールでのマナー(1)：電話をかけるときの準備とタイミングとかけ方を知る プレゼン準備②：Focusing on language
10	ビジネスマナー② PY⑨	電話、メールでのマナー(2)：電話を受けるときの受け方・応対方法について知る プレゼン準備③：Organizing ideas
11	ビジネスマナー③ PY⑩	手紙、お礼状のマナー：ビジネスと手紙の重要性について知る プレゼン準備④：Adding impact
12	ビジネスマナー④ PY⑪	各種宴席、会議での上座・下座のビジネスマナー：タクシー、エレベーター、会議、応接室等での席配置；プレゼン準備⑤：Developing presentation techniques
13	ビジネスマナー⑤ PY⑫	その他のビジネスマナーについて知る プレゼン準備⑥：Outlining your presentation
14	ビジネスマナー⑥：復習 PY⑬	小テストを実施し、これまでの理解を確認する プレゼン準備⑦：第2回プレゼンテーション
15	まとめ	全体のまとめ

科目名	国際社会論		科目ナンバリング	BAGL22008
担当者氏名	斎藤 正寿			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-2 グローバル・コミュニケーション力			

《授業の概要》

この講義では、まるで空気のように、私たちがふだん意識することのない「近代的」な現象を、様々なトピックをとりあげ、主に歴史的アプローチを使って議論していくことで、現代の私たちの生活を相対化する視点を提供したいと思っています。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

講義の中で随時紹介する。

《授業の到達目標》

- 文化のもつ曖昧さ、凝集性、そして政治性を理解できる。
- 様々な国際的事象を理解するための思考ツールを習得できる。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。不明な点があれば、随時オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

毎回、国際的であることを意識しつつ、いろいろなトピックを用意して、諸君とゆっくりと考えてみたいと思います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	いろいろな近代
2	近代以前の世界（1）	世界がまだいくつもあった頃
3	近代以前の世界（2）	神のあたたかい眼差しがあった頃
4	近代以前の世界（3）	王様がすべての中心であった頃
5	近代の到来（1）	大航海時代のヨーロッパ
6	近代の到来（2）	キリスト教世界の拡大
7	近代の到来（3）	フランス革命の衝撃
8	近代の到来（4）	ヨーロッパ国際体系の成立
9	近代の到来（5）	資本主義の誕生
10	近代の装置（1）	近代国家、近代戦争
11	近代の装置（2）	市場、貨幣
12	近代の装置（3）	学校、監獄、病院
13	近代の思想（1）	子ども、経済人
14	近代の思想（2）	進歩、進化、差別
15	近代の思想（3）	計画、文化、博物館

科目名	国際政治学		科目ナンバリング	BAGL22009	
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 1-4 国際感覚・異文化理解力</li> <li>○ 2-5 課題発見・分析力・解決力</li> <li>◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力</li> <li>○ 3-2 グローバル・コミュニケーション力</li> </ul>				

《授業の概要》

この講義では、国際政治を国際社会での「政治」と立場から捉えて、政治学的思考に必要な概念・ボキャブラリーを学ぶことから出発し、次第に国際社会特有のアクター（国家、国民、多国籍企業、NGO等）の特徴を理解することを目標としたい。その後、現実に起こっている「国際政治」をどのような概念操作で理解することができるのかを、諸君と討論を重ねながら考えていきたい。

《授業の到達目標》

- 国際政治学の基本的概念を習得できる。
- 現代に生起する様々な国際問題の構造的な理解が可能となる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。受講して不明な点については、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	主体（1）	さまざまな国際社会のアクター
2	主体（2）	国家（1） 帝国・王国
3	主体（3）	国家（2） 中世・封建国家
4	主体（4）	国家（3） 近代主権国家・絶対主義
5	主体（5）	国家（4） 近代主権国家・国民国家
6	構造（1）	近代国際体系
7	構造（2）	勢力均衡、パワーポリティクス
8	構造（3）	相互依存、国家と世界経済
9	構造（4）	世界システム
10	事例（1）	米ソ冷戦と核兵器
11	事例（2）	ポスト冷戦
12	事例（3）	国連と地域主義
13	事例（4）	国際経済と政治
14	事例（5）	エスニシティ、民族紛争
15	事例（6）	地球環境と南北問題

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配付する。

《参考図書》

参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- （1）予習の方法：毎日の国際政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- （2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

国際政治を理解するという行為は、モデル（model）とマドゥル（muddle）の間の知的な往復運動に他ならないと私は考えています。皆さんとその知的興奮を楽しみたいと思います。

科目名	地域政策	科目ナンバリング	BARL32001
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 経済学的思考力 ◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-4 創造力		

《授業の概要》

現在、少子高齢化社会、経済格差、地域共同体意識の変容等地域社会は様々な問題を抱えている。地域社会が直面している課題とその解決策を地域活性化の視点から考える。なお、地域社会の安定した発展に必要なとされる政策について、行政の取り組みや地域住民の活動等具体的事例を取り上げ考察する。地域が抱えている課題を通して、地域活性化に有効な地域政策について理解する。

《テキスト》

『地域マネジメント戦略』、池田潔、同友館、2014

《参考図書》

『地域政策学辞典』、増田/正他編著、勁草書房、2011  
 『地域活性化マーケティング』、宮副謙司、同友館、2014

《授業の到達目標》

- 1) 地域政策について説明することができる。
- 2) 地域が抱えている問題を把握することができる。
- 3) 地域活性化について説明することができる。
- 4) 有効な地域活性化手法について理解できる。
- 5) 諸外国の地域イベント政策について理解できる。

《授業時間外学習》

- (1) 常に、現在居住地域または、出身地域が抱えている課題について関心を持ち、メモを取り、授業の討論材料とする。
- (2) 事前に配布した資料について目を通し、出された課題について調べ提出する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論等への参加とその成果20% (参加意欲および討論内容によって評価する)
  - (2) レポート課題等の提出物20%
  - (3) 定期試験60%
- 地域活性化方法について提出されたレポートにコメントを付けフィードバックをする。

《備考》

居住地域または、出身地域に関連するニュースなどの新聞記事や雑誌を多く集めること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域政策の定義	地域政策とは何かについて説明することができる。
2	地域社会の問題①	現在、地域社会が抱えている「少子高齢化の問題」について分析することができる。
3	地域社会の問題②	現在、地域社会が抱えている「経済格差の問題」について分析することができる。
4	地域社会の問題③	現在、地域社会が抱えている「地域の共同体意識の問題」について分析することができる。
5	地域活性化の定義	地域活性化について、説明することができる。
6	担い手からみる地域活性化	新たな地域活性化の担い手とその課題について考察することができる。
7	地域経済の発展と政策	地域経済の発展と政策について考察することができる。
8	地域再生事例から学ぶ	特区制度を活用した地域再生の取り組みに関する具体的な事例を取り上げ説明することで、地域再生について理解することができる。
9	まちづくり事例から学ぶ	地域自治を核とした市民主役のまちづくりに関する具体的な事例を取り上げ説明することで、まちづくり方法を提示することができる。
10	地域づくり事例から学ぶ	文化的資源と創作活動による地域づくりの高度化に関する具体的な事例を取り上げ説明することで、地域づくりのプロセスについて理解することができる。
11	地域イベントと地域政策①	地域で開催されている祭りを活用した地域活性化政策について具体的な事例を取り上げ説明する。日本のみならず、諸外国の政策についても考察する。
12	地域イベントと地域政策②	地域で開催されているスポーツイベント推進政策について具体的な事例を取り上げ説明する。大小のスポーツイベントが地域活性化に与える影響について分析する。
13	地域イベントと地域政策③	現在、注目を集めているMICE産業（会議、インセンティブツアー、コンベンション、展示会）に関する地域政策について分析することでMICE産業の重要性について認識する。
14	今後の地域政策のあり方	地域社会の安定した発展のための今後の地域政策の方向性について提示することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、今後の地域政策の方向性の提示に加え、有効な地域活性化の可能性について議論することができる。

科目名	現代の地域づくり		科目ナンバリング	BARL22002
担当者氏名	大宮 登			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ○ 2-1 経済学的思考力 ◎ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力			

《授業の概要》

元気な地域づくりの現場には、魅力的な地域リーダーがいる。だから「地域づくりは人づくり」という言葉が生まれる。本講では、地域リーダーは、どのような能力が求められるのか、どのようにすれば地域の人材は育つのか、という問題意識を持って、観光や地域連携による地域活性化の実際を様々な角度から学んでいく。また、私が実践してきた国内外のPBL活動を学び、グローバルな地域社会の担い手としての課題を理解する。

《授業の到達目標》

日本における地域づくりの成功事例を学ぶことを通じて、現代の地域社会の課題を発見し、分析し、地域課題を解決するための方法について、理論と実践の双方から学ぶ。また、大学と地域が連携した国内外のPBLの実践について、具体的に知ることによって、国際感覚・異文化理解力を高め、地域社会の担い手となることの必要性や可能性、その方向性などを学んでいく。

《成績評価の方法》

毎回の講義の振り返りペーパーの内容20%、事前課題の提出状況20%、講義への積極的な取り組み姿勢20%、試験40%の割合で評価する。小テストや振り返りペーパーに対して、必ず、フィードバックを行うとともに、必要に応じては、コメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義ガイダンス	講義のねらい、概要、スケジュール、評価方法等をガイダンスする。地域づくりとは何かについても問題提起する。
2	参加と協働のまちづくり 1	地域活性化には住民主体の参加と協働のまちづくりが基本となる。住民自治と団体自治、参加と協働のまちづくりをめぐって学ぶ。
3	参加と協働のまちづくり 2	2000年くらいからの地方分権の流れを学び、現在の人口減少社会の到来と地方創生の動きを学ぶ。
4	参加と協働のまちづくり 3	人口1万の小さな町に年間100万人の観光客が訪れる、長野県小布施町のまちづくりを学ぶ。また、IT環境の整備による徳島県神山町のまちづくりについても学ぶ。
5	参加と協働のまちづくり 4	高校の魅力化やI・Uターンを実現している島根県海士町のまちづくりを学ぶ。群馬県の高崎市や富岡市のまちづくりの実際も学ぶ。
6	地域社会の共通問題 1	地域社会の共通課題として表れている、地域コミュニティの衰退、少子高齢化、家庭や地域の教育力の衰退の問題を掴む。
7	地域社会の共通問題 2	地域社会の共通課題としての、治安の悪化の問題、環境保全の問題、地域経済や雇用問題について理解を進める。
8	プロジェクト型学習 (PBL) の実践 1	学生NPO法人DNAの活動の実際を知り、地域活性化における、自分たちの可能性について意見交換をする。
9	プロジェクト型学習 (PBL) の実践 2	食品リサイクルの活動の実際を知り、地域活性化に向けた、企業と大学の連携の可能性について意見交換を行う。
10	プロジェクト型学習 (PBL) の実践 3	留学生と市民協働の植樹プロジェクトの実際を知り、地域活性化と国際交流PBLの可能性について意見交換を行う。
11	観光によるまちづくり	これからの観光による地域活性化はどのようにすれば可能なのか。消費動向等を踏まえ、経済的な観点も含めて、考えてみる。
12	地域づくりリーダーに求められる能力	地域づくりリーダーに求められる能力の調査結果に基づき、行動力、コミュニケーション能力、意見調整力について意見交換する。
13	地域づくりリーダーに求められる能力	分権時代の自治体職員に求められる能力として、政策立案能力、法務能力、財務能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などについて、考えていく。
14	個人化社会における地域づくり	現代の個人化する社会における地域づくりや生き方について、同時に、また、経済的な視点から家族ごとの生涯賃金、職種別の生涯賃金について考える。
15	振り返り	全体を振り返り、ワークショップを行う。

《テキスト》

なし

《参考図書》

『イノベーションによる地域活性化』大宮他、日本経済評論社、2013/『地域政策学事典』地域政策研究センター、勁草書房、2011/『コミュニティデザイン』山崎亮、学芸出版社、2011/『観光政策へのアプローチ』津久井・原田編、鷹書房弓プレス、2008/『大学と連携した地域再生戦略』大宮・増田編、ぎょうせい、2007

《授業時間外学習》

事前課題のワークシートを出す。また、必要に応じて資料も配布するので、読んでくる。

《備考》

集中講義になるが、アクティブラーニングを取り入れ、参加型の形式で実施するので、コミュニケーション能力を高めることができる。意欲的に学んでほしい。

科目名	管理会計		科目ナンバリング	BARL22003	
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 2-4 情報処理能力			

《授業の概要》

管理会計は企業の内部会計と言われるように、販売価格の決定など、企業が意思決定を行う際の基本情報を内部関係者に提供することを目的とします。この授業では、管理会計の意義を説明した後、その中心的領域をなす原価計算について、工業簿記による具体的な計算を行いながら、原価計算の手法を学び、その上で損益分岐点分析の概念と具体的な計算方法を数値例を用いながら身に付けます。

《授業の到達目標》

製品の原価を把握し、戦略的企業分析ができる。  
日商簿記検定2級（工業簿記）のレベルを目指します。

《成績評価の方法》

到達度確認テスト3回と宿題の提出状況で評価します。確認テストの解答は、授業中に行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	管理会計の意義	経営責任と会計
2	財務会計と管理会計	財務会計と管理会計の相違点、類似点、競合関係
3	管理会計と工業簿記	工業簿記と管理会計の関係
4	工業簿記の基礎1	工業簿記の体系と記帳関連
5	工業簿記の基礎2	費目別計算（材料会計、労務費会計、経費会計）
6	工業簿記の基礎3	個別原価計算 確認テスト
7	工業簿記の基礎4	確認テスト解答 総合原価計算
8	工業簿記の基礎5	標準原価計算の概要
9	工業簿記の基礎6	標準原価計算と原価差異
10	損益分岐点分析	損益分岐点分析と変動費、固定費 確認テスト
11	直接原価計算	確認テスト解答 直接原価計算の意義と計算
12	原価管理1	原価企画とその手順
13	原価管理2	目標原価の設定
14	まとめと確認テスト	まとめ 確認テスト
15	確認テスト解答	確認テスト解答と職業会計人になるための今後の学び

《テキスト》

なし。

《参考図書》

授業中に、適宜指示します。

《授業時間外学習》

随時、宿題を出します。次回の授業で、解答をします。

《備考》

どのような会社においても、管理会計は使用されます。管理会計なくして合理的・戦略的会社マネジメントは不可能です。税理士、会計士の基礎科目です。

科目名	財務会計		科目ナンバリング	BARL22004	
担当者氏名	三宅 伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 論理的思考力 <input checked="" type="radio"/> 2-3 ビジネス基礎力 <input type="radio"/> 2-4 情報処理能力			

《授業の概要》

財務会計は報告書会計と言われるように、会社の利害関係者（株主、投資家、金融機関、取引先など）に会社の情報を財務諸表により伝えることを目的とします。この授業では、財務諸表（主に貸借対照表と損益計算書）の構造、作成方法などについて学ぶとともに、会計学が社会にとってなぜ必要なのかについても考えます。

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

広瀬義州「会計学スタンダード」中央経済社  
 その他は、授業中に紹介します。

《授業の到達目標》

ビジネスの言語と言われる会計学について、基礎的諸概念を理解すると共に、財務諸表が読めるようになることをねらいとします。その過程で、折に触れ、キャッシュフロー計算書、税効果会計など新しい会計概念についても説明します。

《授業時間外学習》

その日の授業に係る内容の宿題を出しますので、次回の授業時に提出してください。宿題の解答は、次回授業時に行います。

《成績評価の方法》

到達度確認テスト（3回）の状況（90%）と宿題の提出状況（10%）で評価します。確認テストの解答は次回授業時に行います。

《備考》

簿記を修めたら次にマスターすべき科目です。税理士、公認会計士、国税専門官（国家公務員）などの職業会計人を目指すためには、かならずクリアしなければならない基本科目です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	財務会計の意義と必要性	財務会計とは何か。簿記と会計学の関係
2	企業会計の基本理念	1) 一般原則 2) 企業会計の仕組み
3	損益会計	1) 収益の認識と測定 2) 貸倒引当金
4	資産会計 1	1) 資産の概念 2) 資産の評価
5	資産会計 2	棚卸資産の原価配分と利益計算
6	資産会計 3	1) 有価証券 2) 固定資産
7	資産会計 4	1) 固定資産の減価償却 2) 圧縮記帳
8	資産会計 5	1) のれん 2) ソフトウェア
9	減損会計	導入の背景と処理
10	繰延資産	繰延資産の種類と処理
11	負債会計	1) 引当金の意義 2) 退職給付会計
12	純資産会計 1	1) 純資産の意義と内容 2) 資本金、資本剰余金、利益剰余金
13	純資産会計 2	1) 合併 2) 会社分割
14	連結財務諸表	連結決算の意義と必要性、子会社、関連会社
15	復習と確認	総合演習を通じた復習と到達度の確認

科目名	食と地域	科目ナンバリング	BARL22005
担当者氏名	池本 廣希		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-1 経済学的思考力 ◎ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力		

《授業の概要》

食のグローバル化が広がる中で、食のローカル化、すなわち地域で食を確保することの意味を考え、地域で食べて生きることの意義やこれからの食と地域のあり方について考える。

本授業は、「地産地消」の実践を軸に「食と農の連携」「食の地域ブランド」「食と地域おこし」「食と環境」などについて展開していく。

《授業の到達目標》

「食べる」ということとは何なのか？どこまでその意味を掘り下げることができるか？食をどうして地域の伝統・文化・祭り・儀礼・風習等、その地域の生産様式や生活様式までかかわっていることを理解し、地域おこしや地域ビジネスに応用できる展望を政策化できる力を高めることを目標とする。

《成績評価の方法》

授業中の課題提出物評価(50%)  
 「地域における食ビジネス展望」のプレゼンテーション(50%)

レポートにはコメントをつけて返却する。

《テキスト》

プリントと視聴覚教材

《参考図書》

「食べるということ」小泉武夫著  
 「里山資本主義」藻谷浩介著  
 「農山村は消滅しない」小田切徳美著  
 「地域に希望あり」大江正章著  
 「地産地消の経済学」池本廣希著

《授業時間外学習》

自慢できる郷土料理や家庭料理のルーツを調べ、自分を育てた地域の「地産地消」「旬産旬消」について情報収集しておくこと。

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	講義の目的と課題と方法
2	講義1	「食べるということ」について—食と地域—
3	講義2	「食と地域」の問題の所在
4	講義3	これからどうする「食と地域」(1)
5	講義4	これからどうする「食と地域」(2)
6	講義5	これからどうする「食と地域」(3)
7	講義6	これからどうする「食と地域」(4)
8	講義7	これからどうする「食と地域」(5)
9	地域からの報告	食と農の実践報告(1) —外部講師
10	地域からの報告	食と農の実践報告(2) —外部講師
11	地域からの報告	食と農の実践報告(3) —外部講師
12	地域からの報告	食と農の実践報告(4) —外部講師
13	食と地域の展望1	水田稲作は飢えと地球温暖化を救う!
14	食と地域の展望2	食と地域をつなぐ『健康長寿プラン21』
15	食と地域の展望3	食を軸としたこれからの地域づくり

科目名	観光学入門		科目ナンバリング	BARL22007
担当者氏名	李 良姫			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-4 国際感覚・異文化理解力 ○ 2-1 経済学的思考力 ◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力			

《授業の概要》

観光は、観光客、観光地、観光産業、観光協会等観光振興組織の4つの存在があって成り立っている。授業では、この3つの関係を明らかにし、社会における観光の位置づけを探る。また、観光の意義と経済効果について解説し、観光資源の種類と地域における利活用について具体的事例を取り上げ考察する。これらの学びを通して、地域における観光の役割と可能性について理解を深める。

《テキスト》

『観光学基礎』 JTB総合研究所、2014

《参考図書》

『観光学への扉』井口貢編著、学芸出版社、2008  
 『着地型型 地域が主役のツーリズム』尾家建生・金井萬造編著、2008

《授業の到達目標》

- 1) 観光現象について関心を持つ。
- 2) 観光が果たす経済的、社会的意義を知る。
- 3) 観光産業について理解する。
- 4) 地域の観光資源を発見する。
- 5) チームワーク能力を高める。

《授業時間外学習》

(1) 旅行代理店や駅の構内に配置してある観光パンフレット等の観光関連資料を多く集め、観光の仕組みについて理解しておく。(2) 地域の資源に関心を持ち、観光資源になりうる地域の資源を見つける。(3) 事前に配布した資料について目を通し、出された課題について調べ提出する。

《成績評価の方法》

(1) グループ発表20% (参加意欲および協力度、発表内容によって評価する) (2) レポート課題等の提出物20% (3) 定期試験60%  
 旅行商品や地域資源の観光資源化について出されたレポートにコメントを付けフィードバックをする。

《備考》

小人数でグループを作り、地域の観光資源を調べ、発表する。地域の宝を発見する意義に加え、チームワーク力向上のためのトレーニングが目的である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	観光の定義と用語	観光とは何か、なぜ観光をするのかについて理解し、観光関連用語を説明することができる。
2	観光の歴史と変遷	世界の観光の歴史が理解でき、マスツーリズムから持続可能な観光へ変遷した要因及び過程を説明することができる。
3	観光の意義	観光客が観光をする意義を考察し、観光がもたらす経済・社会効果などについて国や地域の立場から提示することができる。
4	観光の構成要素①	旅行代理店・宿泊業・交通業の仕組みを説明することができる。
5	観光の構成要素②	旅行代理店・宿泊業・交通業の仕組みを説明することができる。
6	観光開発の影響	観光開発による観光地や伝統文化への影響について提示することができる。
7	地域資源の観光化	既存の地域資源のみならず、新たな資源を発見し、地域の観光資源として定着させる方法を探ることができる。
8	観光プレゼンテーション①	全ての地域資源は観光資源になりうる。地域の観光資源を探し出し、観光資源化させる方法を提示する。また、プレゼンテーション能力を高める。
9	観光プレゼンテーション②	全ての地域資源は観光資源になりうる。地域の観光資源を探し出し、観光資源化させる方法を提示する。また、プレゼンテーション能力を高める。
10	地域における観光の役割	地域の観光現状を通して、地域住民の共同体意識の向上や地域活性化などの観光の役割について説明することができる。
11	着地型観光の実践	観光地の住民が観光商品をプロデュースする着地型観光の取り組みの具体的な事例から、今後の観光のすすめ方について提示することができる。
12	MICE産業と観光①	観光客集客に有効である、MICE産業について理解でき、誘致・企画・運営の業務について説明することができる。
13	MICE産業と観光②	観光客集客に有効である、MICE産業について理解でき、誘致・企画・運営の業務について説明することができる。
14	今後の観光のあり方	地域貢献、環境保護、伝統文化の保存など観光が持つ社会的な役割を認識した上で、今後の観光のあり方について考察することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。

科目名	ミクロ経済Ⅱ	科目ナンバリング	BAPL22001
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-1 経済学的思考力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力		

《授業の概要》

ミクロ経済学は、市場のはたらき、資源配分のメカニズムを分析するための手法である。「ミクロ経済Ⅱ」では、一般均衡分析の基礎理論を学び、経済学的考え方を身につけることを目標とする。基礎的な概念からしっかりと勉強し、市場の働きについての理解を深め、身近な経済問題について経済学的に考察するための基礎的な力を養う。

《授業の到達目標》

- ・一般均衡分析の基本的な考え方（予算制約の下での効用最大化、比較静学分析、費用最小化行動など）を理解する。
- ・ミクロ経済学の基礎理論を用いて、価格の変化が消費者行動に及ぼす影響など身近な問題について考察できるようになる。
- ・市場経済の特徴、市場の働きについて理解し、説明できるようになる。

《成績評価の方法》

平常点（授業時の課題への取り組み、事前学習・事後学習への取り組み状況など）と学期末のテストをもって評価する。評価の割合は、平常点30%、学期末のテスト70%とする。授業時の課題や宿題などの提出物については、コメントを付して返却するとともに、授業時に解答・解説を行う。

《テキスト》

伊藤元重著『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社、2003年。

《参考図書》

N.G. マンキュー著・足立英之他訳『マンキュー 入門経済学（第2版）』東洋経済新報社、2014年。  
 ピンダイク&ルビフェルド著・姉川知史監訳『ミクロ経済学Ⅰ』中経出版、2015年。  
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- 《事前学習》  
次週の授業内容を事前に伝えるのでテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- 《事後学習》  
授業内容を振り返るとともに、演習課題に取り組むこと。

《備考》

経済理論を理解するためには、基礎からの積み重ねが重要である。質問は随時受け付けるので、わからないことをそのままにせず、理解に努めよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方について説明する。 一般均衡分析とはどのようなものか、部分均衡分析との違いについて説明する。
2	消費者行動の理論 (1)	無差別曲線の基本的な性質について学ぶ。(テキスト第5章 pp.126-138)
3	消費者行動の理論 (2)	予算制約のもとでの効用の最大化について考察する。(テキスト第5章 pp.138-146)
4	消費者行動の理論 (3)	所得の変化、価格の変化が需要に及ぼす影響について無差別曲線と予算制約線を用いて分析する。(テキスト第6章 pp.148-155)
5	消費者行動の理論 (4)	価格の変化がもたらす2つの効果(所得効果と代替効果)について考察する。 (テキスト第6章 pp.155-166)
6	労働供給に関する分析	賃金の変化が労働供給に与える影響について分析する。(テキスト第6章 pp.166-174)
7	生産と費用 (1)	生産関数について学ぶ。(テキスト第7章 pp.176-183)
8	生産と費用 (2)	等量曲線と等費用曲線を用いて生産要素の価格の変化が生産方法に与える影響について分析する。(テキスト第7章 pp.184-188)
9	生産と費用 (3)	等量曲線と等費用曲線を用いて費用最小化行動について考察する。 (テキスト第7章 pp.189-196)
10	生産と費用 (4)	企業の利潤最大化行動について考える。(テキスト第7章 pp.196-204)
11	一般均衡と資源配分 (1)	交換の利益について、無差別曲線を用いて分析する。(テキスト第8章 pp.208-212)
12	一般均衡と資源配分 (2)	ボックスダイアグラムを用いて効率的な資源配分(パレート最適)について考察する。 (テキスト第8章 pp.212-215)
13	一般均衡と資源配分 (3)	生産活動における資源配分について、等量曲線と等費用曲線、ボックスダイアグラムを用いて分析する。(テキスト第8章 pp.216-223)
14	一般均衡と資源配分 (4)	比較優位の理論について学び、自由貿易の経済効果について考察する。 (テキスト第8章 pp.223-228)
15	学習のまとめ	これまでの学習内容を振り返り、理解度を確認する。

科目名	マクロ経済Ⅱ		科目ナンバリング	BAPL22002
担当者氏名	中本 淳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 2-1 経済学的思考力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 3-1 経済・社会の動きを見る力			

《授業の概要》

この講義では「マクロ経済Ⅰ」で学んだことを土台として、マクロ経済学の諸概念や政策効果をより深く・広く身につけていく。①「マクロ経済Ⅰ」で登場した、財政政策や金融政策が、現実においてはどのように実施されているのか、②国内だけでなく為替レートの変動などの海外の要因も考慮した場合に、財政・金融政策の効果をどう評価するのか、等について理解を深めることで、政策効果を評価する力を身につけていく。

《授業の到達目標》

- ・財政政策や金融政策がどのように行われているかについて、概略を説明することができる。
- ・財政政策や金融政策がマクロ経済にどのような影響を与えるのかについて、マンデル=フレミング・モデルの枠組みを使って論理的に説明することができる。

《成績評価の方法》

平常点(30%)＋期末テスト(70%)

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で受け付ける。

《テキスト》

伊藤元重(2012)『マクロ経済学 第2版』日本評論社

《参考図書》

福田 慎一、照山 博司(2016)『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣  
 麻生良文(2009)『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

- ・配布するレジュメを使用して、講義前に予習を行うこと。
- ・講義後は章末の演習問題を利用して、きちんと復習すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要	IS-LMモデル・AD-ASモデルの復習 今後の流れ
2	財政政策①	日本の財政の基本的構造について説明することができる。
3	財政政策②	国家の財政破綻という現象について説明することができる。
4	財政政策③	日本の財政再建目標と、その実現可能性について議論することができる。
5	金融政策①	貨幣の信用創造メカニズムについて説明することができる。
6	金融政策②	金融政策がどのように実施されるのかを説明することができる。
7	金融政策③	インフレとデフレが起こる要因や、その社会的コストについて説明することができる。
8	金融政策④	物価指標の推移を確認し、これまでの金融政策を評価する。
9	労働市場	失業率等の指標の定義や、日本の労働市場の特徴の変遷について説明することができる。
10	国際経済①	為替レートが国際金融市場でどのようにして決まるのかを説明することができる。
11	国際経済②	為替レートの決定要因にどのようなものがあるか、について説明することができる。
12	国際経済③	また為替レートの変化が経済にどのような影響をあたえるかについて説明することができる。
13	国際経済④	海外の動きを加えた場合に、マクロ経済Ⅰで学んだ45度線モデルやIS-LMモデルがどのように変化するかを説明することができる(マンデル=フレミング・モデル)。
14	国際経済⑤	マンデル=フレミング・モデルを使って、財政政策や金融政策の効果を評価することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認する。

科目名	統計学 I	科目ナンバリング	BAPL32003
担当者氏名	高野 敦子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ○ 2-4 情報処理能力		

《授業の概要》

ビジネスにおいて、統計手法を用いたデータ分析はますます重要性が高まっています。大量のデータ処理が可能になったこと、社会や経済が複雑化して直感だけでは意思決定が難しくなったこと、競争の激化によって徹底した効率化が求められるようになったことなどが理由として挙げられます。そのような背景を踏まえて、統計処理の考え方や手法を実践的に学びます。

《授業の到達目標》

(1) ビジネスにおける統計学（データ分析）の重要性を理解できる。(2) 具体的なビジネスのシーンに対して、仮説生成、データ収集、データ処理、仮説検証、意思決定などの流れに沿ってデータ分析の考え方、陥りやすい誤りを理解することができる。(3) ウェブサイトや統計アプリケーションを使って、データの入手、データの種類と特徴に応じた統計手法を用いることができる。

《成績評価の方法》

平常点（毎回の課題）を40%、期末試験を60%の割合で評価します。ただし、課題に対するコメントを必要に応じて返します。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業時間外学習》

毎回、授業内報を定着させるための演習課題に事後学習として取り組んでもらいます。

《備考》

客観的なデータを用いて論理的に考え意思決定する態度を身に付けましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会における統計学	客観的なデータを用いた意思決定の重要性を豊富な具体事例を用いながら考察する。
2	統計学の歴史	統計学の歴史を振り返りながらその考え方の基礎を学ぶ。インターネットの普及による統計学の役割の変化を考える。
3	課題解決におけるデータ分析の役割	課題解決の流れの中でのデータ分析の意味を学ぶ。
4	統計グラフと質的データの要約	度数分布表による要約、グラフの作成方法を統計アプリケーションを活用して実践的に学ぶ。
5	量的データの要約	度数分布表とヒストグラム、データのばらつきの表し方を統計アプリケーションを活用して実践的に学ぶ。
6	相関分析	相関分析方法を統計アプリケーションを活用して実践的に学ぶ。
7	回帰分析	回帰分析を用いた予測方法を統計アプリケーションを活用して実践的に学ぶ。
8	標本調査	標本調査の考え方を統計アプリケーションを活用して理解する。
9	経済統計	経済データの統計処理を統計アプリケーションを活用して実践的に学ぶ。
10	時系列データ	時系列データの特徴、視覚的な表現方法を統計アプリケーションを活用して実践的に学ぶ。
11	アンケート調査	アンケート調査とその分析の考え方を統計アプリケーションを活用して実践的に学ぶ。
12	公的データ 1	公的データの種類と入手方法を学ぶ。
13	公的データ 2	公的データの分析事例を学んで活用方法を考える。
14	データの可視化	統計処理の結果を活かすために効果的な可視化方法を学ぶ。
15	まとめ	ここまでの学びをまとめ、ビジネスにおけるデータ分析の今後を考える。

科目名	統計学Ⅱ		科目ナンバリング	BAPL22004
担当者氏名	高野 敦子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 多様なものの見方、考え方</li> <li>○ 2-3 ビジネス基礎力</li> <li>◎ 2-4 情報処理能力</li> <li>○ 3-1 経済・社会の動きを見る力</li> </ul>			

《授業の概要》

私たちの生活の中で統計学がどのように使われているかを「生命保険」や「迷惑メールフィルタ」の仕組みなど具体的な例を使って学びます。さらに、社会経済において、実際のデータを用いた経済分析における統計学の活用方法を学びます。SPSSやRなどの統計解析ソフトウェアを使って実際のデータを処理することにより、理解を深めます。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

データ分析の意味を理解し、統計ツールを駆使してデータを適切かつ効果的に可視化することができるようになります。また、分析結果を生活やビジネスの場において活用できるように実践的な応用力を身につけることができます。

《授業時間外学習》

定期的に授業外で取り組んでもらう課題を出します。その課題を通して、実践力を養ってください。

《成績評価の方法》

毎回の授業で行う確認テストと課題及び学期末に行う試験で評価します。評価点は、平常点（毎回の課題）を20%、期末試験を80%の割合とします。確認テストはその場で採点し、期末試験に対するコメントは必要に応じて返します。

《備考》

多くのデータに接して、「統計的」センスを磨きましょう。そして、日ごろからデータを単なる数字の並びと見るのではなく、その奥にある現象をみつめる習慣をつけましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	統計調査と統計資料	統計調査の方法について理解し、統計資料のつくり方、読み方を修得する。
2	データの可視化	実際のデータを用いて、統計アプリケーションを使ったグラフ化の手法を修得する。
3	データを大まかにとらえる	実際のデータを用いて、平均と分散・標準偏差を求め、全体像のつかみ方を修得する。
4	相関関係と因果関係	実際のデータを用いて、散布図を描き相関係数を求めて、相関関係と因果関係について理解する。
5	回帰分析	単回帰分析、重回帰分析を行い、データを用いた予測方法を修得する。
6	標本調査と正規分布	標本調査の考え方を復習し、正規分布モデルについて理解する。
7	仮説検定	仮説検定の用い方を修得する。
8	時系列分析	実際のデータを用いて、時系列データの分析手法を修得する。
9	データの分類	クラスター分析の方法を取得する。
10	ベイズの定理	ベイズ定理を理解し、迷惑メールフィルタのしくみを理解する。
11	統計的意思決定方法	「損失」の考え方を理解し、意思決定手法を修得する。
12	ビッグデータの解析	ビッグデータの解析例を学び、解析の概要を理解する。
13	オープンデータの活用	オープンデータを理解し、体験する。
14	生命表と保険	生命表と保険の仕組みを理解する。
15	まとめ	実社会におけるデータ分析の活用方法について考える。

科目名	行政と社会		科目ナンバリング	BAPL22005
担当者氏名	木下 準一郎			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力 ○ 3-3 キャリア形成力			

《授業の概要》

行政学の理論や概念を説明し、行政に関する基礎的な知識や考え方について講義を行う。

《テキスト》

『初めての行政学』伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔、有斐閣、2016

《参考図書》

『行政学教科書』[第2版]村松岐夫、有斐閣、2003  
 『講座 行政学』（全6巻）西尾勝・村松岐夫編、有斐閣、1995

《授業の到達目標》

教科書の記述を理解できる。行政の活動や行政が抱える問題を理解できるようになる。

《授業時間外学習》

テキストの指定された箇所を読んだ上で出席していることを前提として講義を進めるので、該当ページをあらかじめ読んでおくこと。

《成績評価の方法》

小テストを1回（40%）と定期試験（60%）を実施します。採点後にそれぞれコメントを付けて返却します。分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業計画および成績評価方法の説明、公務員試験受験に関する特別指導について
2	報告と討論および講義	行政とは何か
3	報告と討論および講義	大きくなる政府の役割
4	報告と討論および講義	行政学という学問について
5	報告と討論および講義	新しい行政の見方
6	報告と討論および講義	国と自治体を動かす仕組み
7	報告と討論および講義	行政組織
8	報告と討論および講義	公務員制度
9	小テスト	2～8週までの学習範囲について小テストを行う予定。
10	報告と討論および講義	変貌する日本の行政
11	報告と討論および講義	行政活動をデザインする
12	報告と討論および講義	法律と条令
13	報告と討論および講義	予算編成
14	報告と討論および講義	行政と社会のインターフェース
15	授業のまとめ	授業のまとめと今後の課題について

科目名	現代社会と法		科目ナンバリング	BAPL22006
担当者氏名	藤田 憲一			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力 ◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力			

《授業の概要》

まず、法の目的は何か、法の解釈はどのように行うべきかを学び、次に法の規律する生活場面ごとに分けて、国家と法、犯罪と法、家族生活と法、財産関係と法、労働と法、生活保障と法、国際社会と法などを考察の対象とし、現代社会の中で法の果たしている機能を明らかにしていく。

《テキスト》

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門 第4版』有斐閣双書

《参考図書》

テキストに掲載されている参考文献リストを活用してほしい。また、授業の中でも、文献・資料を紹介する。

《授業の到達目標》

法律学についての基礎的な事項を全般的に学習し、現代社会において起っている法的な事象に関して、これを分析し自ら評価を下すことができる能力を養う。

《授業時間外学習》

授業の進度に合わせてテキストを読んでから授業に出席すること。また、授業後には復習して、まとめのノートを作成すること。

《成績評価の方法》

小テスト（40％）と期末テスト（60％）によって評価する。

※小テストについて、個人ごとに成績グラフを作成し配布する。また、分からないことは授業中にも質問を受け付ける。

《備考》

授業に出席し、意欲的に、また旺盛に学んでほしい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法と社会生活、法と道徳、法と強制、法の目的、権利と義務について学ぶ。
2	法と裁判	具体的事件への法の適用、裁判制度、訴訟手続きの原則、強制執行について学ぶ。
3	裁判の基準（法源）	制定法、慣習法のほか、判例、学説、条理などが裁判の基準となりうるかどうかについて学ぶ。
4	法の解釈	事実認定と法の適用、法の解釈の性質、法の解釈の方法について学ぶ。
5	法の分類	公法と私法の二分論、実定法の体系、法典について学ぶ。
6	国家と法	国家と憲法の関係、日本国憲法の基本原理について学ぶ。
7	犯罪と法（1）	犯罪と刑法の関係、刑法の果たす機能について学ぶ。
8	犯罪と法（2）	犯罪の成立要件、刑事手続について学ぶ。
9	家族生活と法	家族法の基本原則、婚姻と離婚・親子・扶養・相続の法的枠組みについて学ぶ。
10	財産関係と法（1）	財産法の基本原則、取引の主体、取引の客体について学ぶ。
11	財産関係と法（2）	取引の手段としての契約と、不法行為による損害賠償について学ぶ。
12	労働と法・生活保障と法	社会権を実現するための労働保護法・労働団合法・社会保障法について学ぶ。
13	国際社会と法	条約や国際慣習法による国家間の法的な権利義務関係について学ぶ。
14	人権と国際法	国際人権法と、その実現のための組織と方策について学ぶ。
15	戦争・平和と国際法	憲法の原則の平和主義を国際関係の中でどう実現していくか、国際法の見地から学ぶ。

科目名	民法		科目ナンバリング	BAPL22007	
担当者氏名	豊福 一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 主体的に学び考える力 ◎ 2-2 論理的思考力 ○ 2-3 ビジネス基礎力			

《授業の概要》

日常生活（就職後の会社での生活を含む）において、問題となりそうな典型的事例をテーマ毎に解説していきます。いずれも法律相談で寄せられることの多い内容です。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

特に指定しない。適宜講義時に紹介。

《授業の到達目標》

日常生活を送る上で最低限必要な法律的知識の習得。

《授業時間外学習》

特に指定しない。

《成績評価の方法》

レポート評価。

《備考》

※授業到達目標に対し講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代日本の法制度	日本の法制度の概観と今後の講義テーマの概略。
2	学生と法律（1）－貸借関係	住居を借りる際の賃貸借契約の内容。
3	学生と法律（2）－売買取引	物を第三者から購入する際の法律関係。
4	学生と法律（3）－労働関係	就職の前後を通じた雇用契約についての法律関係。
5	法律行為と契約の成立	法律行為の定義、契約が成立する過程。
6	所有権	所有権の内容とその限界（近隣居住者との利害調整を含む）。
7	所有権の変動	所有者が変わる場合の法律関係。
8	不動産登記制度	主に所有権が変動する場合に関連する日本の登記制度の概要。
9	婚姻・離婚・養子縁組	離婚する際に生じる法律問題を概説。
10	後見制度	主に高齢化による判断能力の低下した者の権利擁護の制度。
11	相続（1）	相続人の範囲、法定相続分、相続の承認・放棄等の基本的知識。
12	相続（2）	遺言の作成方法や遺産分割協議の流れ。
13	民法の適用に関して、手形・小切手	民法が適用される場合（外国人が関係する場合）、その他約束手形の仕組み。
14	民法の特別法－商法・会社法	株式会社の仕組み。
15	民法と関連する諸法	民法の適用時に合わせて問題となる法律の概要。

科目名	経済政策		科目ナンバリング	BAPL32008
担当者氏名	中本 淳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 2-1 経済学的思考力 ○ 2-2 論理的思考力 ○ 2-5 課題発見・分析力・解決力 ◎ 3-1 経済・社会の動きを見る力			

《授業の概要》

この講義では、戦後の日本経済の推移と日本経済の現状や課題についてデータや新聞記事等を用いながら説明を行い、ミクロ経済学やマクロ経済学で学んだ標準的な経済分析の応用も交えながら、これまでの経済政策を評価するとともに、あるべき経済政策を考えていくことを目的とする。複雑な経済現象を理解・評価する上で、必修で学んだ経済理論が有用であることを実感してもらいたい。

《授業の到達目標》

- ・日本経済の過去・現在・未来における課題について理解し、今後必要とされる経済政策について標準的な経済理論を使って説明できるようになる。
- ・時事的な経済ニュースや経済関連の論説について、歴史的・理論的な知識や考え方にもとづいて、批判的に検討することができるようになる。

《成績評価の方法》

平常点(30%)＋期末テスト(70%)

分からないことは、授業中およびオフィスアワー等で受け付ける。

《テキスト》

なし(HPを通じて講義資料を配布する)

《参考図書》

浅子和美・篠原総一編(2015)『入門・日本経済 第5版』有斐閣  
 井堀利宏(2003)『経済政策』新世社  
 岩田規久男・飯田泰之(2006)『ゼミナール 経済政策入門』日本経済新聞社

《授業時間外学習》

各テーマ毎に出題される問題を、自分でまとめていくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の概要と方針について説明し、経済政策の考え方について講義する。
2	政策評価の視点	経済政策を評価するための視点や、評価基準間のトレードオフについて理解する。
3	日本経済の軌跡①	高度成長期から安定成長期に至る軌跡とその過程における政策課題について理解する。
4	日本経済の軌跡②	バブル期の経済状況と政策課題について理解する。
5	日本経済の軌跡③	バブル崩壊後から90年代後半における経済状況と政策課題について理解する。
6	日本経済の軌跡④	2000年前後の構造改革から現在に至る軌跡と、その過程における政策課題について理解する。
7	日本経済の軌跡⑤	アベノミクスの中身と、現状における評価について、経済指標を確認しながら講義する。
8	日本経済の課題①	日本の財政の概要と課題について理解する。
9	日本経済の課題②	日本の社会保障制度の概要と課題について講義する。
10	日本経済の課題③	日本の農業の現状について説明し、農業政策の課題・展開について講義する。
11	日本経済の課題④	日本型の企業システムの特徴と、それを取り巻く環境の変化について講義する。
12	日本経済の課題⑤	日本的雇用システムの特徴と、それを取り巻く環境の変化について講義する。
13	日本経済の課題⑥	日本の所得格差の現状と、それに伴う経済的な課題について講義する。
14	日本経済の課題⑦	地域間格差の現状と要因について説明し、地域経済活性化に関する今後の動向について講義する。
15	まとめ	いままでの学習内容を整理する。

《教職に関する科目》

科目名	発達心理学	科目ナンバリング	BTAL52003
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

人間の生涯にわたる発達のプロセスを理解することを目的として授業を展開する。受胎の瞬間から始まり、死をもって終結する人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。発達の障がいに関する基礎知識について理解することも目的とする。

《授業の到達目標》

- 発達心理学の基礎的事項について十分に理解すること。
- 人間の生涯にわたる発達のプロセスを正しく理解すること。
- 発達障がいに関する正しい知識・理解の仕方を習得すること。

《成績評価の方法》

定期試験の評価100%

※質問等があれば授業中、授業前後、オフィスアワー等で受け付ける。

《テキスト》

使用しない。授業時にプリントを配布し、プリントの内容に即して講義を進める。

《参考図書》

- 『発達心理学で読み解く保育エピソード』  
若尾良徳・岡部康成（編著） 北樹出版 2010
- 『図で理解する発達～新しい発達心理学への招待』  
川島一夫・渡辺弥生（編著） 福村出版 2010

《授業時間外学習》

担当教員が作成・配布したプリントを用いて講義を進めるが、各自で要点をノートにまとめるなどして、知識の定着と理解の深化に努めてもらいたい。また、参考図書としてあげた図書を参照しつつ、講義で取り上げた事柄について各自で理解を深めることも期待する。

《備考》

受講学生には大学生として常識ある受講態度を求める。授業に出席するだけでは単位の取得は困難であると心得ておこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発達心理学への導入	発達心理学では何をどのような目的のもとに学ぶのかを解説する。授業の進め方と評価の仕方についてシラバスをもとに確認する。
2	人間発達を理解する	人間が発達するとはどういうことなのか、発達のイメージを明確にする。人間発達の多面性について学ぶことになる。
3	発達をささえる遺伝と環境	人間発達の規定因は何かという問いについて、遺伝と環境という2つの観点から答えを探っていく。
4	胎児期から新生児期にかけての発達	胎児期の発達の特徴について、特に母体内環境の重要性に焦点を当てつつ学ぶ。新生児に秘められた数々の能力についても学ぶ。
5	新生児期から乳児期にかけての発達	赤ちゃんに生まれつき備わっている様々な特徴と生後1年までの赤ちゃんの発達について学ぶ。
6	乳児期から幼児期にかけての発達～その1	乳幼児期における発達の特徴について、母子関係を切り口として学ぶ。愛着をキーワードとした学びになる。
7	乳児期から幼児期にかけての発達～その2	乳幼児期における発達の特徴について、言語発達と遊びに焦点を当てて学ぶ。
8	幼児期の発達	幼児期における発達の特徴について、注目獲得行動とセルフ・コントロールに焦点を当てて学ぶ。
9	幼児期から児童期の発達	幼児期から児童期にかけての知的発達について、ピアジェの理論をもとに学ぶ。
10	児童期の発達～その1	児童期の発達について、人間関係の観点から学ぶ。
11	児童期の発達～その2	児童期の発達について、学習に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。
12	青年期の発達	青年期の発達について、アイデンティティの確立をキーワードにして学ぶ。
13	成人期の発達	成人期の発達に関して、親としての成長ならびに中年期危機に焦点を当てて学ぶ。
14	発達のつまずき～その1	発達障がいに関する基礎的事柄について学ぶ。
15	発達のつまずき～その2	LD、ADHD、自閉スペクトラム症について学ぶ。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論		科目ナンバリング	BTAL42006	
担当者氏名	古田 薫、廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程の編成と実施にあたっては、教育課程の構造と基礎的な編成原理、および基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解しておく必要がある。本授業は、これらの理解を深め、教育課程編成における教師の役割の重要性について考察することを目的とする。教育課程の理論的な枠組や主要論点を整理し、教育課程の実際と、新学習指導要領の要点、現代的課題についての理解を深める。

《授業の到達目標》

- 教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
- 学習指導要領の内容と法的性格について理解している。
- 学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
- 児童生徒の個人差のとらえ方と教育課程編成における個人差の取り扱いについて理解している。
- 学習指導案の書き方を理解し、目的に応じた指導案を作成することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
  - ②課題の提出と完成度 30%
  - ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- ※提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之（編著）『はじめて学ぶ教育課程論（仮題）』ミネルヴァ書房、2016年  
『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年

《参考図書》

『高等学校学習指導要領』文部科学省、2008年  
田中耕治（編）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年

《授業時間外学習》

参考資料を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育課程とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性について理解を深める。
2	学校教育の目的・目標と 教育課程	・教育行政における教育課程の位置づけ ・教育課程の法的性格
3	学力観と学習指導要領の 変遷①	・学習指導要領の変遷とその背景（戦後～1970年代）
4	学力観と学習指導要領の 変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景（1980年代～現在）
5	教育課程の管理と運営	・学校における教育課程の管理・運営の実際
6	カリキュラムの構造と類 型	・カリキュラムの歴史、さまざまなカリキュラムの類型とその特徴
7	教育課程における個人差 の取り扱い	・個人差とは、個に応じた指導とは ・個人差と教育課程
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。 ・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。
9	学習指導案の書き方	・指導案の構成と作成手順 ・作成上の留意点
10	小学校教育課程の構成	・小学校教育課程における教授内容や課題を具体的に探究する。 ・総合的な学習の時間について教育内容の構成と実施について考察する。
11	中学校教育課程の編成	・中学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
12	高等学校教育課程の編成	・高等学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
13	教科書制度	・教育課程における教科書の位置づけ ・教科書の無償措置および検定制度
14	諸外国の教育課程	・各国の教育課程に関する制度と実情
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論	科目ナンバリング	BTAL42009		
担当者氏名	砂子 滋美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		履修カルテ参照			

《授業の概要》

学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する。また実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得を目的とする。①わが国の特別活動の歴史と変遷について ②特別活動の意義と目的について ③学習指導要領における特別活動の位置づけについて ④他の教育領域との関わりについて等を中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解する。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(60%)、授業態度(20%)、ミニレポート(20%)により評価する。

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい特別活動-理論と実践』 (ISBN978-4-623-07258-3) ミネルヴァ書房 2015年

《参考図書》

文部科学省 『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』 2012年、『教育人間学的視座から見た「特別活動と人間形成」の研究』大学教育出版 2009年、広岡義之編著 『新しい特別活動論』創言社 2009年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートの整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特別活動全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動と学習指導要領の変遷。特活への期待	戦後特別活動の実施の経緯と発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。特別活動の充実が学校生活の満足度に関係することを理解する。
3	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説・分析し理解する。
4	特別活動と学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
5	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)Ⅰ	特別活動における学級活動・ホームルームの位置づけ、内容を説明し、その特徴を明確にする。
6	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)Ⅱ	学級活動・ホームルームの学級内の組織づくりや仕事の分担処理の方法を理解する。
7	児童会・生徒会活動と学習指導要領	児童会・生徒会活動の内容を解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことを理解する。
8	学校行事(儀式的行事)について	儀式的行事の内容と意義を理解し、これらの行事の課題について考える。
9	文化的行事について	文化的行事の内容と特徴を理解し、教科指導と特別活動との関連を明確にする。
10	健康安全・体育的行事について	健康安全・体育的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
11	旅行・集団宿泊的行事について	旅行・集団宿泊的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
12	勤労生産・奉仕的行事について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を理解し、これらの行事の課題について考える。
13	特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	指導計画作成や内容の取り扱いについて理解し、入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取り扱いを明確にする。
14	特別活動学習指導案作成	学級の児童・生徒の様子から、題材を設定し学習指導案を作成し、本時のねらいを達成する授業展開を考える。
15	講義全体のまとめをする	特別活動はいつの時代にも、常に学校生活の基礎として重要な役割を果たしていることや特別活動の充実が学校生活の満足度に深く関わっている等を振り返る。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	BTAL42010
担当者氏名	吉永 潤		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本講義では、学習者が能動的に参加するような授業を展開するための基本的な方法・技術を学ぶ。特に、学習者の思考を触発し、教科内容の本質に迫らせる問いや課題を設定する方法と、その問い・課題をめぐる学習者の考え・意見の交流を支援する方法、および、そのような学習を評価する方法が軸となる。

《テキスト》

特に指定しない。必要に応じてワークシートを配布する。

《参考図書》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する』東信書房、2015年。

《授業の到達目標》

①授業が、教科内容伝達の場合だけでなく、学習者の思考と試行錯誤の場合であることが理解できる。②そのような授業の展開のためには的確な方法・技術が必要であることが理解できる。③ペーパーテストのみに依存しない多様な観点での学習者評価の意義と方法が理解できる。④以上を踏まえた学習指導案を作成できる。⑤開発した学習指導案につき、相互に適切に評価・批評し合うことができる。

《授業時間外学習》

集中講義は4日を予定しているが、2日目の最後に4～5名のグループを編成し、各グループで一つの学習指導案を開発することを課題とする。このため、授業時間外に各グループで、またはグループ内個人で分担して教材研究、授業の流れの設計、評価方法の考察などを行う。授業4日目には、開発した授業案につき各グループのプレゼンテーションを行う。

《成績評価の方法》

評価方法は、①各授業最後に実施する小レポート、②グループ作成の学習指導案、③最終レポートによって行う。評価割合は①20%、②30%、③50%。小レポートには、質問を記載することもでき、次時に回答を行う。また、各グループの学習指導案プレゼンテーションの後に講評を行う。

《備考》

講義3、4日目は特に、学習指導案作成のグループワークを中心としたアクティブ・ラーニング形式となるため、受講生各自の積極的な参加を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	受講者各自の小中高段階での授業体験を交流し、各自の現在の授業観・学習観を確認する。
2	授業づくりの基本的な考え方	授業＝話を聞く場との基本的授業観の問題性を確認し、授業を学習者の思考と試行錯誤の場として再認識する。
3	授業目標の定立	授業目標の定立のためには、①教科内容に関する知識と理解形成の観点と、②それをめぐる学習者の思考の技能や知識活用の技能の形成、の2観点が必要である。
4	学習を触発する問い・課題の構成	授業づくりの核となるのは、教科内容の本質に迫るとともに、学習者の解明意欲をかきたて、結果として学習者各自の意見を持たせる問いや課題の構成である。
5	学習を多面的に見取る評価	ペーパーテストは知識、理解の修得を事後的に評価するのに適するが、授業内における学習者の思考の展開や課題解決行動の評価を行うには、別の評価観点と方法を要する。
6	授業事例の視聴1	「授業の中で学習者がめざましく成長する」ことを実感するため、優れた授業の事例を視聴する。
7	授業事例の視聴2	上記視聴を継続する。
8	視聴した授業の考察とその交流	視聴した授業に関して、小グループごとに、教師の方法・技術の観点から分析を行い、その考察結果を発表・交流する。
9	学習指導案の開発1	本講義これまでの内容を踏まえ、小グループごとに学習指導案の作成に着手する。本時は、開発する授業について学校種、教科、単元を相談の上定める。
10	学習指導案の開発2	本時は、グループごとに、開発する授業の目標、核となる教材の構成、それをめぐる問い・課題の開発、および、学習者の思考内容を交流させる方法の定立を行う。
11	学習指導案の開発3	本時は、グループごとに、開発した授業における学習者の評価基準と評価方法を定立する。
12	学習指導案プレゼンテーション1	開発した学習指導案の発表を行う。授業目標、核となる教材の教科学習上の意義、学習者の予想される思考内容、それを交流させる方法、および学習評価の方法を発表する。
13	学習指導案プレゼンテーション2	上記発表活動を継続する。
14	学習指導案プレゼンテーション3	各グループの発表後、それぞれの指導案につき、評価点と批評点を出し合い、相互評価を行う。
15	総合考察・まとめ	参加者は、受講開始時の授業観を振り返り、本講義によって得た学習内容を整理、報告し、それをめぐる交流を行う。その後、授業を総合的に振り返り、まとめを行う。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論	科目ナンバリング	BTAL42011
担当者氏名	新井野 久男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%), レポート(40%), その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

授業の最後に提出する小レポートにコメントを記して、次の授業時に返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。